

神戸大学 文学部・大学院人文学研究科

2019年度（平成31年～令和元年）度

# 年次報告書

神戸大学文学部・大学院人文学研究科 評価委員会編

2020年（令和2年）



# 目次

はじめに	i
------	---

## 第1部

I. 教育（文学部）	1
I-1. 文学部の教育目的と特徴	1
I-2. 教育の実施体制	4
I-3. 教育内容	8
I-4. 教育方法	14
I-5. 学業の成果	19
I-6. 進路・就職の状況	25
II. 教育（人文学研究科）	26
II-1. 人文学研究科の教育目的と特徴	26
II-2. 教育の実施体制	29
II-3. 教育内容	34
II-4. 教育方法	43
II-5. 学業の成果	49
II-6. 進路・就職の状況	55
III. 研究（文学部・人文学研究科）	57
III-1. 文学部・人文学研究科の研究目的と特徴	57
III-2. 研究活動の状況	59
III-3. 競争的外部資金の獲得状況	61

## 第2部

I. 外部資金による教育研究プログラム等の活動	66
I-1. 運営費交付金機能強化経費：実践型グローバル人材育成事業	
「日本語教育・日本研究を中心とした実践型グローバル人材育成事業」	66

I-2. 科学研究費補助金基盤研究 (S) (研究代表者：奥村弘、課題番号：26220403) 「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」及び 特別推進研究 (研究代表者：奥村弘、課題番号：19H04547)「地域歴史資料学を 機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」	69
II. 部局内センター等の活動	70
II-1. 海港都市研究センター	70
II-2. 地域連携センター	72
II-3. 倫理創成プロジェクト	80
II-4. 日本文化社会インスティテュート	84
II-5. ESD コース (持続可能な開発のための教育コース)	85
III. 社会貢献	87
III-1. 公開講座	87
III-2. 高大連携	88
第3部	
I. 外部評価	90
I-1. 外部評価委員会	90
I-2. 外部評価報告書	91

# はじめに

大学院人文学研究科長・文学部長  
奥村 弘

この報告書は3部構成になっています。第1部は人文学研究科および文学部の教育と研究、第2部は外部資金による教育研究プログラム等の活動と、部局内センターおよびインスティテュートの活動、第3部は外部評価委員による評価です。さらに加えて、各教員の教育・研究・社会貢献等に関わるプロフィールを附しています。第3期中期目標・中期計画期間(平成28年度～令和3年度)中、第2期の6年間に毎年出してきた年次報告書の体裁を大きく変えず、人文学研究科および文学部の教育研究活動に関する基礎資料を収集して自己評価を行っています。また毎年実施している外部評価でのご指摘に基づき、正確なデータを掲載し、学外者にもわかりやすい記述にすることに努めました。

文学部は、その前身である文理学部成立以来、2019年度で70周年を迎えました。その創設にあたっては、敗戦後、新たな市民社会形成が求められる中で、基礎的な学問の探求とそれを通じて養われる科学的精神の育成を通して、日本社会が世界的な文化水準に達することが必要であるとの理念が掲げられました。

現代社会の中で、この理念は更に深められ、その重要性を増しています。国連は、2015年に持続可能な開発目標(SDGs)を具体的な行動指針として設定し、その中で、「人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする」ことを2030年までの具体的な目標として設定しています。このように、文化のもつ重要な価値が国際的に共有されており、そこに関わる人文学の役割もますます重要になっています。

人文学研究科は、このような現代社会の動向を踏まえ、70周年を契機に、人文学の教育研究のための新たな視座を得るため、70周年記念の連続企画を進めてきました。「表現手段としてのマンガ」の持つ多様な役割をテーマとした昨年度のシンポジウムが『MANGA』—人文学研究の新展開—として刊行することができました。7月には、神戸大学・北京外国語大学との共同シンポ「中国・日本・東アジア1989～2019—〈平成〉の内と外—」を開催、11月日には、北京大学・復旦大学との国際シンポジウムを進めました。さらに阪神・淡路大震災25年を迎える中で、2020年2月に「地域歴史遺産を未来につなぐために—阪神・淡路大震災と、地域の取り組みから考える—」を行い、各研究領域においても全国レベルの研究集会を次々と展開してまいりました。2019年8月から神戸新聞紙上での、本学部の教員による大型連載「21世紀の人文学—危機の時代を共に生きるために」も好評で、2年間の長期連載となりました。また「神戸大学文学部・大学院人文学研究科創立70周年記念

事業募金」により、本学部・研究科で培われた人文学の知を社会に発信していくための書籍出版助成制度の形成の目処も立ち、学生により良い学びの場を提供するために、人文学の基礎となる図書・資料等の充実も可能となりました。

あらたな教育・研究の展開の一方で、文学部・人文学研究科の教育研究環境は厳しさを増しています。神戸大学では2016年10月から教員組織と教育研究組織が分離され、2017年4月からはポイント制が導入されて、人事のあり方が大きく変わりました。ポイント制が導入される際に、それまで保有していたポストをポイントに換算した数に一定の係数をかけて削減したものが部局に配分され、そこからさらに5%分のポイントを学長裁量枠ポイントとして供出しなければならず、合計で569ポイント減となりました。これは教授5名と講師1名分にあたり、実質的に6名の定員削減となったことを意味します。このような事態に対処するために、平成30年度から、新規採用教員については、退職後2年半をあけて講師・助教として採用することと基本方針と致しました。

新型コロナウイルスによる教育研究環境が極めて厳しくなっている現在、これまで以上に質の高い教育と研究の成果が求められる状況において、本報告書が、人文学研究科・文学部の未来を展望していくものとして活用されることを期待しています。

# 第1部

## I. 教育（文学部）

### I-1. 文学部の教育目的と特徴

文学部は、人類の長い歴史の中で培われてきた豊かな知的遺産に学びつつ、現代世界で生起するさまざまな現象にも新鮮な関心を持ち、両者の相互参照を通じて新しい世界認識の基盤を構築することを目指す「場」である。以下に本学部の教育目的、組織構成、教育上の特徴について述べる。

#### I-1-1. 教育目的

- 1 文学部は、広い知識を授けると共に、言葉と文化、人間の行動、歴史や社会に関する教育研究を行い、人間文化および現代社会に対する深い教養、専門的知識、柔軟な思考能力、豊かな表現能力を有する人材の育成を目的とする。そして、こうした人材が、磨かれ鍛えられた能力を十分に生かして、積極的に社会に貢献することを目指している。
- 2 このような教育目的を達成するために、現行の中期目標では、「教育憲章」に掲げた、「人間性」、「創造性」、「国際性」及び「専門性」を身に付けた個性輝く人材を養成し、「豊富な研究成果を活かして、社会の変化を先導し、個人と国際社会が進むべき道を切り拓く高度な知識・能力を有する、次世代の研究者をはじめとした多様な人材の養成に努め、教育の更なる高みを目指す」ことを定めている。
- 3 神戸大学全学のディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえ、人材育成の基本となる文学部 DP およびカリキュラム・ポリシー（CP）を平成27年度に作成し、令和元年度に改訂した《資料 I-1-1・I-1-2》。

#### 《資料 I-1-1：神戸大学文学部ディプロマ・ポリシー（DP）》

##### 神戸大学文学部ディプロマ・ポリシー

神戸大学文学部は、人類の文化的営みの蓄積としての人文学を、古典を通して深く理解するとともに、社会的対話によりそれを実践して行く能力を身につけ、現代社会において活躍できる人材を育成することを目的としている。また、徹底した少人数教育により、個々の学生の好奇心に応え、自ら問題を設定し、解決するスキルを学生に伝授することを目的としている。

この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士（文学）

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、文学部は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上（卒業論文を含む）を習得すること。卒業論文の単位取得のためには、指定の期日までに卒業論文を提出し、卒業論文試験に合格することを要する。

・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

- 「人間性」
  - ・人文学に関わる課題について自ら主体的に学び、協働して解決することができる能力
- 「創造性」
  - ・人文学の意義と重要性を理解し、複眼的に思考することで、人文学の発展に貢献することができる能力
- 「国際性」
  - ・異なる文化によって育まれた多様性を理解・受容し、必要な外国語でコミュニケーションをはかる能力
- 「専門性」
  - ・自らの好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことを通じて、人文学の幅広い知識を獲得する能力
  - ・人類の知的営みの蓄積である古典を通じた人文学共通の問題・課題についての理解力
  - ・文化・言語・学域の壁を越えた意思疎通および連携を可能にする社会的対話力
  - ・固有の学問的課題を知の普遍的課題に位置づける深い洞察力

### 《資料 I-1-2：神戸大学文学部カリキュラム・ポリシー（CP）》

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、文学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
2. 人類の文化的営みの蓄積としての人文学を、古典を通して深く理解するとともに、社会的対話により、それを実践することを通じて人文学的素養を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目及びその他必要と認める科目を開設する。
  - ・自らの好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積み、幅広い知識を身につけることができるように初年次セミナー、専門科目基礎科目、高度教養科目を開設する。
  - ・人類共通の叡智の蓄積である古典を通して人文学共通の問題・課題を発見できる理解力を身につけることができるように専門科目基礎科目、専門科目、グローバル科目を開設する。
  - ・文化・言語・学域の壁を越えた意思疎通および連携を可能にする社会的対話力を身につけることができるように専門科目、ESD科目、グローバル科目を開設する。
  - ・固有の学問的課題を知の普遍的課題に位置づけられる洞察力を身につけることができるように卒業論文、卒業論文関連科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学修などを適宜組み合わせる。学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

### I-1-2. 組織構成

上記の教育目的を実現するために、文学部は《資料 I-2》のような組織構成をとっている。人文学の古典的な学問領域である哲学、文学、史学を学ぶ3講座と人間的知識と感性をシステムとして捉える知識システム講座、社会文化に関わる問題をフィールドワークを通して深めていくことを目指す社会文化講座を置き、徹底した少人数教育によって専門的能力を陶冶することに重点を置いた教育課程を編成している。

### 《資料 I-2：組織構成》

学 科	講 座	専 修
人文学科	哲学	哲学
	文学	国文学、中国文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学
	史学	日本史学、東洋史学、西洋史学
	知識システム	心理学、言語学、芸術学
	社会文化	社会学、美術史学、地理学

### I-1-3. 教育上の特徴

- 1 文学部では、① 初年次に大学における人文学の基礎を学び、② それを踏まえて《資料 I-2》の15専修から1つを選び、2年次からその専修において少人数教育により専門的能力を鍛え、③ 各専修内の複数の専門分野で自身の関心を絞り込み、卒業論文を書きあげる。文学部では特に、学部教育の集大成として卒業論文の作成を重視し、1～2年間の指導期間を設定している。
- 2 文学部は、少人数教育による課題探究能力の開発を重視している。具体的には、個別の主題を掘り下げる「特殊講義」などのほか、数人から十数人で行う「演習」が専修ごとに豊富に用意されている。「実験」や、フィールドワークを含む「実習」も同じく少人数で実施される。これらの授業において共通の文献や資料を精読し、さらに自分で選択したテーマについて研究報告を行い、互いに議論をして深め合うことで、学生は各専門の研究姿勢・基礎知識・研究方法および研究倫理等を習得する。それと同時に、自ら課題を発見し、解決する能力を磨く。
- 3 文学部は、平成23年3月にオックスフォード大学東洋学部と学術交流協定を締結し、「神戸オックスフォード日本学プログラム」(略称 KOJSP=Kobe-Oxford Japanese Studies Program)として、平成



24年10月からオックスフォード大学東洋学部日本学科2年生全員を受入れている《資料I-3》(<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/graduate/kojisp.html>)。これはユニット受入れ型のプログラムであり、文学部とオックスフォード大学東洋学部との間の綿密な連絡・連携のもとに実施されており、派遣元から高い評価を受けるとともに、その交流は全学の取り組みに寄与している《資料I-4》。オックスフォード大生は午前中に日本語の授業を受講し、午後は文学部の様々な授業を他の学生と受けている。全員が参加する「KOJSP 演習」では、各自が自由に課題を選び、指導教員や学生チューターとともに日本の諸相についての研究を進め、その成果をプログラム修了時の発表会で披露することになっている。「KOJSP 演習」で選んだ課題をオックスフォード大学での卒業論文とする学生も少なくない。彼らの学習・生活面でのサポートを文学部の学生チューターが担うなど、世界最高レベルの学生とともに勉学し、学生生活を送ることで、文学部の日本人学生に対しても大きな影響を与えており、勉学に対する意識を高め、国際的な視野を獲得することに貢献している《資料I-5》。平成25年度からはハートフォード・カレッジにて夏季英語講習が神戸大学文学部と共同で実施されており、毎回20名前後の神戸大学生がオックスフォード大学で学んでいる。また、平成24年度からはじまった文部科学省グローバル人材育成推進事業「問題発見型リーダーシップを発揮できるグローバル人材の育成」の一環として「グローバル人文学プログラム」を実施している (<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~global/index.html>)。これらの事業を中心に、文学部ではグローバル教育の一層の活性化を図っている。

《資料I-3：神戸オックスフォード日本学プログラム留学生数》

年 度	所属大学名	出身国	奨学金	期 間
平成29 ～令和 元年度	オックスフォード大学 (7名)	連合王国 (6名) 中国(1名)	JASSO(連合王国5名、中国1名)	28年10月1日～29年7月31日
	オックスフォード大学 (10名)	連合王国 (7名) 日本・アメリカ(1名) 中国(1名) スロバキア (1名)	JASSO	29年10月1日～30年7月31日
	オックスフォード大学 (10名)	連合王国 (8名) フィンランド (1名) ポーランド (1名)	JASSO 及び 神戸大学基金	30年10月1日～1年8月6日
	オックスフォード大学 (15名)	連合王国 (12名) アイルランド (1名) ポーランド (1名) ルーマニア (1名)	JASSO	1年10月1日～2年8月3日

《資料I-4：文学部のリードによって進むオックスフォード大学との交流》

神戸大学 HP に掲載されたニュースから抜粋：  
 ○このプログラム (KOJSP) は、オックスフォード大学東洋学部日本語専攻の2年生全員が1年間を神戸大学文学部で学習するという、ユニット受け入れ型のプログラムです。  
 ○(武田廣学長一行)はオックスフォード大学副学長 Louise Richardson 教授を訪問し、オックスフォード大学側から東洋学部長Ulrike Roesler 教授、日本学科長・元東洋学部長Bjarke Frellesvig 教授と国際戦略室のCraig Morley 氏が懇談に参加しました。リチャードソン副学長が神戸オックスフォード日本学プログラムによる学生の受入に対して感謝を表明するとともに、オックスフォードと日本の交流事例を紹介しました。また、留学の重要性、日本の学生に留学を勧める方法等、活発な議論が行われました。  
 ○「一行はフレスビッグ教授とレイネル博士によるハートフォードカレッジのキャンパスツアーに参加しました。フレスビッグ教授主催のランチミーティングでは神戸オックスフォード博士研究員フェローシップという神戸大学の人文学研究科がオックスフォード大学の若手研究者を受け入れる新しい取組について活発な協議が行われました。この訪問は両機関の強力な関係を再確認する有意義な契機になりました。今後オックスフォード大学との更なる連携が期待されます。」  
 (参照：[http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2018\\_11\\_09\\_02.html](http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2018_11_09_02.html))

《資料 I-5 : KOJSP に関するオックスフォード大学生及び本学部チューターの声》

神戸大学文学部 HP から抜粋 ([http://www.lit.kobe-u.ac.jp/let/pdf/0802\\_LET2020.pdf](http://www.lit.kobe-u.ac.jp/let/pdf/0802_LET2020.pdf)) :

○オックスフォード大学生:「このプログラムを通して、日本語の授業に出るだけでなく、日本の学生と一緒に文学部の講義にも参加しています。また、4月から受講している「KOJSP 演習」では、「相撲は近代スポーツか」という、自ら選んだ論文テーマに取り組んで自らの研究を進めています。」

○ KOJSP チューター:「留学生と会話をするなかで日本の文化についてはもちろんですが、日本語そのものについて改めて考えることが増えました。自分と同世代の留学生の眼から見た世界に触れることが自分のなかで大きな経験になっていることを日々実感しています。」

I-2. 教育の実施体制

I-2-1. 基本的組織の編成

文学部では、学生1人1人の好奇心を、現代の人文学の学問的状況に即して問題化し検証する訓練を積むことで、人間文化に対する幅広い知識と深い洞察力を身につけた社会人及び研究者を育成するという目的を達成するために、1学科(人文学科)を設け、その下に学問分野の観点から5大講座を置いている《資料 I-2 (2頁)》。教育組織の編成については、社会動向及び学問動向を勘案した上で専門性に応じた適切な教育を実施するために適宜見直しており、現行の1学科制は平成13年度に3学科(哲学科、史学科、文学科)から再編統合して新たに設置したものである。

教員の配置状況は、《資料 I-6》及び《資料 I-7》のとおりである。教育の単位となる15の専修にはそれぞれ専任教員が配属され、演習・特殊講義・概論・入門・人文学基礎といった主要な科目を担当している。非常勤講師に担当を依頼している授業は、各専修の専任教員でカバーしきれない分野と、学芸員・教員などの免許・資格に関するものに限定されている。100名(平成28年度以前の入学生は115名)の入学定員に対し専任教員は44名であり、大学設置基準が要求する専任教員数を十分に確保している。

《資料 I-6 : 教員の配置状況 令和元年5月1日現在》

学科	収容定員	専任教員数 (現員)											助手		非常勤教員数	
		教授		准教授		講師		助教		計						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	総計	男	女	男	女
人文学科	430	19	3	16	7	1	2	0	1	36	13	49	0	0	21	16

《資料 I-7 : 専修別教員数 令和元年5月1日現在》

専修	教授	准教授	講師	専修	教授	准教授	講師	専修	教授	准教授	講師
哲学	1	3	0	フランス文学	2	0	0	言語学	2	0	0
国文学	3	2	0	日本史学	2	1	0	芸術学	1	1	0
中国文学	1	0	0	東洋史学	1	3	0	社会学	1	3	0
英米文学	1	2	0	西洋史学	1	2	1	美術史学	1	1	0
ドイツ文学	1	1	0	心理学	2	1	0	地理学	1	2	0

入学者の選抜については、全学的な理念を踏まえながら文学部として求める学生像(アドミッション・ポリシー)を定め《資料 I-8》、大学入試センター試験利用による基礎学力判断の後、個別学力試験では「国語」「外国語」「数学」(前期)、「外国語」「小論文」(後期)を課すことにより、理解力、読解力、語学力、問題解決能力、論理的思考力、表現能力などを総合的に判定することとしている。

学生定員と現員の状況については《資料 I-9》、専修別の学生数(平成29~令和元年度)は《資料 I-10》

の通りである。在籍学生数は毎年学生定員を若干超過しているが、その数は、標準卒業年限を超える学生を含めて学生定員の115%以下であり、適正範囲であると考えられる。

《資料I-8：求める学生像（アドミッション・ポリシー）》

<p><b>神戸大学が求める学生像</b></p> <p>神戸大学は、世界に開かれた国際都市神戸に立地する大学として、国際的で先端的な研究・教育の拠点になることを目指しています。</p> <p>これまで人類が築いてきた学問を継承するとともに、不断の努力を傾注して新しい知を創造し、人類社会の発展に貢献しようとする次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進取の気性に富み、人間と自然を愛する学生</li> <li>2. 旺盛な学習意欲をもち、新しい課題に積極的に取り組もうとする学生</li> <li>3. 常に視野を広め、主体的に考える姿勢をもった学生</li> <li>4. コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重する学生</li> </ol>
<p><b>文学部が求める学生像</b></p> <p>文学部では、人間がつくり上げてきた文化に対する好奇心を高め、多様な角度から人間存在の深みに光をあてる教育研究を行っています。各自の好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことで、人文学の幅広い知識と深い洞察力を身につけた人を育成することを目標にしています。そのために、次のような学生を求めています</p> <p>●文学部の求める学生像</p> <p>みずみずしい感受性と想像力を持っている学生          [求める要素：思考力・判断力・表現力、関心・意欲]</p> <p>言葉や文化、人間の行動、歴史や社会に対する幅広い関心と好奇心を持っている学生          [求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲]</p> <p>基礎学力、とりわけ論理的思考力、日本語および外国語の読解力・表現力、情報リテラシーをそなえている学生          [求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力]</p> <p>既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、探求していくことができる学生          [求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲]</p> <p>※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容</p> <p>「国語」：文章を読み解く力。的確に表現する力。          「地歴・公民」：幅広い視野と総合的な知識。様々な社会現象を分析し捉える力。          「数学」：数学的に思考し、表現する力。          「理科」：自然を科学的に理解する力。          「外国語」：外国語の読解力と表現力。外国語によるコミュニケーション能力。</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>以上のような学生を選抜するために、文学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜を実施し下記の要素を測ります。</p> <p>一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。          「志」特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。          私費外国人（留）学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。          第3年次編入学試験では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。</p>

《資料I-9：学生定員（収容定員）と現員の現況：各年度12月1日現在》

学科	年度	収容定員	現員	定員充足率 (年)
（人文学科 1学科のみ）	平成29年度	445	500	112%
	平成30年度	430	457	106%
	令和元年度	415	473	114%

《資料 I-10：専修別の学生数（令和元年度）》

	2年	3年	4年		2年	3年	4年		2年	3年	4年
哲学	9	4	9	フランス文学	4	6	3	言語学	5	6	9
国文学	11	11	25	日本史学	11	9	8	芸術学	6	8	10
中国文学	2	0	6	東洋史学	2	3	3	社会学	17	18	19
英米文学	8	5	18	西洋史学	8	4	9	美術史学	7	8	9
ドイツ文学	4	5	7	心理学	11	12	13	地理学	1	6	4

I-2-2. 教育内容、教育方法の改善に向けた取組み

文学部では、1年次生を対象として、少人数ゼミ、オムニバス形式の講義、専門分野ごとの入門科目を開講しており、専門的知識の修得と共に、広い人文学的な視座の獲得が可能となっている。

教育の実施体制を点検し改善していくため、評価委員会を置き、授業評価アンケートの実施など、教育に関わる評価作業を行うだけでなく、教員の教育方法及び技術の向上を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」と略称）を開催している。文学部のFDは、平成23年度からは評価委員会が中心となり、教務・学生の2委員会の協力を得て行っている。また、学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観・評価（ピアレビュー）を定期的実施し、その結果は、FDにおいて評価委員長から報告され、今後のカリキュラム編成や授業方法の改善のために活用するとともに、中期目標の実現に向けた教育課程の改善が図られている《資料 I-11》《資料 I-12》。さらに、毎年度、評価報告書を作成し、独自に外部評価を受け、達成点と改善点を的確に把握し、それを教員・職員間で共有することに努めている《資料 I-13》。

こうした活動を通して、個々の科目の授業内容を改善することはもちろん、カリキュラム構成や授業方法等の改善も頻繁になされており、たとえば、グローバル化に対応した授業として「グローバル人文学プログラム」に加えて、神戸オックスフォード日本学プログラムで受け入れているオックスフォード大学の学生が受講する授業等も展開されている。

《資料 I-11：平成29～令和元年度のFD実施状況》

開催日	テーマ	参加者数
平成29年5月24日	「中国における日本語教育と北京日本学研究中心・神戸大学間のダブルディグリープログラムについて」	50
平成29年6月14日	「アカデミック・ライティング指導の意義 ー早稲田大学の取り組みからー」	51
平成29年7月12日	「中東欧と日本：国際交流基金ブダペスト日本文化センターの活動報告」	45
平成29年9月6日	文部科学省事業「地（知）の拠点大学による地方創成推進事業（COC+）」について	41
平成29年12月20日	平成29年度ピアレビュー結果の検討について	48
平成30年7月25日	オックスフォード大学日本学における“神戸オックスフォード日本学プログラム”の役割と意義	43
平成30年9月19日	科学研究費助成事業説明会	46
平成30年9月28日	人文学研究科向け科研費若手研究への申請のポイント	32
平成30年11月14日	今後の入試のあり方について	50
平成30年12月19日	ピアレビュー・学修の記録および振り返りアンケートの実施結果および今後の検討について	53
平成31年3月6日	神戸大学出版会について	50

平成31年4月22日	日本学術振興会特別研究員DC申請のための申請書の書き方セミナー	5
平成31年4月24日	オックスフォード大学における文理融合研究：ウェルカム・ユニットを事例として	47
令和元年7月27日	ピアレビューの実施結果及び今後の検討について	49
令和元年9月26日	科研費セミナー「大型科研費の応募に向けて」	44
令和元年9月29日	令和元年度文学部及び大学院人文学研究科の外部評価	17
令和元年10月2日	人文学研究科向け科研費若手研究への申請のポイント	9
令和元年11月27日	Struggles for academic freedom	47
令和2年1月22日	卒業生・修了生アンケートの実施結果について	51
令和2年3月5日	JSPS 特別研究員（学振DC）の制度概要及び獲得に向けた申請書の書き方・準備について	48

#### 《資料 I-12：令和元年度 ピアレビュー実施結果 抜粋》

<p>(1) 実施期間 前期（第2Q） 2019年6月24日（月）～28日（金）</p> <p>(2) 授業参観を行った教員数 36名 ※ 69%の参加率（休職中の教員を除く全教員数：52名）</p> <p>(3) 参観を受けた授業数 1名の参観者：13      2名の参観者：5      3名以上の参観者：4 ※ 講義科目のみを授業参観の対象科目としている。</p> <p>(4) 授業参観レポートの集計結果</p> <p>1. 授業改善上、参考になった項目（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 説明のしかた・・・・・・・・・・・・・・・・ 29</li> <li>○ 配布資料・板書などの視覚資料・・・・ 19</li> <li>○ 学生とのインタラクション・・・・・・ 10</li> <li>○ TAの使い方・・・・・・・・・・・・・・ 3</li> </ul> <p>2. 自由な感想の主な内容（特に参考になった点）</p> <p>○授業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校教科書の説明の問題点を指摘する。</li> <li>・ 日常の素朴な疑問から授業を始めることでテーマへの関心を高めていた。</li> <li>・ 内容が非常によく整理され、文学・芸術・思想が一体化したものと伝えられていた。</li> <li>・ 身近な話題を提供することで、とっつきにくいテーマに興味をわくよう工夫されていた。</li> <li>・ 哲学的なテーマを具体的な事例で説明しており参考になった。</li> <li>・ 当該分野の諸理論間の関係が、わかりやすい例を用いて解説されていた。</li> <li>・ 非常にハイレベルの内容が、周到に準備された資料にもとづき講義されていた。</li> <li>・ 著名な作家の作品への言及などで学生の関心を喚起していた。</li> <li>・ 説明対象の歴史的な位置づけ、時代背景など多面的な解説が参考になった。</li> </ul>
---

#### 《資料 I-13：平成29～令和元年の外部評価実施状況》

実施日	外部評価委員
平成29年6月26日	中畑正志（京都大学大学院文学研究科・教授）
平成30年6月10日	佐々木徹（京都大学大学院文学研究科・教授）
令和元年9月29日	大国正美（株式会社神戸新聞社取締役） 栄原永遠男（大阪歴史博物館館長）

## I-3. 教育内容

### I-3-1. 教育課程の編成

文学部では、ディプロマポリシーにおいて、学生が修了までに達成を目指す目標として、次の3点を挙げている。1) 各自の好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことで、人文学の幅広い知識と深い洞察力を身につける、2) 人文学共通の問題・課題を、人類の知的営みの蓄積である古典を通じて理解する、3) 文化・言葉・学域の壁を越えた意思疎通および連携を可能にする社会的対話力を身につける。これらを実現するために、以下のような教育課程を組んでいる。

教育課程は、「専門科目」及び「専門科目以外の科目」で構成されている。「専門科目以外の科目」は、「全学共通科目」である教養原論、外国語科目、情報科目、健康・スポーツ科目及び「資格免許のための科目」から成り、多様な授業科目を開講すると共に教育職員免許及び学芸員資格を取得するために必要な授業科目を提供している。「専門科目」は、演習と講義形式による概論、特殊講義を中心に構成され、多彩な研究領域に対応する多様な内容、形態の授業科目が置かれている。また、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、韓国語、ラテン語、古典ギリシア語の外国語科目のほか、専門科目を学ぶにあたって必要となる語学力を涵養する授業も開講されている。以上の形で、幅広い知識と深い洞察力を身につけることができるようにしている。

文学部では、新入生全員を対象とした導入教育として、1年次前期に5つの講座がそれぞれ入門の講義を行うと共に、「人文学導入演習」を複数開講し、今後の教育に必要とされる基本的な視座や研究・学習方法の基礎を実践的に身につけさせている。また、平成28年度より「初年次セミナー」を実施し、神戸大学生・及び文学部生として身につけておくべき初歩的知識の修得をめざしている。さらに、1年次後期には15の専修がそれぞれ開講する「人文学基礎」においてより具体的かつ専門的な研究内容を学ぶ授業を提供している。文学部の学生は、このようにして人文学の基礎を学び、人文学共通の問題と課題を理解し、それを踏まえて15専修の中から1専修を自ら選び、その専修において、徹底した少人数教育をとおして専門的能力を陶冶し、さらに、各専修内に複数ある専門分野の中で自身の関心を絞り込んで卒業論文を作成することになっている。

「専門科目」の内容としては、例えば、「西洋史演習」では、フランス語論文を精読することで文献読解力の向上をはかると共に学生間の議論をとおして問題探求能力を高めることを目指した。このような授業は古典理解をとおして人文学的課題を考える良い例である。

文学部の教育方針を明確化するため、平成18年度には履修モデルケースを専修毎に作成し提示した。また平成26年度から取り組んできた開講科目すべてに固有のナンバーを割当てる作業（ナンバリング）が完了し、それぞれの学年・専修において必要とされる科目が平成28年度から明確化されている。

### I-3-2. 学生や社会からの要請への対応

文学部では、グローバル化が進む現代社会における諸問題に対応し、また社会からの要請に応えるため、教育課程の編成やそれらに配慮した取組みを以下のとおり実践している。

#### 1. 他学部科目の履修

文学部では、他学部の専門科目を文学部開講専門科目の自由選択科目と同等に扱い、卒業要件単位として認めている。学生は、一定の要件のもとで、文学部の専門科目と他学部の専門科目から30単位を自由選択科目として修得し、卒業に必要な単位とすることができる。また、文学部、発達科学部、経済学部、農学部、国際文化学部、工学部及び医学部が共同で実施する「神戸大学 ESD コース」(Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) が設定されており、関係学部の授業を体系的に履修することができるようになった。ESD コースを修了しようとする学生は修了要件《資料 I-14》の定めるところに従い、14単位以上を修得しなければならない。修了が認定された者には修了認定書が授与される。「神戸大学 ESD コース」の授業科目として、文学部では「環境人文学」を開講し、広く環境問題に関わるアクションリサーチ型演習と講義を行っている。持続可能な社会のためには、特に市民・住民によるイニシアチブが重要であることを踏まえ、ボランティア活動や NPO 活動といった事例を積極的に講義で扱っている。(「ESD コース」については、「第2部 II-5. ESD コース」を参照。)

《資料 I-14 : ESD コース修了要件 授業科目名, 単位数, 開講時期及び開講学部等

授業科目区分等	授業科目名	単位数	必要修得単位数	配当年次	開講学部等	
基礎科目	実践農学入門	2	2	1年次	農学部	
	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)A	1		1年次	国際教養教育院	
	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)B	1		2年次	国際教養教育院	
	ESDボランティア論	1		1年次	国際教養教育院	
	II群	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	1	2	1年次	国際教養教育院
		ESD論(持続可能な社会づくり2)B	1		1年次	国際教養教育院
		ESD生涯学習論A	1		1年次	国際教養教育院
		ESD生涯学習論B	1		1年次	国際教養教育院
関連科目	環境人文学講義I(a)	1	6	2年次	文学部	
	環境人文学講義I(b)	1		2年次	文学部	
	環境人文学講義II(a)	1		2年次	文学部	
	環境人文学講義II(b)	1		2年次	文学部	
	比較政治社会論A	1		2年次	国際人間科学部	
	比較政治社会論B	1		2年次	国際人間科学部	
	スポーツコミュニティ形成論1	1		3年次	国際人間科学部	
	スポーツコミュニティ形成論2	1		3年次	国際人間科学部	
	幼児心理学演習1	1		2年次	国際人間科学部	
	幼児心理学演習2	1		2年次	国際人間科学部	
	初等理科論1	1		2年次	国際人間科学部	
	初等理科論2	1		2年次	国際人間科学部	
	生活空間計画論	2		2年次	国際人間科学部	
	緑地環境論	2		2年次	国際人間科学部	
	知覚と行為1(知覚・認知心理学1)	1		2年次	国際人間科学部	
	知覚と行為2(知覚・認知心理学2)	1		2年次	国際人間科学部	
	グローバル開発政策論	2		2年次	国際人間科学部	
	生物多様性科学	2		2年次	国際人間科学部	
	環境社会学	2		2年次	国際人間科学部	
	コミュニティとメディア1	1		3年次	国際人間科学部	
	コミュニティとメディア2	1		3年次	国際人間科学部	
	ライフコースの心理学1(発達心理学1)	1		3年次	国際人間科学部	
	ライフコースの心理学2(発達心理学2)	1		3年次	国際人間科学部	
	ESD実践論1	1		3年次	国際人間科学部	
	ESD実践論2	1		3年次	国際人間科学部	
	ESD実践論3	1		3年次	国際人間科学部	
	国際法I	2		2年次	法学部	
	国際政治経済	2		2年次	法学部	
	環境法	2		3年次	法学部	
	社会保障法	2		3年次	法学部	
	国際法II	2		2年次	法学部	
	国際法III	2		3年次	法学部	
	環境NPO実践論	2		2年次	経済学部	
社会コミュニケーション入門	2	2年次	経済学部			
社会環境会計	2	2年次	経営学部			
地域医療学	1	1~3年次	医学部医学科			
地域医療システム学	2	2年次	医学部医学科			
				3年次	医学部医学科	

	公衆衛生学	3			
	国際保健	1		2年次	医学部保健学科
	災害保健	1		3年次	医学部保健学科
	緩和ケア論	1		4年次	医学部保健学科
	リハビリテーション工学・福祉用具学	1		3年次	医学部保健学科
	現代医療と生命倫理	1		1年次	医学部保健学科
	I PW概論	1		1年次	医学部保健学科
	公衆衛生学	1		2年次	医学部保健学科
	環境・食品・産業衛生学	1		2年次	医学部保健学科
	小児疾病論	1		2年次	医学部保健学科
	地球環境論	1		1年次	工学部
	河川・水工学	2		3年次	工学部
	水文学	2		3年次	工学部
	国際関係論	1		3年次	工学部
	都市地域計画	2		3年次	工学部
	合意形成論	1		3年次	工学部
	農と植物医科学入門1	1		1年次	農学部
	農と植物医科学入門2	1		1年次	農学部
	熱帯有用植物学1	1		3年次	農学部
	熱帯有用植物学2	1		3年次	農学部
	樹木学1	1		1年次	農学部
	樹木学2	1		1年次	農学部
	森林環境学入門1	1		1年次	農学部
	森林環境学入門2	1		1年次	農学部
	食料生産管理学	2		2年次	農学部
	森林生態学	2		2年次	農学部
	土壌と環境	2		3年次	農学部
	森林保護学1	1		3年次	農学部
	森林保護学2	1		3年次	農学部
	組織管理論	2		3年次	農学部
	途上国経済論	2		3年次	農学部
	海事社会学-1	1		1年次	海事科学部
	海事社会学-2	1		1年次	海事科学部
	阪神・淡路大震災A	1		2年次	国際教養教育院
	阪神・淡路大震災B	1		1年次	国際教養教育院
	ボランティアと社会貢献活動A	1		1年次	国際教養教育院
	ボランティアと社会貢献活動B	1		1年次	国際教養教育院
フィールド 演習科目	E S D演習 I (環境人文学) (a)	1	4	2年次	文学部
	E S D演習 I (環境人文学) (b)	1		2年次	文学部
	E S D演習 II (環境人文学) (a)	1		2年次	文学部
	E S D演習 II (環境人文学) (b)	1		2年次	文学部
	E S D演習 I 1 (国際人間科学)	1		2年次	国際人間科学部
	E S D演習 I 2 (国際人間科学)	1		2年次	国際人間科学部
	E S D演習 II 1 (国際人間科学)	1		2年次	国際人間科学部
	E S D演習 II 2 (国際人間科学)	1		2年次	国際人間科学部
	環境法演習	2		3年次	法学部
	国際法演習	2		3年次	法学部
	国際関係論演習	2		3年次	法学部
	E S D演習 I (環境経済学 I)	2		2年次	経済学部
	E S D演習 II (環境経済学 II)	2		2年次	経済学部
	初期体験臨床実習	1		1年次	医学部医学科
	早期臨床実習 1	1		2年次	医学部医学科



早期臨床実習 2	1	3年次	医学部医学科
地域社会実習	1	4年次	医学部医学科
I PW	1	4年次	医学部医学科
初期体験実習	1	1年次	医学部保健学科
I PW統合演習	1	4年次	医学部保健学科
研究ゼミナール	1	2年次	医学部保健学科
看護研究方法論	1	3年次	医学部保健学科
寄生虫検査学実習	1	3年次	医学部保健学科
検査統合演習	1	3年次	医学部保健学科
日常生活活動学実習	1	2年次	医学部保健学科
理学療法地域医療実習	1	3年次	医学部保健学科
基礎作業学実習 I	1	2年次	医学部保健学科
基礎作業学実習 II	1	3年次	医学部保健学科
兵庫県農業環境論 A	1	2年次	農学部
兵庫県農業環境論 B	1	2年次	農学部
実践農学	2	2年次	農学部
必要修得単位数の合計		14単位以上	

## 2. 海外協定校との単位互換

文学部は全学協定及び部局間協定に基づき海外の大学と単位互換協定を締結している《資料 I-15》。この制度に基づく平成29～令和元年度の学生交換の実績は、受け入れ73名、派遣29名である。2019年度実績の受入・派遣状況詳細についてはそれぞれ《資料 I-16》、《資料 I-17》を参照。交換留学等によりこれら海外の協定校で取得した単位のうち60単位までを卒業に必要な単位として認定することで、より積極的な留学を支援している。

### 《資料 I-15：単位互換協定を締結している海外の大学 令和2年3月現在》

協定校	国名	大学間協定	部局間協定
木浦大学校	大韓民国	○	
成均館大学校	大韓民国	○	
韓国海洋大学校	大韓民国	○	
ソウル国立大学校	大韓民国	○	
高麗大学校	大韓民国	○	
国立群山大学校	大韓民国	○	
木浦海洋大学校	大韓民国	○	
韓国外国語大学校	大韓民国		○
山東大学	中華人民共和国	○	
華東師範大学思勉人文高等研究院	中華人民共和国	○	
中山大学	中華人民共和国	○	
南京大学	中華人民共和国	○	
中国海洋大学	中華人民共和国	○	
復旦大学	中華人民共和国	○	
北京外国語大学	中華人民共和国	○	
武漢大学	中華人民共和国	○	
上海交通大学	中華人民共和国	○	
清華大学	中華人民共和国	○	
上海海事大学	中華人民共和国	○	

大連海事大学	中華人民共和国	○	
江南大学	中華人民共和国		○
鄭州大学	中華人民共和国		○
浙江大学	中華人民共和国		○
香港大学	中華人民共和国		○
東北大学	中華人民共和国		○
国立台湾大学	台湾	○	
国立政治大学	台湾	○	
国立台湾海洋大学	台湾	○	
スラバヤ工科大学	インドネシア	○	
南洋理工大學	シンガポール	○	
モンゴル国立大学	モンゴル	○	
イスタンブール工科大学	トルコ	○	
クイーンズランド大学	オーストラリア	○	
西オーストラリア大学	オーストラリア	○	
ウーロンゴン大学	オーストラリア	○	
オーストラリア商船大学	オーストラリア	○	
ピッツバーグ大学	アメリカ	○	
オタワ大学	カナダ	○	
グラーツ大学	オーストリア	○	
インスブルック大学	オーストリア		○
カレル大学	チェコ	○	
パリ第2大学	フランス	○	
パリ第10大学	フランス	○	
リヨン高等師範学校	フランス	○	
パリ第7大学	フランス	○	
リール大学	フランス	○	
エクス=マルセイユ大学	フランス	○	
バルセロナ大学	スペイン	○	
バーゼル大学	スイス	○	
バーミンガム大学	イギリス	○	
SOAS ロンドン大学東洋アフリカ研究学院	イギリス	○	
オックスフォード大学	イギリス	○	
エセックス大学	イギリス	○	
ライデン大学	オランダ	○	
ソフィア大学	ブルガリア	○	
ブリュッセル自由大学	ベルギー	○	
ヴェネツィア大学	イタリア	○	
ボローニャ大学	イタリア	○	
トリノ大学	イタリア	○	
ヤゲウォ大学	ポーランド		○
ニコラウス・コペルニクス大学	ポーランド	○	

キール大学	ドイツ	○	
マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク	ドイツ	○	
トリアー大学	ドイツ	○	
ハンブルク大学	ドイツ	○	
ダルムシュタット工科大学	ドイツ	○	
ベルリン自由大学	ドイツ	○	
ブカレスト大学	ルーマニア	○	
ディミトリエ・カンテミルキリスト教大学	ルーマニア		○
サンクトペテルブルク大学	ロシア	○	
エトヴェシュ・ローランド大学	ハンガリー	○	
ブタペルト・コルヴィヌス大学	ハンガリー	○	
プーラ大学	クロアチア		○

《資料I-16：交換留学（受入）実績》

令和元 年度	北京外国語大学	中国		31年4月1日～2年3月31日
	清華大学	中国	JASSO	31年4月1日～1年9月30日
	清華大学	中国	JASSO	31年4月1日～1年9月30日
	バーミンガム大学	イギリス	JASSO	31年4月1日～1年9月30日
	サンクトペテルブルク大学	ロシア		31年4月1日～1年9月30日
	木浦大学校	韓国	HUMAP	1年10月1日～2年9月30日
	中山大學	中国	HUMAP	1年10月1日～2年9月30日
	グラーツ大学	オーストリア	JASSO	1年10月1日～2年3月31日
	武漢大学	中国	JASSO	1年10月1日～2年9月30日
	エクス=マルセイユ大学	フランス	JASSO	1年10月1日～2年9月30日
	プーラ大学	クロアチア		1年10月1日～2年3月31日
	プーラ大学	クロアチア		1年10月1日～2年3月31日

《資料I-17：交換留学（派遣）実績》

令和元 年度	国立台湾大学	台湾	JASSO	1年9月2日～2年6月19日
	パリ・ナンテール大学	フランス	JASSO	1年9月2日～2年6月30日
	パリ・ナンテール大学	フランス	JASSO	1年9月2日～2年6月30日
	パリ・ディドロ(第7)大学	フランス	JASSO	1年9月3日～2年6月29日
	エセックス大学	イギリス	JASSO	1年9月30日～2年6月26日
	トリアー大学	ドイツ		1年10月28日～2年2月14日
	エクス=マルセイユ大学	フランス	JASSO	2年1月9日～3年1月16日

### 3. グローバル教育への取り組み

平成20年度からは、語学科目以外に全てを英語で行う授業科目を開講し、アカデミックかつ実践的な英語能力の涵養を目指している。具体的には、英米文学及び言語学関係の外国人教員による授業（「比較現代日本文化論特殊研究」「アカデミック・ライティング」等）を平成23年度から継続的に行っている。また、社会学分野では平成24年度から、英語による専門授業を開講している。語学学習への多様な支援として、平成24年度から本学部の全学年に TOEFL itp の無料受験を実現し、海外留学や国際交流への意識向上を図っている。また、英語のスキル向上のために、希望者には「英語アフタースクール」を実施し、能力や志向に応じた細やかな語学学習が可能となっている。

文学部では、神戸オックスフォード日本学プログラムなどによって、国際的な場で活躍できる学生を育成してきたが、平成24年度文部科学省「グローバル人材育成推進事業（タイプ B 特色型）」に採択された「問題発見型リーダーシップを発揮できるグローバル人材の育成」プログラム（平成26年度より「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」に名称変更）に基づき、「グローバル人文学プログラム」を実施してグローバル教育を積極的に推進している。人文学をグローバルな視点で学ぶことにより、高度な国際感覚を育成するための外国語授業科目群（グローバル人文学科目群）、そしてオックスフォード大学ハートフォード・カレッジにおける3週間の短期留学プログラムである「オックスフォード夏季プログラム」など、グローバル社会で活躍できる優れた外国語能力とコミュニケーション能力を育成するための授業科目群（グローバル対話力育成科目群）からなる「グローバル人文学プログラム」を実施している。このプログラムは、すべて外国語で授業が行われており、所定の単位を取得し、「外国語力スタンダード」（TOEFL 等の外国語試験における所定のスコア）を達成した者には、修了時に「グローバル人文学プログラム修了証」を授与している。その結果、本プログラムが目的として掲げる「人文学的課題をグローバルな視点から考察し、日本文化の深い理解を基に異文化との対話を重ねながら、現代社会における諸問題を解決に導いていくリーダーシップとコミュニケーション能力を持った人材」が育ちつつある。（「グローバル人材育成推進事業」については、第2部 I-1. 運営費交付金機能強化経費：実践型グローバル人材育成事業「日本語教育・日本研究を中心とした実践型グローバル人材育成事業」66-69頁を参照。）

### 4. 地域との連携による新たな教育研究の開発

地域歴史遺産の活用を図る地域リーダーの養成を目的とした「地域歴史遺産保全活用基礎論 A・B」「地域歴史遺産保全活用演習 A・B」を文学部専門科目として開講し、史料の保全と活用を通じて、地域との有機的な交流がなされている。

#### I-4. 教育方法

##### I-4-1. 授業形態の組合せと学習指導法上の工夫

授業形態は、主として講義・演習からなり、令和元年度の開講科目数は講義科目が458（約53%）、演習・実習科目等が414（約47%）となっており、少人数教育を徹底している《資料 I-18》。

講義科目の次に演習科目が多いのは、人文学の学問の根幹をなす文献読解能力、資料調査分析能力、表現力の鍛錬に重点を置き、研究の集大成として卒業論文を重視する、文学部の教育目的に沿う措置による。演習の質は学生の研究報告によって担保される。そのため、文学部では1年次生を対象とする各講座の入門講義によって人文学の全体像を俯瞰させるとともに、各専修が人文学導入演習や人文学基礎の少人数教育を開講することによって、人文学の研究手法や調査技法について丁寧に訓練を行い、専門教育への円滑な導入を図っている。演習の授業は同時に研究倫理教育の実践的な場でもあり、盗用などの研究不正について各専修で適切な指導が行われている。

令和元年度は、37の講義、48の演習、1の実習科目に対してティーチング・アシスタント（TA）を配置した。授業運営の補助や受講者のための事前学習・事後学習のフォローを適宜行わせ、少人数教育の一助としている《資料 I-19》。TA に対しては各学期始めにガイダンスを行い、TA ハンドブック等による指導をしている。また業務終了後には実施報告書を提出してもらい、その分析・検討及び TA に対するフィー

ドバックを行っている。

なお平成28年度より、神戸大学では一部の学部・研究科を除いて新たに「2学期クォーター制」を導入し、従来、前期・後期にそれぞれ2単位を付与してきた課程を改変し、1クォーターごとに1単位を付与することになり、文学部にもこれが導入された。ただし、文学部での学修をより充実させるために、「初年次セミナー」等の一部の科目を除き、令和2年度より文学部はセメスター制（教職関連科目はクォーター開講のセメスター的運用）に移行することが決定している。

《資料 I-18：令和元年度の授業形態》

授業形態	講義	演習	実習	実技	研究指導
授業数	458	394	14	4	2

《資料 I-19：平成29～令和元年度の TA の文学部への配置実績》

授業形態	TA 配置人数		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
講義	34	34	37
演習	55	57	48
実習	11	8	1
実技	0	0	0

教育を展開する上での指導法の工夫として、本学部ではフィールド型授業も重視している。「地域歴史遺産保全活用演習 B」では、事前指導で古文書・絵図等の取扱いを学んだ後、実際の地域歴史遺産資料を用いた実習を行うことで、地域遺産の保全と活用に関する実践的な知識・技能を得ることを目指している《資料 I-20》。

また、「グローバル・アクティヴ・ラーニング」として、他大学の学生らと共に学外のワークショップに参加し、より開かれた場での討論に参加し、公開成果発表会でプレゼンテーションを行うことで、受講生にさらに積極的な学びの場を提供している《資料 I-21》。

《資料 I-20: 「地域歴史遺産保全活用演習 B (a)」 シラバス》

開講科目名	地域歴史遺産保全活用演習 B (a)		
担当教員	市澤 哲	開講区分	単位数
		第3クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	曜日・時限	他	時間割コード
			3L211
<p>授業のテーマ</p> <p>地域歴史遺産のうち、とくに古文書・絵図等の地域史料に直接触れ、その解読と整理、さらにその指導方法について学ぶ。これを通じて受講生が、今後、それぞれの職場や居住地などにおいて、地域遺産の保全と 活用に関する実践的・応用的な知識・技能を得られるよう努力する。</p> <p>授業の到達目標</p> <p>古文書等の地域史料の調査に参加し、調査の意味を理解すること。</p> <p>授業の概要と計画</p> <p>学内で事前指導をおこない、その後合宿形式で集中的に古文書の取り扱い方について実習する(学外。1泊2日2月実施予定)。事前指導と合宿の日取り等の詳細については、後日掲示板にて発表するので注意しておくこと。なお、合宿経費・交通費等はすべて受講生負担となるので、受講を希望する学生はその旨を了解しておくこと。</p> <p>成績評価方法</p> <p>授業への参加状況(50点)と合宿後のレポート(50点)による。事前指導と合宿日程すべてに参加しなければ、単位は認めないので注意すること。</p> <p>成績評価基準</p> <p>文書の読解や目録の作成に取り組む姿勢で50点分を評価する。読解能力そのものは問わない。さらに、古文書が地域歴史遺産の保全と活用にどのように関係するのかについての考察をレポートで求め、それにより50点分を評価する。</p> <p>履修上の注意(関連科目情報)</p> <p>本授業は第40「地域歴史遺産保全活用演習 B (b)」と合わせて成績評価するので、必ず両方の授業を履修すること。</p> <p>受講生は、古文書の読解と整理についての基礎的な技能を身に付けていることが望ましく、その上に立ってそれらの指導方法を学ぶように努めてほしい。</p> <p>事前・事後学修</p> <p>事前指導に参加し、注意事項を確認すること。 事後は調査で学んだことをまとめ、地域史料の調査とは何か、その本質を把握するよう努めること。</p> <p>オフィスアワー・連絡先</p> <p>木曜日3限 人文学研究科A棟316市澤研究室</p> <p>学生へのメッセージ</p> <p>地域歴史遺産の専門的素養を身につけるべく努力して下さい。</p> <p>今年度の工夫</p> <p>古文書を取扱う際の基本的な作法を修得していただくよう留意します。</p> <p>教科書</p> <p>適宜資料を配付します。</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p> <p>授業における使用言語</p> <p>日本語 日本語</p> <p>キーワード</p> <p>日本史 古文書 古地図 地域歴史遺産</p>			

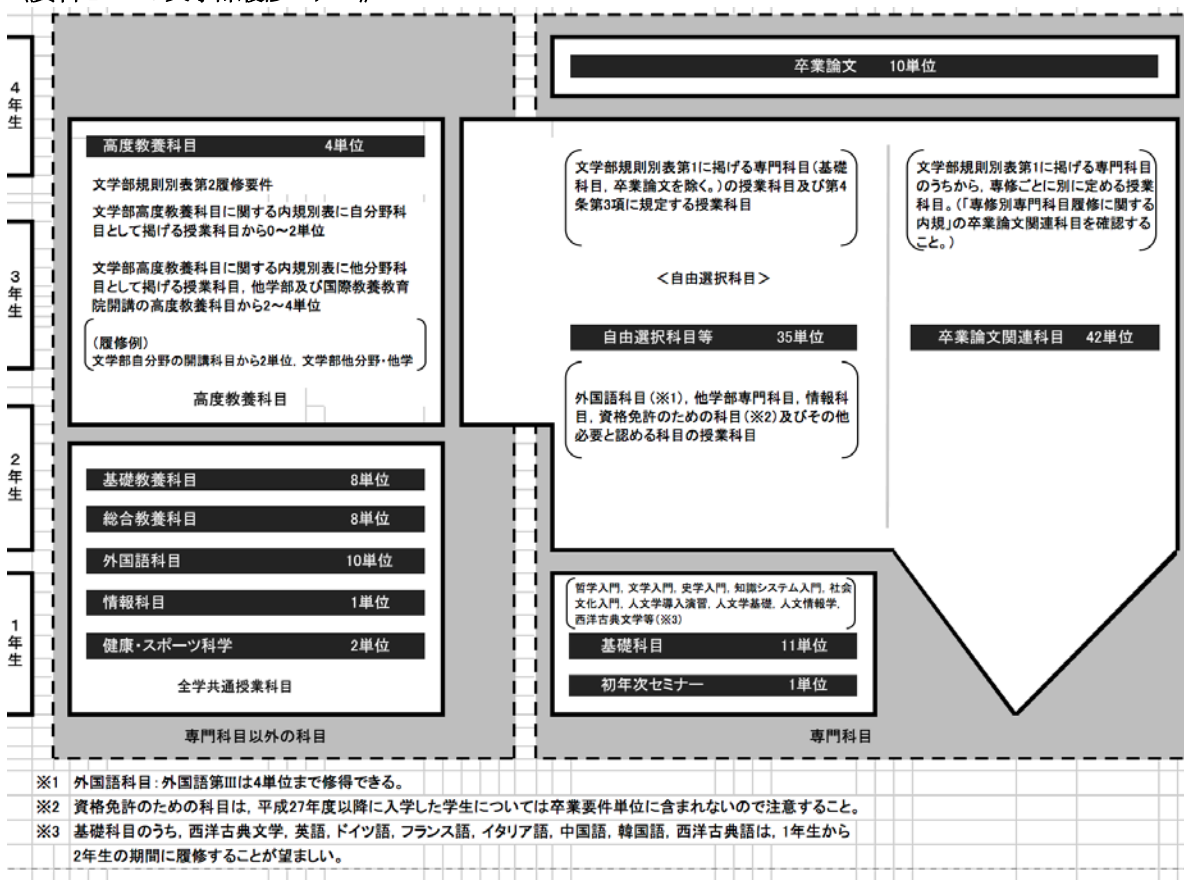
《資料I-21：「グローバル・アクティブ・ラーニング」シラバス》

開講科目名	グローバル・アクティブ・ラーニング【GH】				
担当教員	嘉指 信雄、南 コニー		開講区分	単位数	
			後期	1.0単位	
ナンバリングコード		曜日・時限	他	時間割コード	3L950
<b>授業のテーマ</b> 広島で考える「世界のいま」 28年ぶりに大幅に改修された広島原爆資料館を視察し、留学生や現地大学生とともにワークショップに参加し、現在の世界が直面している核問題などに関する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b> 現在の世界が直面している核問題などに関する考えを英語で表現し、議論する力を伸ばす。					
<b>授業の概要と計画</b> 1)10月16日(水) 昼休み(12:30-13:00)、事前説明会を開催するので、受講生は、特別の理由がない限り必ず出席すること。場所は、文学部B135教。この事前説明会にて、参加者・履修者をほぼ確定する。 2)広島での集中セッションは、10月25日(金)、26日(土)27日(日)に開催する。(高速バスで金曜日の夕方出発し、日曜日夜に神戸に戻る予定。)10月26日午後は、広島でのワークショップに参加し、現地で様々な活動に取り組む人々と交流・意見交換する。 3)事後学習として、報告会を11月6日(水)5限(17:00-18:30)に文学部A棟一階学生ホールにて開催する。参加者は、報告会に出席し、各自数分程度の報告を、原則として英語にて行うこと。					
<b>成績評価方法</b> 出席点の他、ワークショップや事前・事後学習などにおける参加を総合的に判断する。					
<b>成績評価基準</b> 議論への貢献：6割 ショート・レポート：4割					
<b>履修上の注意(関連科目情報)</b> ・人社系6学部および人文学研究科・経済学研究科博士前期課程の学生を対象とする。 交換留学生の場合は単位取得はできないが、広島ワークショップへの参加は歓迎。 交換留学生以外の外国人学生の場合は、単位取得可。 ・広島でのワークショップ参加に必要な費用(往復の高速バス8,000円、宿泊費用一泊約3,000円、食費など)は自己負担。					
<b>事前・事後学習</b> 事前・事後に開かれるセッションへの参加。とりわけ、10月16日の事前説明会では、参加者をほぼ確定するので、特別の事情がない限り出席すること。					
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 10月16日の事前説明会に出席できない場合は、事前にメールにて下記まで連絡すること。 connie.sartre@hotmail.com					
<b>学生へのメッセージ</b> 具体的な問題場面へのエクスポージャーを通じた「アクティブ・ラーニング」の貴重な機会を積極的に活かしてほしい。					
<b>今年度の工夫</b> 28年ぶりの大規模な改修を終え、4月にリニューアルオープンされた広島原爆資料館を訪れ、被爆体験の継承などをめぐる問題について考える。					
<b>教科書</b> 特になし。参考テキストなど、適時指示する。					
<b>参考書・参考資料等</b> 『新・平和学の現在』(2009)/岡本三夫・横山正樹編；,ISBN: 『ヒロシマ』(増補新版、2014)/ジョン・ハーシー；,ISBN:9784588316302 『ヒロシマ・モナムール』(新訳、2014)/マルグリット・デュラス；,ISBN:9784309206622					
<b>授業における使用言語</b> 英語及び日本語					
<b>キーワード</b> ヒロシマ・ナガサキ、原爆資料館、核問題、戦争、環境危機					

シラバスは、すべてウェブサイト上に公開しており、学習の便宜を図っている。「履修要項」には履修モデルを提示しているが、平成29年度版の履修要項から、最新のモデルを提示している《資料 I-22》。加えて、入学時、1年次の後期開始時、専修配属決定後の12月に合計3回のガイダンスを行うことによって、学生が適切な履修計画を立てられるように配慮している。単位が不足する学生等に対してはこれまでも各教員・各専修で適切に対応してきたが、教務学生係及び教務委員と連携してより手厚い就学指導を行うことのできる体制を平成27年度に整えている。なお、ここに掲示する文学部履修モデルは平成30年に改訂されたものであり、平成31（令和元）年度から適用された。

ハラスメント対策として、専修配属が決定した1年生に対して毎年、「初年次セミナー」の一環としてセミナーを開催している。

### 《資料 I-22：文学部履修モデル》



### I-4-2. 主体的な学習を促す取組

自主学習を促すために、《資料 I-23》のように制度面・環境面の整備を行ってきた。例えば、学生が授業時間以外にも教員から勉学上の指導を受けることができるように、オフィスアワーが各教員のシラバスに明記され、周知が図られている《16頁の資料 I-20、17頁の資料 I-21》。また、本学部同窓会がレポートコンテストにより「文窓賞」を授与し、勉学や課外活動に対する意欲の向上を図っている。平成25年には、人文科学図書館に神戸大学では初のラーニングコモンズが設置され、グループ学習、外国人教員との自由な英語会話、協働作業を中心とした新しいタイプの授業などで活用されている。



《資料 I-23：制度面および環境面での整備項目》

項目	内容	
制度面	オフィスアワー	学生は授業時間以外にも教員から指導を受けることが容易である。オフィスアワーは平成20年度からはシラバスに記入され、周知されている。また、外国人教員による英語を主としたオフィスアワーを週4日（月、火、水、金）ラーニングcommonsにおいて開催し、留学等について相談したり、外国語能力向上のためのアドバイスを気軽に受けたりすることができるようにしている。
	キャップ制の免除	単位の実質化を図るためにキャップ制（1年間に履修できる単位数の上限：文学部は54単位）を設けるとともに、さらに学生の学習意欲を高めるために、成績優秀な学生に対しては、キャップ制の適用を免除する優遇措置を与えている。
	表彰制度	平成19年度から本学部同窓会がレポートコンテストにより「文窓賞」を授与している。
環境面	図書館 （日本文化資料コーナー）	文学部の人文科学図書館は書籍約30万冊を有し、毎年確実に蔵書数を増やしている。授業期間中は、平日（8時45分～20時）および土曜日（10～18時）、試験期間中は、平日の夜間（21時まで）および日祝日も開館している（10～18時）。 「日本文化資料コーナー」を設けて資史料、貴重図書、レファランズ類を集中的に配架し、複数の辞書類・資料を同時に縦覧する必要がある歴史・文学系等の学生の利便を図っている。可能な限り具体的な活用状況を入れる。
	学生用共同研究室	学生が個人あるいはグループで調査・研究するために使用できる「共同研究室」を教育研究分野ごとに設置し、学生の自主学習へ配慮している。共同研究室には辞書や専門書等も整備されており、学生はここで授業の予習や復習、研究発表のための資料作成などを行うことができる。
	コモンスペース	学生がグループ学習や研究会などのために自由に使用することのできる「コモンスペース」を3カ所設置し、学生の自主学習へ配慮している。ホワイトボードを使っての議論の場として活用したり、研究発表や面接の練習したりするなどさまざまな形で使われている。
	共同談話室	教員と学生が共同研究、読書会など行うために使用することができる「共同談話室」を5カ所設置し、自由な共同学習や演習等の授業に活用している。各種の読書会、研究会の会合などが活発に行われている。
	情報機器	学生が利用できるパーソナル・コンピューターを「情報処理室」（平成22年度 B 棟に移転・拡充）に48台、人文科学図書館に18台を設置するとともに、各専修の共同研究室や実験室などにも適宜配置している。可能な限り具体的な活用状況を入れる。
	教育機器	視聴覚機材を平成21～23年度 B 棟に、平成24年度 C 棟に設置し、ほぼ全ての教室で視聴覚機材（プロジェクター、スクリーン、DVD など）を使った授業ができるようになった。パワーポイントを用いた授業も多くなされている他、パソコン（インターネット）による具体的な資料検索・資料収集の方法を実践することも可能である。
	ラーニングcommons	自由に机と椅子を組み合わせ、図書館資料を自由に使用し、グループで話し合いながら学習を進めることができるスペースとして、「ラーニングcommons」が人文科学図書館に設置された。他学部にも広く開かれた文学部のラーニングcommonsは、平成25年度の運用開始以来、アクティブラーニングや演習、自主学習、グループ学習、留学報告会等、さまざまな形で活用され、大きな学習成果を挙げている。

## I-5. 学業の成果

### I-5-1. 学生が身に付けた学力や資質・能力

最近3年間の本学部学生の卒業状況は、《資料 I-24》のとおりである。本学部学生の卒業率（入学者総数に対する既卒業者の比率）は平成26年度入学者以降、平均94.9%という良好な数字を保っている。また、標準修業年限で卒業した学生（4年間で卒業した学生）の比率も平成26年度入学者以降、平均84%以上の数字を維持し、大半の学部生が4年間で卒業している。なお、学部生の場合、卒業以前に留年・休学して海外留学を経験する者も多い。

また、文学部における学びの集大成となる卒業論文について、令和元年度卒業生が提出した論文題目一覧は《資料 I-25》に挙げる通りである。

《資料 I-24：修業年限内の卒業率 令和2年3月現在》

入学年度 (標準修業年度)	入学者総数 (a)	既卒業者数 (b)	既卒業率 (b/a)	標準年限内 卒業者数 (c)	標準年限内 卒業率 (c/a)
平成26年(平成29年)	118	116	98.3%	101	85.6%
平成27年(平成30年)	128	119	92.9%	109	85.1%
平成28年(令和元年)	124	116	93.5%	101	81.5%

《資料 I-25：令和2年3月卒業者の卒業論文題目一覧表》

	論文題目
哲学	“障がい者”と出会って
哲学	フーコーの権力論から見た学校についての考察
哲学	アリストテレスとプラトンの友愛についての比較
哲学	競走馬に対する動物倫理の検討
国文学	ロシア語学書からみる明治期日本語におけるロシア語の [V] の表記法
国文学	源氏物語論
国文学	初期夏目漱石論
国文学	中世以降の漢字音の変遷について
国文学	源氏物語試論
国文学	『平家物語』における歌謡
国文学	有馬温泉寺縁起考
国文学	『源氏物語』の研究
国文学	謡曲における古典の受容
国文学	願望文と可能文におけるガーフ交替について
国文学	日本語文法の研究
国文学	『平家物語』「福原院宣」についての考察
国文学	中世文学と「食」について
国文学	中世刀剣説話の研究
国文学	『平家物語』と陰陽師
国文学	源氏物語論考
国文学	平安時代の語彙に関する国語学研究
国文学	『花燃ゆ』にみる山口方言
国文学	小島信夫初期戦争小説論

国文学	源氏物語考察
国文学	浮世絵における『平家物語』の受容
中国文学	北京語の地名のアール化について
中国文学	墨家の葬礼について
中国文学	聊齋志異における狐譚
中国文学	民国期文学における女性像
英米文学	『ジェイン・エア』の語りの魔力
英米文学	復讐劇としてみる『ヴェニス商人』と『テンペスト』の比較
英米文学	A Study of John Hersey's <i>Hiroshima</i>
英米文学	シェイクスピア悲劇『オセロー』についての研究
英米文学	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』研究
英米文学	シェイクスピアが描く悲劇の主人公ロミオとジュリエット
英米文学	サリンジャー『フラニーとズーイ』研究
英米文学	『ロミオとジュリエット』における女性像
英米文学	A Study of Ernest Hemingway's War Literature
英米文学	ウィリアム・フォークナー『八月の光』研究
英米文学	ハロルド・ピンター劇の沈黙について
英米文学	A Study of Raymond Chandler
英米文学	シェイクスピアと福田恒存
ドイツ文学	E. T. A ホフマン『黄金の壺』におけるクリスタルの比喻について
ドイツ文学	『鏡のなかの鏡』にみるミヒャエル・エンデの世界観
ドイツ文学	ホフマンスタール『アンドレアス』における動物表象
ドイツ文学	ヘルマン・ヘッセ『ガラス玉演戯』について
ドイツ文学	トーマス・マンと海
フランス文学	マリー・ンディアイ研究
フランス文学	ピエール・アスリーヌ研究
フランス文学	ユーベル・マンガレリ研究
日本史学	中世荘園の成立に関する一考察
日本史学	中世における播磨国広峯神社の信仰圏と檀那掌握
日本史学	御影村石屋村訴訟から見る維新时期地域社会の水利慣行
日本史学	明治初期における宿駅制度の改廃と地域社会

日本史学	清須会議後における諸家領・寺社領安堵
日本史学	古代都城と畿内・近国の交易に関する基礎的研究
東洋史学	台湾民主化における「美麗島事件」
東洋史学	梁啓超『中国之武士道』における任侠精神
東洋史学	新アッシリア時代における内臓占い
西洋史学	ヨーロッパにおける14世紀以前の毒物の概念
西洋史学	沖縄返還をめぐる日米間交渉
西洋史学	1920年代ソ連におけるチェス政策
西洋史学	1553年イングランド王位継承危機をめぐる
西洋史学	近代アイルランドにおけるゲーリック・リーグの拡大
西洋史学	例話にみる中世ヨーロッパの煉獄思想
心理学	practice 及び memory reactivation が運動学習に与える効果
心理学	ネガティブ感情と睡眠の質の関連
心理学	他人から向けられる社会的注意について
心理学	触覚探索
心理学	匿名条件下における人の嘘つき行動について
心理学	視覚障がい者と晴眼者におけるオノマトペを用いた質感評価
心理学	微表情マスキングにおける顔の効果と連続的運動知覚との検討
心理学	視覚障害者が自分で行う化粧の効果
心理学	学校選択メカニズムにおける事前投票の効果について
心理学	視覚性ワーキングメモリの保持に伴う神経律動信号の変化
言語学	ヒットゲームのキャラクター名に見られる音象徴
言語学	外来語単純語の短縮語形成について
言語学	対話におけるフィラーの機能について
言語学	広島方言と東京方言における数詞+助数詞のアクセントについて
言語学	複合語のアクセントと後部要素の意味・形態・音韻構造
言語学	福井方言における疑問文の音調
言語学	日本語の役割語について
芸術学	グローヴ感の発生源と、観察者が受容する要因
芸術学	少女マンガにおける「分身」
芸術学	ヴィジュアル系ロックの自己表象

芸術学	メルロ=ポンティ『知覚の現象学』における芸術論
芸術学	寺山修司の表象とメディア
芸術学	バンド・デシネにおける「読みの時間」
芸術学	「スピード太郎」と「映画」について
芸術学	声優による声の演技とその受容
社会学	学生劇団の内部構造とその再生産
社会学	他国との比較から見る日本人の「潜在的ボランティア」
社会学	現代大学生における家族のつながりとその要因
社会学	人はなぜパンを愛するのか
社会学	子どもの困難を発見し支援につなげるために
社会学	消費社会における大学生の音楽フェスへの参加動機について
社会学	仮想的会話としてのプロ野球実況中継
社会学	「心の豊かさ」としての人と人とのつながり
社会学	生活史から考える大学生の食
社会学	高齢者の社会的ネットワーク、その構造と機能
社会学	共食の意義からみる子ども食堂
社会学	現代社会におけるスポーツ観戦の変容
社会学	「社会的環境が衣服の購買や着こなしに与える影響について」
社会学	図書館とまちづくり
社会学	YouTube コメント欄にみるオーディエンスの「アイデンティティ」
社会学	大阪における観光振興
美術史学	「桑実寺縁起絵巻」について
美術史学	アンニーバレ・カラッチ《聖母被昇天》の研究
美術史学	ライスダールの風景画
美術史学	フランシスコ・デ・スルバラン研究
美術史学	ジャック=ルイ・ダヴィッド研究
美術史学	J. M. W. ターナー研究
美術史学	阿修羅像について
地理学	六甲山における近代登山の受容
地理学	現代の都市公園におけるコモンズの創出
地理学	近代都市における公共空間の形成と変容

在学中に教育職員免許（中学校教員一種・高等学校教員一種）、学芸員資格、社会調査士資格等を取得する者が多く、その内訳は《資料 I-26》の通りである。これらのうち、高等学校教員一種の資格取得者が多いのは例年の傾向である。令和元年度は、中学校、高等学校ともに、資格取得者が上向きになった。就職に向けた解禁日も流動化する傾向にあり、教育実習期間に中小企業の面接が入るなどで実習辞退者が出るといった影響も見られ、今後に問題を残している。

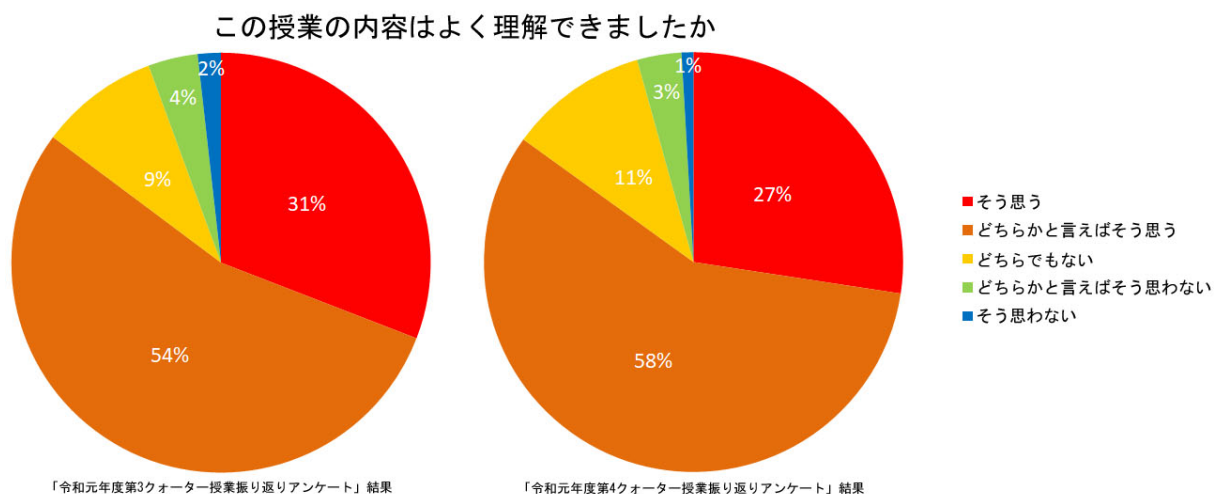
《資料 I-26：平成29～令和元年度資格取得者一覧》

年 度	資格取得者数			
	教育職員免許		学芸員資格	社会調査士資格
	中学校一種	高等学校一種		
平成29年度	7	20	13	1
平成30年度	12	24	13	3
令和元年度	21	29	12	4

### I-5-2. 学業の成果に関する学生の評価

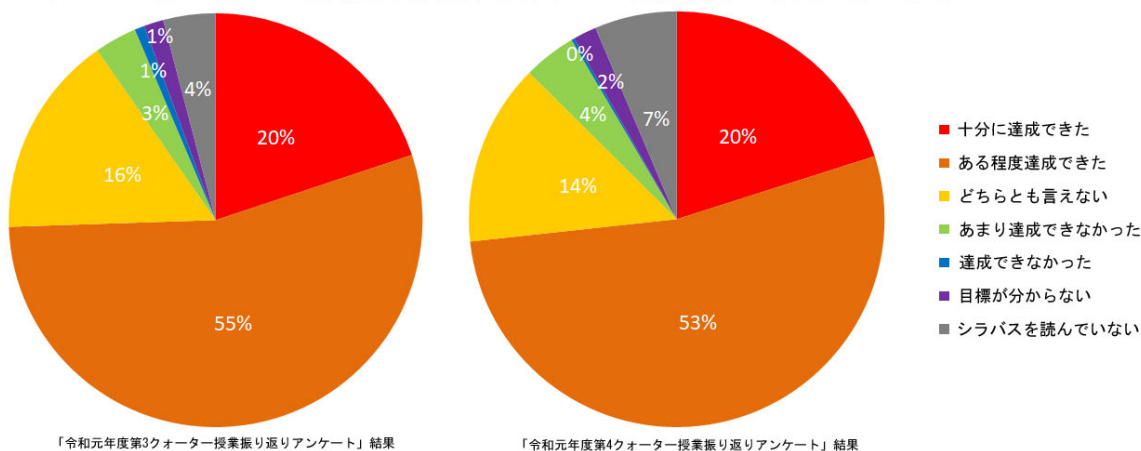
在学生を対象とした「授業振り返りアンケート」令和元年度後期の結果では、教育の成果や効果に関する質問項目の「2. この授業の内容はよく理解できましたか。」「3. シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。」のうち、2については最上点及び次点の回答者が85%、3については最上点及び次点の回答者が74%といずれも良好な結果が得られており《資料 I-27》、例年、同様の傾向となっている。

《資料 I-27：「令和元年度後期授業振り返りアンケート」結果（抜粋）》  
質問項目「2. この授業の内容はよく理解できましたか。」



質問項目「3. シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。」

シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか



I-6. 進路・就職の状況

I-6-1. 卒業後の進路の状況

本学部卒業生の就職率及び進学率については《資料 I-28》の通りであり、この状況はここ数年安定している。平成28～令和元年度の本学部における卒業生の進路は《資料 I-29》の通りである。本学部の強みは公務員・中・高教員その他教育関係・メディア関係など教育成果を直接活用できる職種であるが、それ以外にも金融・保険業、製造業、情報・通信業など、幅広い業種にわたっている。近年では情報・通信業への就職も増えており、時代の要請に適した能力を本学部で学生が培っていることがわかる。

大学院進学者が10%台半ばという状況は、「専門的知識」を有する人材の育成を目的の一つに掲げている本学部の教育方針に合致しており、研究大学として社会からの期待に適った成果をあげている。就職状況は総じて良好である。就職率は近年90パーセントを超えて上昇を見せており、学部における教育および就職対策が年々奏功していることが理解される。

《資料 I-28：本学部卒業生の就職率及び進学率》

卒業年度	卒業生数	進学者	就職者	就職希望者	進学率	就職希望者の就職率
平成28年度	119	23	84	96	19.3%	87.5%
平成29年度	116	10	91	106	8.6%	85.8%
平成30年度	121	17	96	104	14.0%	92.3%
令和元年度	116	17	94	99	14.7%	94.9%

《資料Ⅰ-29：本学部卒業生の進路状況》

卒業年度	製造業	情報・通信産業	卸売・小売業	金融・保険業	学校教育・その他教育	国家公務員・地方公務員	その他の業種
平成28年度	14	12	5	11	7	20	15
平成29年度	13	14	6	10	5	16	27
平成30年度	18	21	3	8	10	15	21
令和元年度	11	13	10	4	15	21	20

## Ⅱ. 教育（人文学研究科）

### Ⅱ-1. 人文学研究科の教育目的と特徴

人文学研究科は、大学院文学研究科（修士課程）及び文化学研究科（独立研究科：後期3年博士課程）の改組・統合により平成19年4月に新たに設置された研究科である。

本研究科は、人文学すなわち人間と文化に関わる学問を扱い、哲学・文学・史学・行動科学などの人文系諸科学の教育を包括している。以下に本研究科の教育目的、組織構成、教育上の特徴及び想定する関係者とその期待について述べる。

#### Ⅱ-1-1. 教育目的

- 1 人文学研究科は、人類がこれまで蓄積してきた人間及び社会に関する古典的な文献の原理論的研究に関する教育並びにフィールドワークを重視した社会文化の動態的分析に関する教育を行い、新たな社会的規範及び文化の形成に寄与する教育研究を行うことを目的としている。
- 2 このような教育目的を達成するため、現行の中期目標では「教育憲章」に掲げた、「人間性」、「創造性」、「国際性」及び「専門性」を身に付けた個性輝く人材を養成するため、国際的に魅力ある教育を学部・大学院において展開する。また、豊富な研究成果を活かして、社会の変化を先導し、個人と国際社会が進むべき道を切り拓く高度な知識・能力を有する、次世代の研究者をはじめとした多様な人材の養成に努め、教育の更なる高みを目指す」ことを定めている。
- 3 本研究科のディプロマ・ポリシー（DP）およびカリキュラム・ポリシー（CP）はそれぞれ《資料Ⅱ-1》《資料Ⅱ-2》のとおりである。これら DP、CP に基づき、本研究科は専攻ごとに、以下のような人材の養成を目指している。文化構造専攻の前期課程では、人文学の基礎的な方法を継承しつつ、個々の文化現象の現代的意味を問うことのできる基礎的な能力を備え、人文学を知識基盤社会に活かすことのできる人材を養成し、後期課程では、人文学の高度な研究方法を継承しつつ、個々の文化現象の現代的意味を問うことができる能力並びに共同研究を企画し、組織する能力を持つ人材を養成する。社会動態専攻の前期課程では、社会文化の動態的分析の基礎的な能力を備え、人文学を知識基盤社会に活かすことのできる人材を養成し、後期課程では、社会文化の高度な動態的分析能力を備え、新たな社会規範及び文化の形成に寄与できる能力並びに共同研究を企画し、組織する能力を持つ人材を養成する。この目的や人材養成は、現行の中期目標において、「高度な専門的知識を習得させ、個人と社会が進むべき道を切り拓く能力を涵養すること」とされている点を達成することと大いに対応している。



## 《資料Ⅱ-1：人文学研究科ディプロマ・ポリシー (DP)》

### 博士課程前期課程ディプロマ・ポリシー

神戸大学人文学研究科博士課程前期課程は、人文学の高い専門性を追求すると同時に、総合性を高めることによって、人文学の古典的な役割を継承しながら、現代社会に対応する人材を養成することを目的としている。この目的を達成するため、以下に示した方針に従って修士の学位を授与する。

#### ○ 学位：修士（文学）

- ・ 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）  
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、人文学研究科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
- ・ 本研究科博士課程前期課程に2年以上在学し、研究科共通科目、選択科目、修士論文指導演習に関してそれぞれ所定の単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。
- ・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、修了までに、本研究科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。

#### 〈文化構造専攻〉

- ・ 人類がこれまで蓄積してきた人間と社会に関する古典的な文献の原理論的研究という人文学の基礎的な方法を継承しつつ、個々の文化現象の現代的意味を問うことができる能力。
- ・ 研究者としての基礎能力を具えるとともに、人文学を知識基盤社会に生かすことができる能力。

#### 〈社会動態専攻〉

- ・ 古典研究を踏まえて、フィールドワークを重視した社会文化の動的的分析を行い、なおかつ新たな社会的規範や文化の形成に寄与できる能力。
- ・ 研究者としての基礎能力を具えるとともに、人文学を知識基盤社会に生かすことができる能力。

#### ○ 博士課程後期課程ディプロマ・ポリシー

神戸大学人文学研究科博士課程後期課程は、人文学の高い専門性を追求すると同時に、総合性を高めることによって、人文学の古典的な役割を継承しながら、現代社会に対応する人材を養成することを目的としている。この目的を達成するため、以下に示した方針に従って博士の学位を授与する。

#### 学位：博士（文学・学術）

- ・ 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）  
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、人文学研究科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
- ・ 本研究科博士課程後期課程に3年以上在学し、研究科共通科目、博士論文指導演習に関してそれぞれ所定の単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。
- ・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、修了までに、本研究科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。

#### 〈文化構造専攻〉

- ・ 人文学の高い専門性を追求すると同時に、総合性を高めることによって、人文学の古典的な役割を継承しながら、現代社会に対応する能力。
- ・ 人類がこれまで蓄積してきた人間と社会に関する古典的な文献の原理論的研究という人文学の基礎的な方法を継承しつつ、個々の文化現象の現代的意味を問うことができる能力。
- ・ 自立した研究者として、研究を企画し、組織できる能力。

#### 〈社会動態専攻〉

- ・ 人文学の高い専門性を追求すると同時に、総合性を高めることによって、人文学の古典的な役割を継承しながら、現代社会に対応する能力。
- ・ 古典研究を踏まえて、フィールドワークを重視した社会文化の動的的分析を行い、なおかつ新たな社会的規範や文化の形成に寄与できる能力。
- ・ 自立した研究者として、研究を企画し、組織できる能力。

## 《資料Ⅱ-2：人文学研究科カリキュラム・ポリシー（CP）》

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、人文学研究科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、研究科共通科目を開設する。
2. 人文学の「古典的な役割の継承」「現代社会への対応」を涵養し、「高い専門性」「総合性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。
  - ・ 各分野の高度に専門的な知識を身につけることができるよう特殊研究科目を開設する。
  - ・ 各分野の研究に必要なスキルと語学の能力を身につけることができるよう少人数で展開される演習科目を開設する。
  - ・ 学位論文完成のため、指導教員による教育研究指導である論文指導演習科目を開設する。

なお、これらの科目は講義・実技・演習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

## Ⅱ-1-2. 組織構成

これらの目的を実現するため、本研究科では、《資料Ⅱ-3》のような組織構成をとっている。

### 《資料Ⅱ-3：組織構成》

専攻	コース	教育研究分野
文化構造	哲学	哲学、倫理学
	文学	国文学（国語学を含む）、中国・韓国文学、英米文学、ヨーロッパ文学
社会動態	史学	日本史学、東洋史学、西洋史学
	知識システム論	心理学、言語学（英語学を含む）、芸術学
	社会文化論	社会学、美術史学、地理学、文化資源論（連携講座：後期課程のみ）

## Ⅱ-1-3. 教育上の特徴

- 1 人文学研究科は、学生が明確な目的意識をもって専門分野の研究を深めるようにするため、一貫性のある明確なプログラムに従って学修・指導を進めている。また、年次ごとのプログラムを明確に定めることにより、後期課程からの編入生も、他大学院の前期課程（修士課程）で学修した成果を本研究科での学修にスムーズに移行できるようにしている。
- 2 人文学研究科は、次のような指導体制を構築して、学生の研究教育を支援している。①教育研究分野ごとに、各年次で学修する内容を具体的に定め、その修得を学生に徹底している。②学生1名に対して3名からなる指導教員チームを編成している。また、このチームには必ず他専攻の教員が1名参加し、学生が高い専門性ととも幅広い学問的視野を獲得できるように配慮している。③学生ごとに履修カルテを作成し、これによって指導教員チームは学生の学修に関する情報を共有している。この履修カルテは、指導プロセスの透明化にも役立てられている。さらに、学修プロセス委員会を設置し、指導方法を常に検証・改善する仕組みをとっている。
- 3 学域全体における研究の位置付けを見失うことなく、研究の社会的意義に対する省察を行うため、本研究科は、教育プログラムとして研究科共通科目を設定し、これを必修としている。研究科共通科目は本研究科内の共同研究教育組織（海港都市研究センター、地域連携センター、倫理創成プロジェクト、日本語日本文化教育プログラム）の支援のもとで実施されている。
- 4 本研究科は、《資料Ⅱ-4》のような文部科学省等の推進する各種の教育改革プログラムに採択されており、これらとの連携のもとで教育改革を積極的に推進してきた。

《資料Ⅱ-4：採択されたプログラム一覧》

プログラム名		採択課題名	期間
日本学術振興会	大学院教育改革プログラム	古典力と対話力を核とする人文学教育—学域横断的教育システムに基づくフュージョンプログラムの開発	平成20～22年度
日本学術振興会	若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム	東アジアの共生社会構築のための多極的教育研究プログラム	平成20～24年度
日本学術振興会	組織的な若手研究者等海外派遣プログラム	国際連携プラットフォームによる東アジアの未来を担う若手人文研究者等の育成	平成21～24年度
文部科学省	国際共同に基づく日本研究推進事業	日本サブカルチャー研究の世界的展開	平成22～24年度
文部科学省	グローバル人材育成推進事業（タイプB 特色型）※1	問題発見型リーダーシップを発揮できるグローバル人材の育成 ※2	平成24～28年度
日本学術振興会	頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム※3	国際共同による日本研究の革新—海外の日本研究機関との連携による若手研究者養成	平成25～27年度
文部科学省	運営費交付金機能強化経費「実践型グローバル人材育成事業」※4	日本語教育・日本研究を中心とした実践型グローバル人材育成事業	平成29～33年度

- ※1 平成26年度より、「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」に改称。  
 ※2 国際文化学部を代表部局とし、文学部・人文学研究科、発達科学部、法学部、経済学部・経済学研究科、経営学部の共同のプログラムを推進してきた。  
 ※3 平成26年度より、「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」に改称。  
 ※4 運営費交付金（機能強化経費）による「日本語教育・日本研究を中心とした実践型グローバル人材育成事業」に特化したプロジェクトである。

## Ⅱ-2. 教育の実施体制

### Ⅱ-2-1. 基本的組織の編成

本研究科は、上記（30-31頁）の教育目的を達成するため、前期課程（修士課程）、後期課程（博士課程）ともに一貫性のある明確なプログラムの下に文化構造専攻と社会動態専攻の2つの専攻を設けている。各専攻は哲学、文学（以上、文化構造専攻）、史学、知識システム論、社会文化論（以上、社会動態専攻）のコースに分かれている。後期課程社会動態専攻に奈良国立博物館及び大和文華館との連携講座（文化資源論）を置いている《28頁資料Ⅱ-3》。

教員の配置状況は、《資料Ⅱ-5》および《資料Ⅱ-6》のとおりである。授業の根幹をなす演習と研究指導及び研究科共通科目の授業は、いずれも専任教員が担当している。専任教員の多くは博士号を有している。また、入学定員が前期課程50名（平成27年度より44名）、後期課程20名であるのに対し、専任教員は53名であり、質量ともに必要な教員が確保されている。

《資料Ⅱ-5：教員の配置状況 令和元年5月1日現在》

専攻	課程	収容定員	専任教員数（現員）											助手		非常勤教員数	
			教授		准教授		講師		助教		計						
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	総計	男	女
文化構造	前期	34	10	2	6	3	0	2	0	0	16	7	23	0	0	3	4
	後期	24															
社会動態	前期	54	13	1	10	5	1	0	0	0	24	6	30	0	0	13	0
	後期	36															

《資料Ⅱ-6：教育研究分野別教員現員数 令和元年5月1日現在》

教育研究分野	教授	准教授	講師	教育研究分野	教授	准教授	講師	教育研究分野	教授	准教授	講師
哲学	1	2	0	ヨーロッパ文学	4	1	0	言語学	3	0	0
倫理学	0	1	0	日本史学	2	1	0	芸術学	1	1	0
国文学	4	2	0	東洋史学	1	3	0	社会学	1	4	0
中国・韓国文学	2	1	0	西洋史学	1	2	1	美術史学	1	1	0
英米文学	1	2	2	心理学	3	1	0	地理学	1	2	0

※特任教員、兼務教員を含み、文化資源論 教授1名、准教授1名を除く。

入学者の選抜については、全学及び人文学研究科として求める学生像（アドミッション・ポリシー）を定め《資料Ⅱ-7》、これに基づき、前期課程における一般学生、外国人特別学生を対象とするⅠ期およびⅡ期、並びに特別入試（平成26年度より導入）、後期課程における一般学生、外国人特別学生を対象とする入試など多様な選抜を実施している。

学生定員と現員の状況については《資料Ⅱ-8》、及び教育研究分野別の学生数は《資料Ⅱ-9》のとおりである。

《資料Ⅱ-7：求める学生像（アドミッション・ポリシー）》

**神戸大学が求める学生像**

神戸大学は、世界に開かれた国際都市神戸に立地する大学として、国際的で先端的な研究・教育の拠点になることを目指しています。

これまで人類が築いてきた学問を継承するとともに、不断の努力を傾注して新しい知を創造し、人類社会の発展に貢献しようとする次のような学生を求めています。

1. 進取の気性に富み、人間と自然を愛する学生
2. 旺盛な学習意欲をもち、新しい課題に積極的に取り組もうとする学生
3. 常に視野を広め、主体的に考える姿勢をもった学生
4. コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重する学生

**人文学研究科が求める学生像**

**大学院博士課程前期課程**

人文学研究科は博士課程前期課程に次のような学生を求めています。

- ・ 人文学諸分野に関心を持ち、既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、追究していく情熱を持っている人。
- ・ 自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を志す人。
- ・ 社会の一員としての自覚を持って、自らの学術研究を社会との係わりで展開していく意欲を持っている人。

**大学院博士課程後期課程**

人文学研究科は博士課程後期課程に次のような学生を求めています。

- ・ 人文学諸分野に関心を持ち、既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、追究していく情熱を持っている人。
- ・ 自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を行って研究者を志す人。
- ・ 研究者としての自覚をそなえ、自らの学術研究を学際的かつ国際的な幅広い視野のなかで展開していく意欲を持っている人。

《資料Ⅱ-8：学生定員（収容定員）と現員の状況 各年5月1日現在》

人文学研究科博士課程前期課程

専攻	年度	収容定員	現員	定員充足率（年）	定員充足率(8年間)
文化構造	平成24年度	40	49	123%	119%
	平成25年度	40	41	103%	
	平成26年度	40	38	95%	
	平成27年度	37	44	119%	
	平成28年度	34	44	129%	
	平成29年度	34	52	153%	
	平成30年度	34	42	124%	
	令和元年度	34	40	118%	
社会動態	平成24年度	60	65	108%	113%
	平成25年度	60	67	112%	
	平成26年度	60	58	97%	
	平成27年度	57	72	126%	
	平成28年度	54	68	126%	
	平成29年度	54	62	115%	
	平成30年度	54	60	111%	
	令和元年度	54	60	111%	

※平成27年度より、入学定員が、文化構造専攻は20名から17名、社会動態専攻は30名から27名に変更となった。

人文学研究科博士後期課程

専攻	年度	収容定員	現員	定員充足率（年）	定員充足率(8年間)
文化構造	平成24年度	24	24	100%	140%
	平成25年度	24	24	100%	
	平成26年度	24	26	108%	
	平成27年度	24	30	125%	
	平成28年度	24	36	150%	
	平成29年度	24	41	171%	
	平成30年度	24	43	179%	
	令和元年度	24	45	188%	
社会動態	平成24年度	36	60	167%	163%
	平成25年度	36	55	153%	
	平成26年度	36	56	156%	
	平成27年度	36	58	161%	
	平成28年度	36	59	164%	
	平成29年度	36	61	169%	
	平成30年度	36	61	169%	
	令和元年度	36	59	164%	

《資料Ⅱ-9：教育研究分野別の学生数 平成31年4月1日現在》

人文学研究科

専攻	博士課程前期課程		博士課程後期課程	
	教育研究分野	学生数	教育研究分野	学生数
文化構造	哲学	7	哲学	4
	倫理学	2	倫理学	7
	国文学	17	国文学	16
	中国・韓国文学	9	中国・韓国文学	4
	英米文学	0	英米文学	6
	ヨーロッパ文学	5	ヨーロッパ文学	8
社会動態	日本史学	12	日本史学	13
	東洋史学	0	東洋史学	1
	西洋史学	4	西洋史学	4
	心理学	8	心理学	1
	言語学	3	言語学	9
	芸術学	5	芸術学	7
	社会学	11	社会学	8
	美術史学	14	美術史学	7
	地理学	3	地理学	5
			文化資源論	4
	合計	100	合計	104

Ⅱ-2-2. 教育内容、教育方法の改善に向けた取組み

人文学研究科評価委員会は、授業評価アンケートの実施など、教育に関わる評価作業を行うとともに、教員の教育方法および技術の向上を図るためにファカルティ・ディベロップメント(FD)を開催している。人文学研究科のFDは、評価委員会が中心となり実施している。学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観・評価(ピアレビュー)を定期的に行い、その結果は、FDにおいて報告され、カリキュラム編成や授業方法の改善に活用され、中期目標の実現に向けた教育課程の改善が図られている《資料Ⅱ-10》。さらに、毎年度、評価報告書を作成し、独自に外部評価を受けて、FDの達成点と改善点を的確に把握し、それを教員・職員間で共有している《資料Ⅱ-11》。

こうした活動が個々の科目の授業内容に反映されることはもちろん、カリキュラム構成や授業方法等の改善も頻繁に行っており、たとえば、人文学に必須の古典力を強化することやグローバル人材を育成することなどを目的として、前期課程の研究科共通科目の充実を行った《資料Ⅱ-12》。

《資料Ⅱ-10：平成26～令和元年度のFD実施状況》

開催日	テーマ	参加者数
平成29年2月15日	Horizon 2020 セミナー	51
平成29年3月19日	“The Globalizing Strategy in the Education of the University of Hawai” (「ハワイ大学における教育のグローバル化戦略」)	46
平成29年5月24日	「中国における日本語教育と北京日本学研究中心・神戸大学間のダブルディグリープログラムについて」	50
平成29年6月14日	「アカデミック・ライティング指導の意義 — 早稲田大学の取り組みから—」	51
平成29年7月12日	「中東欧と日本：国際交流基金ブダペスト日本文化センターの活動報告」	45
平成29年9月6日	文部科学省事業「地(知)の拠点大学による地方創成推進事業(COC+)」について	41
平成29年12月20日	平成29年度ピアレビュー結果の検討について	48
平成30年7月25日	オックスフォード大学日本学における“神戸オックスフォード日本語プログラム”の役割と意義	43
平成30年9月19日	科学研究費助成事業説明会	46
平成30年9月28日	人文学研究科向け科研費若手研究への申請のポイント	32
平成30年11月14日	留学生に対する日本語アカデミックライティング支援	54
平成30年11月14日	今後の入試のあり方について	50
平成30年12月19日	ピアレビュー、学修の記録及び振り返りアンケートの実施結果及び今後の検討について	53
平成31年3月6日	神戸大学出版会について	50
平成31年4月22日	日本学術振興会特別研究員DC申請のための申請書の書き方セミナー	5
平成31年4月24日	オックスフォード大学における文理融合研究：ウェルカム・ユニットを事例として	47
令和元年7月27日	ピアレビューの実施結果及び今後の検討について	49
令和元年9月26日	科研費セミナー「大型科研費の応募に向けて」	44
令和元年9月29日	令和元年度文学部及び大学院人文学研究科の外部評価	17
令和元年10月2日	人文学研究科向け科研費若手研究への申請のポイント	9
令和元年11月27日	Struggles for academic freedom	47
令和2年1月22日	卒業生・修了生アンケートの実施結果について	51
令和2年3月5日	JSPS 特別研究員(学振DC)の制度概要及び獲得に向けた申請書の書き方・準備について	48

《資料Ⅱ-11：平成23～令和元年の外部評価実施状況》

実施日	外部評価委員
平成29年6月26日	中畑正志(京都大学大学院文学研究科・教授)
平成30年6月10日	佐々木徹(京都大学大学院文学研究科・教授)
令和元年9月29日	大国正美(株式会社神戸新聞社取締役) 柴原永遠男(大阪歴史博物館館長)

《資料Ⅱ-12：平成22年度と令和元年度の人文学研究科博士課程前期課程研究科共通科目の比較》

平成22年度 研究科共通科目	令和元年度 研究科共通科目
海港都市研究交流演習	古典力基盤研究 (a) (b) 海港都市研究交流演習 (a) (b)
海港都市研究	海港都市研究 (a) (b)
地域歴史遺産活用演習	地域歴史遺産活用演習 (a) (b)
地域歴史遺産活用研究	地域歴史遺産活用研究 (a) (b)
倫理創成論研究	倫理創成論研究 (a) (b)
倫理創成論演習	倫理創成論演習 (a) (b)
日本語日本文化教育演習	日本語日本文化教育演習 (a) (b)
多文化理解演習	多文化理解演習 (a) (b)
日本語教育研究Ⅰ・Ⅱ	日本語教育研究Ⅰ (a) (b)・Ⅱ (a) (b)
日本語教育内容論Ⅰ・Ⅱ	日本語教育内容論Ⅰ (a) (b)・Ⅱ (a) (b)
日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱ	日本語教育方法論Ⅰ (a) (b)・Ⅱ (a) (b)・Ⅲ (a) (b)
日本語研究	日本語研究 (a) (b)
日本社会文化演習Ⅰ・Ⅱ	日本社会文化演習Ⅰ (a) (b)・Ⅱ (a) (b)
	グローバル人文学特殊研究 (a) (b)
	比較現代日本論特殊研究 (a) (b)
	比較日本文化産業論特殊研究 (a) (b)
	グローバル対話力演習Ⅰ (a) (b)・Ⅱ (a) (b)
	アカデミック・ライティングⅠ (a) (b)・Ⅱ (a) (b)
	オックスフォード夏季プログラム
	海外日本語日本文化教育実習

## Ⅱ-3. 教育内容

### Ⅱ-3-1. 教育課程の編成

前期課程の教育課程は、「研究科共通科目」「専門科目」及び「修士論文指導演習」、後期課程の教育課程は、「研究科共通科目」及び「博士論文指導演習」から構成されている。

前期課程・後期課程の研究科共通科目として、古典力・海港都市・地域歴史遺産・倫理創成・日本語日本文化教育等に関わる授業科目を設け、個別の研究や学域を越えた幅広い視野のもとに自らの研究の社会的意義を自覚させるように配慮している。なお、平成24年度の文部科学省グローバル人材育成推進事業への採択を受け、翌年度から実践的な英語能力の育成を目的とする科目を加えた《資料Ⅱ-12》。

前期課程の「専門科目」は、演習と講義形式による特殊研究からなる。科目数は演習科目（「修士論文指導演習」を含む）と特殊研究科目がほぼ同数となっている。人文学における研究の根幹をなす文献読解能力、資料調査分析能力、表現力の養成には演習がふさわしく、前期課程に多くの演習科目が開講されているのはそのためである。修士論文の作成は、これらの演習を受講することで初めて可能となる。後期課程の授業形態は、研究科共通科目・博士論文指導演習ともに演習が基本となる。「修士論文指導演習」および「博士論文指導演習」は、学位論文の作成に特化した演習であり、指導教員3名が、学修カルテ《資料Ⅱ-13》を参照しながら、連携して指導に当たる。



《資料13：学修カルテ（博士課程前期課程）》

人文学研究科大学院生学修カルテ【博士課程前期課程】			
学籍番号		氏名	
専攻		教育研究分野	
指導教員	主)	副)	副)
博士前期 1年次 4月20日 <u>前期課程指導教員・研究テーマ届提出</u> 5月20日 <u>修士論文研究計画書提出</u> 2年次 4月10日 <u>修士準備論文を1部提出</u> 6月第3水曜日    前期課程公開研究報告会 6月第4金曜日    主指導教員は前期課程公開研究報告会 終了報告書を提出 11月16日まで <u>修士論文題目を提出</u> 1月16日まで <u>修士論文を1部提出</u> 2月中旬          最終試験 3月上旬          博士課程前期課程修了判定 3月下旬          学位記授与式			実施状況チェック

○このカードは個人情報保護の観点から取扱いに注意が必要です。

具体的な研究・研究論文テーマ 関心のある関連領域
将来の希望・就職
修学上の留意点
単位取得状況 共通科目  専門科目

○このカードは個人情報保護の観点から取扱いに注意が必要です。

### 指導履歴

年月日	指導内容

○このカードは個人情報保護の観点から取扱に注意が必要です。

### 発表論文など

年月日	論文名	学会名、雑誌名など
記入例① (学術雑誌等での論文発表) 2018年6月	論文名、著者名 (共著の場合には、学生本人に下線を付けてください。) を記入してください。	掲載誌名、発行所等、巻 (号)、最初と最後の頁、査読の有無
記入例② (学会等での論文発表) 2019年8月	論文名、発表者名 (共同発表の場合には、学生本人に下線を付けてください。) を記入してください。	学会名、開催場所
記入例③ (研究費獲得の場合)	研究費獲得：科研 (特別研究員奨励費)、平成26年度 50万円、平成23年度 70万円	
記入例④ (受賞歴、新聞記事掲載等) 2019年5月	学会賞等受賞名や新聞雑誌等掲載事項	

○ このカードは個人情報保護の観点から取扱に注意が必要です。

○ 発表論文等の記載内容は、人文学研究科における、大型補助金獲得や年次報告書作成時に利用することがありますので、以下の点を明記願います。

- ※ 学術雑誌等への発表論文は、査読の有無を記入のこと
- ※ 学会、シンポジウム等での発表論文は開催場所を記入のこと。

## II-3-2. 学生や社会からの要請への対応

人文学研究科では、グローバル化が進む現代社会における諸問題に対応し、また社会からの要請に応えるため、教育課程の編成やそれらに配慮した取組みを以下のとおり実践している。

### 1. 他研究科の授業科目の履修

本研究科では、他研究科の授業科目を本研究科での専門科目と同等に扱い、修了に必要な単位として認めている。

### 2. 他大学との単位互換

本研究科は、国内では奈良女子大学大学院人間文化研究科、大阪大学大学院文学研究科、神戸松蔭女子学院大学大学院文学研究科、神戸市外国語大学大学院外国語学研究科と交流協定を締結しており、これらの授業科目中10単位を上限として修了に必要な単位として認めている。

海外では、全学協定及び部局間協定に基づき、単位互換協定を締結している《資料II-14》。

#### 《資料II-14：単位互換協定を締結している海外の大学 令和2年3月現在》

協定校	国名	大学間協定	部局間協定
木浦大学校	大韓民国	○	
成均館大学校	大韓民国	○	
韓国海洋大学校	大韓民国	○	
ソウル国立大学校	大韓民国	○	
高麗大学校	大韓民国	○	
国立群山大学校	大韓民国	○	
木浦海洋大学校	大韓民国	○	
韓国外国語大学校	大韓民国		○
山東大学	中華人民共和国	○	
華東師範大学思勉人文高等研究院	中華人民共和国	○	
中山大学	中華人民共和国	○	
南京大学	中華人民共和国	○	
中国海洋大学	中華人民共和国	○	
復旦大学	中華人民共和国	○	
北京外国語大学	中華人民共和国	○	
武漢大学	中華人民共和国	○	
上海交通大学	中華人民共和国	○	
清華大学	中華人民共和国	○	
上海海事大学	中華人民共和国	○	
大連海事大学	中華人民共和国	○	
江南大学	中華人民共和国		○
鄭州大学	中華人民共和国		○
浙江大学	中華人民共和国		○
香港大学	中華人民共和国		○
東北大学	中華人民共和国		○
国立台湾大学	台湾	○	
国立政治大学	台湾	○	
国立台湾海洋大学	台湾	○	
スラバヤ工科大学	インドネシア	○	

南洋理工大學	シンガポール	○	
モンゴル国立大学	モンゴル	○	
イスタンブール工科大学	トルコ	○	
クイーンズランド大学	オーストラリア	○	
西オーストラリア大学	オーストラリア	○	
ウーロンゴン大学	オーストラリア	○	
オーストラリア商船大学	オーストラリア	○	
ピッツバーグ大学	アメリカ	○	
オタワ大学	カナダ	○	
グラーツ大学	オーストリア	○	
インスブルック大学	オーストリア		○
カレル大学	チェコ	○	
パリ第2大学	フランス	○	
パリ第10大学	フランス	○	
リヨン高等師範学校	フランス	○	
パリ第7大学	フランス	○	
リール大学	フランス	○	
エクス=マルセイユ大学	フランス	○	
バルセロナ大学	スペイン	○	
バーゼル大学	スイス	○	
バーミンガム大学	イギリス	○	
SOAS ロンドン大学東洋アフリカ研究学院	イギリス	○	
オックスフォード大学	イギリス	○	
エセックス大学	イギリス	○	
ライデン大学	オランダ	○	
ソフィア大学	ブルガリア	○	
ブリュッセル自由大学	ベルギー	○	
ヴェネツィア大学	イタリア	○	
ボローニャ大学	イタリア	○	
トリノ大学	イタリア	○	
ヤゲウォ大学	ポーランド		○
ニコラウス・コペルニクス大学	ポーランド	○	
キール大学	ドイツ	○	
マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク	ドイツ	○	
トリーア大学	ドイツ	○	
ハンブルク大学	ドイツ	○	
ダルムシュタット工科大学	ドイツ	○	
ベルリン自由大学	ドイツ	○	
ブカレスト大学	ルーマニア	○	
ディミトリエ・カンテミルキリスト教大学	ルーマニア		○
サンクトペテルブルグ大学	ロシア	○	
エトヴェシュ・ローランド大学	ハンガリー	○	
ブタペルト・コルヴィヌス大学	ハンガリー	○	
プーラ大学	クロアチア		○

この制度に基づき、平成28年度から令和元年度の4年間に、協定校との間で受け入れ43名、派遣21名の留学生交換実績がある。交換留学生（受け入れ）実績は《資料Ⅱ-15》、交換留学生（派遣）実績は《資料Ⅱ-16》のとおりである。

《資料Ⅱ-15：交換留学生（受入）実績》

年 度	所属大学名	出身国	奨学金	期 間
平成 28年度	北京外国語大学	中国	神戸大学基金	28年4月1日～28年9月30日
	ライデン大学	オランダ		28年4月1日～28年3月31日
	リヨン高等師範学校	フランス		28年4月1日～29年9月30日
	ヤゲヴォ大学	ポーランド		28年4月1日～28年9月30日
	ヴェネツィア大学	イタリア		28年10月1日～29年9月30日
	ヴェネツィア大学	イタリア		28年10月1日～29年9月30日
	キール大学	ドイツ		28年10月1日～29年9月30日
	山東大学	中国	神戸大学基金	28年10月1日～29年9月30日
	復旦大学	中国	神戸大学基金	28年10月1日～29年3月31日
平成 29年度	北京外国語大学	中国	JASSO	29年4月1日～29年9月30日
	中国海洋大学	中国	JASSO	29年4月1日～29年9月30日
	中国海洋大学	中国	JASSO	29年4月1日～29年9月30日
	中国海洋大学	中国	JASSO	29年4月1日～29年9月30日
	山東大学	中国	JASSO	29年10月1日～30年9月30日
	キール大学	ドイツ	JASSO	29年4月1日～29年9月30日
	キール大学	オーストリア	JASSO	29年10月1日～30年3月31日
	ヤゲヴォ大学	ポーランド	JASSO	29年4月1日～29年9月30日
	パリ第7大学	フランス	JASSO	29年10月1日～30年9月30日
	パリ第7大学	フランス	JASSO	29年10月1日～30年9月30日
平成 30年度	北京外国語大学	中国	JASSO	30年4月1日～31年3月31日
	中国海洋大学	中国	JASSO	30年4月1日～30年9月30日
	中国海洋大学	中国	JASSO	30年4月1日～30年9月30日
	中国海洋大学	中国	JASSO	30年4月1日～30年9月30日
	カレル大学	チェコ	JASSO	30年4月1日～30年9月30日
	南京大学	中国	JASSO	30年10月1日～31年3月31日
	南京大学	中国	JASSO	30年10月1日～31年3月31日
	カレル大学	チェコ	JASSO	30年10月1日～31年9月30日
	トリーア大学	ドイツ	JASSO	30年10月1日～31年9月30日
	リール大学	フランス		30年10月1日～31年9月30日
	パリ第7大学	フランス		30年10月1日～31年9月30日
	パリ第10大学	フランス	JASSO	30年10月1日～31年9月30日
	ブリュッセル自由大学（蘭語系）	ベルギー		30年10月1日～31年3月31日
サンクトペテルブルク大学	ロシア	JASSO	30年10月1日～31年3月31日	
令和元 年度	中国海洋大学	中国		31年4月1日～1年9月30日
	中国海洋大学	中国		31年4月1日～1年9月30日
	中国海洋大学	中国		31年4月1日～1年9月30日
	トリノ大学	イタリア		31年4月1日～1年9月30日

	南京大学	中国	JASSO	31年4月1日～1年9月30日
	ヤゲヴォ大学	ポーランド	JASSO	1年10月1日～2年3月31日
	ヴェネツィア大学	イタリア	JASSO	1年10月1日～2年3月31日
	南京大学	中国	JASSO	1年10月1日～2年3月31日
	トリノ大学	イタリア	JASSO	1年10月1日～2年3月31日
	トリノ大学	イタリア	JASSO	1年10月1日～2年3月31日

※HUMAP：兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク、JASSO：日本学生支援機構

#### 《資料Ⅱ-16：交換留学（派遣）実績》

	派遣大学名	派遣国	奨学金	期 間
平成 28年度	ヤゲヴォ大学	ポーランド		28年10月1日～29年2月24日
	復旦大学	中国	JASSO	28年4月1日～29年7月31日
	ボローニャ大学	イタリア		29年1月1日～30年2月2日
平成 29年度	パリ第7大学	フランス	JASSO	29年9月1日～30年6月30日
	パリ第10大学	フランス	JASSO	29年9月4日～30年6月30日
	パリ第10大学	フランス	JASSO	29年9月4日～30年6月30日
	ヴェネツィア大学	イタリア	JASSO	30年2月5日～31年1月31日
平成 30年度	国立台湾大学	台湾	JASSO	30年9月1日～令和元年7月31日
	トリーア大学	ドイツ	JASSO	30年10月22日～令和元年7月12日
	バーミンガム大学	イギリス	JASSO	30年9月1日～令和元年6月30日
	パリ第7大学	フランス	JASSO	30年9月1日～令和元年6月30日
	高麗大学校	韓国	JASSO	30年9月1日～令和元年8月31日
	高麗大学校	韓国	JASSO	31年3月1日～令和2年2月29日
令和元 年度	インスブルック大学	オーストリア	JASSO	令和元年10月1日～2年6月30日
	トリーア大学	ドイツ		令和元年10月28日～2年7月17日
	北京外国語大学	中国	JASSO	令和元年9月1日～2年1月31日
	パリ・ナンテール大学	フランス	JASSO	令和元年9月2日～2年6月30日
	ライデン大学	オランダ	JASSO	令和元年9月2日～2年1月31日
	ハンブルク大学	ドイツ	JASSO	令和元年10月1日～2年3月31日
	トリーア大学	ドイツ	JASSO	1年10月28日～2年7月17日
	トリーア大学	ドイツ	JASSO	1年10月28日～2年7月17日

### 3. ダブルディグリー・プログラム

平成27年度より、北京外国語大学北京日本学研究中心との間でダブルディグリー・プログラムを実施している。これは、博士前期課程の学生が、本研究科在籍中に派遣先大学に最低1年間留学し、所定の単位を修得し、派遣先大学と本研究科にそれぞれ修士論文を提出することによって、最短2年間で2つの学位を取得できるプログラムである。平成27～28年度に各1名を派遣しており、平成28年度には2名を受け入れている。

### 4. 連携講座

本研究科では、博士後期課程社会動態専攻に文化資源論講座を置いて、奈良国立博物館及び大和文華館と連携し、文化財学、文化資源学に関する教育を行い、博物館、美術館及び自治体において、文化財保全、文化財行政を担当できる高度な知識を持った人材を養成している。

## 5. 日本語日本文化教育の取組

本研究科では、学生が専攻する専門分野の特性を活かしながら非日本語母語話者に対する日本語日本文化教育を行うための知識と能力を身につけることを目指す「日本語日本文化教育プログラム」《資料Ⅱ-17》を平成20年度から博士課程前期課程の教育課程に組み入れている。平成22年度以降、主にこのプログラムの修了者を対象に、海外の大学での日本語日本文化教育インターンシップを実施している《資料Ⅱ-18》。

### 《資料Ⅱ-17：日本語日本文化教育プログラム授業科目》

別表 授業科目および必要修得単位数

	授業科目	単位数	合計単位数
必修	日本語日本文化教育演習	2	12
Ⅰ群	多文化理解演習(a)(b)	4	
	日本語教育研究Ⅰ(a)(b)		
	日本語教育研究Ⅱ(a)(b)		
	日本語教育内容論Ⅰ(a)(b)		
	日本語教育内容論Ⅱ(a)(b)		
	日本語教育方法論Ⅰ(a)(b)		
	日本語教育方法論Ⅱ(a)(b)		
	日本語教育方法論Ⅲ(a)(b)		
Ⅱ群	日本語研究(a)(b)	2	
	国語学特殊研究Ⅰ(a)(b)		
	国語学特殊研究Ⅱ(a)(b)		
	国語学特殊研究Ⅲ(a)(b)		
	国語学特殊研究Ⅳ(a)(b)		
	国語学特殊研究Ⅴ(a)(b)		
	日本語学特殊研究(a)(b)		
	応用言語学特殊研究(a)(b)		
	認知言語学特殊研究Ⅰ(a)(b)		
	認知言語学特殊研究Ⅱ(a)(b)		
	音声学特殊研究Ⅰ(a)(b)		
	音声学特殊研究Ⅱ(a)(b)		
Ⅲ群	日本社会文化演習Ⅰ(a)(b)	2	
	日本社会文化演習Ⅱ(a)(b)		
	国文学特殊研究Ⅰ(a)(b)		
	国文学特殊研究Ⅱ(a)(b)		
	国文学特殊研究Ⅲ(a)(b)		
	国文学特殊研究Ⅳ(a)(b)		
	国文学特殊研究Ⅴ(a)(b)		
	国文学特殊研究Ⅵ(a)(b)		
	日本古代中世史特殊研究Ⅰ(a)(b)		
	日本古代中世史特殊研究Ⅱ(a)(b)		
	日本中世史特殊研究Ⅰ(a)(b)		
	日本中世史特殊研究Ⅱ(a)(b)		

	日本近代史特殊研究Ⅰ(a)(b)		
	日本近代史特殊研究Ⅱ(a)(b)		
	日本現代史特殊研究Ⅰ(a)(b)		
	日本現代史特殊研究Ⅱ(a)(b)		
Ⅳ群 (国際文化学 研究科科目)	日本語教育内容論特殊講義	2	
	日本語教育方法論特殊講義		
	言語コミュニケーション論演習 [齊藤・川上] ※		

※言語コミュニケーション論演習は齊藤・川上担当のものに限る。

[日本語日本文化教育演習]を2単位、Ⅰ群から4単位、Ⅱ群・Ⅲ群から各2単位、及びⅠ群・Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群のいずれかから2単位、合計12単位を必要修得単位数とする。

#### 《資料Ⅱ-18：日本語日本文化教育インターンシップ派遣実績》

年度	派遣先機関	派遣国	期 間
平成28年度	トリーア大学日本学科	ドイツ	28年9月29日～29年7月22日
	ディミトリエ・カンテミル大学日本語学科	ルーマニア	28年10月31日～28年12月2日
	ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所日本学科	ドイツ	28年8月28日～29年3月2日
	北京外国語大学日本語学科	中国	29年2月26日～29年3月20日
平成29年度	ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所日本学科	ドイツ	29年10月1日～30年3月1日
	オックスフォード大学東洋学部日本学科	連合王国	30年2月17日～30年3月11日
	北京外国語大学日本語学科	中国	30年3月8日～30年3月30日
	トリーア大学日本学科	ドイツ	29年11月3日～29年11月28日
平成30年度	オックスフォード大学東洋学部日本学科	連合王国	31年2月18日～31年3月8日
	ディミトリエ・カンテミル大学日本語学科	ルーマニア	30年11月1日～30年11月10日
	トリーア大学日本学科	ドイツ	30年11月5日～30年11月23日
	ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所日本学科	ドイツ	30年10月1日～31年2月28日
	北京外国語大学日本語学科	中国	31年3月6日～31年3月26日
令和元年度	ディミトリエ・カンテミル大学日本語学科	ルーマニア	元年11月1日～元年11月22日
	ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所日本学科	ドイツ	元年11月11日～元年11月29日
	オックスフォード大学東洋学部日本学科	連合王国	2年2月22日～2年3月12日

## 6. グローバル教育への取組

人文学研究科では、文部科学省、日本学術振興会によって採択された教育研究プログラムを通じて、国際的な場で活躍できる学生の育成をはかってきた。この目的を達成するため、研究科共通科目にグローバル教育のための科目を新たに設置するなど、教育課程を充実させてきた。平成24年度に文部科学省グローバル人材育成推進事業等に採択された「問題発見型リーダーシップを発揮できるグローバル人材の育成」プログラムに基づき、人文学研究科博士課程前期課程では、高度な国際感覚を育成するための外国語授業科目群（グローバル人文学科目群）と、「アカデミック・ライティング」など優れた外国語能力とコミュニケーション能力を育成するための授業科目群（グローバル対話力育成科目群）とからなる、「グローバル人文学プログラム」を実施している。このプログラムは、すべて外国語で授業が行われており、所定の単位を取得し、「外国語カスタンダード」（TOEFL 等の外国語資格試験等における所定のスコア）を達成した者には、修了時に「グローバル人文学プログラム修了証」を授与している。

その結果、本プログラムが目的として掲げる「人文学的課題をグローバルな視点から考察し、日本文化の深い理解を基に異文化との対話を重ねながら、現代社会における諸問題を解決に導いていくリーダーシップとコミュニケーション能力を持った人材」が育ちつつある。（「グローバル人文学プログラム」については、第2部 I-1. 運営費交付金機能強化経費：実践型グローバル人材育成事業66-69頁を参照。）



## II-4. 教育方法

### II-4-1. 授業形態の組合せと学習指導法上の工夫

教育を展開する上での指導法の工夫として、例えば景観文化財の現地保存について北野の伝建地区に赴くなど、フィールド型授業も重要視している《資料II-19》。

#### 《資料II-19：「歴史地理学特殊研究 I (a)」シラバス》

開講科目名	歴史地理学特殊研究 I (a)			開講区分	単位数
担当教員	菊地 真			第3クォーター	1.0単位
ナンバリングコード		曜日・時間	月3	時間割コード	3L510
<b>授業のテーマ</b> 景観および文化資源の保存活用					
<b>授業の到達目標</b> 目標は、受講生が自ら現地を訪れ、文化財に関して考察する基礎的知識を身につけること、自ら調べ考える好奇心を持つことである。					
<b>授業の概要と計画</b> 都市の町並みや景観を構成する建造物・歴史資料など、多様な文化財の現地保存について、実地に調べ、考える。授業はグループワーク、演習形式で進める。学部生と共に実践的作業を進め、グループを進んで牽引する役割を期待したい。詳細は神戸大学 LMS (学修管理システム BEEF) 「景観文化財学」で確認すること。					
<b>成績評価方法</b> 平常点による。課題レポート、調査、討論や発表など授業への参加取り組み度合いから、総合的に評価する。					
<b>成績評価基準</b> 秀、優、良、可、不可に基づく。					
<b>履修上の注意 (関連科目情報)</b> 専門的知識より、文化財や歴史資料等の保存活用に興味があることを重視します。30・40を連続受講のこと。					
<b>事前・事後学修</b> 法制度や理論は参考文献を読み、各自で文化財保存の実態や課題等を学ぶこと。自分たちで積極的に資料調査をし学習すると良い。グループワークである点に留意。					
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 人文学研究科C棟5階 C566室 火曜日12:30-13:00					
<b>学生へのメッセージ</b> この講義では実際に野外を歩き調査することを通じて、調査法を学ぶと共に、文化資源について考えていきたい。					
<b>今年度の工夫</b> 視聴覚教材を使って内容の理解を図る。学修支援システムBEEFで授業内容を案内する。参考図書を附属図書館資料ガイド "KULiP" で紹介している。					
<b>教科書</b> テキストは使用しない。プリントを配布する。以下はテーマに関する基本的図書である。 文化的景観：生活となりわいの物語 / 金田章裕：日本経済新聞出版社、2012、ISBN： 歴史的遺産の保存・活用とまちづくり / 大河直躬、三松康道編著：学芸出版社、2006、ISBN： 遺跡保存の事典 新版 / 文化財保存全国協議会：平凡社、2006、ISBN:9784582120110					
<b>参考書・参考資料等</b> 景観文化財、文化財に関する参考図書を体系的にまとめ、人文科学図書館KULiPコーナーで紹介している。下記はやや専門的だが、文化財保存・活用の重要な参考図書である。 現代の建築保存論 / 鈴木博之：王国社、2001、ISBN： 歴史的遺産の保護 / 加藤一郎 野村好弘：信山社出版、1997、ISBN:4797250127 遺跡と観光：市民の考古学シリーズ / 澤村明：同成社、2011、ISBN:9784886215642					
<b>授業における使用言語</b> 日本語					

また実社会に応用できる能力を身につけることを目的として、実習型の授業も重視している。例えば、日本語教育に関連する基礎的知識を習得した上で、3週間にわたって実施される「神戸大学夏期日本語日本文化研修プログラム」等において実習を行うことで、異文化交流と日本語教育の実体験ができる授業を行っている《資料Ⅱ-20》。

《資料Ⅱ-20：「日本語日本文化教育演習」シラバス》

開講科目名	日本語日本文化教育演習			開講区分	単位数
担当教員	實平 雅夫			前期	2.0単位
ナンバリングコード		曜日・時限	月5	時間割コード	1L523
授業のテーマ					
日本語日本文化教育と異文化理解					
授業の到達目標					
1) 日本語日本文化教育に関連する基礎的知識の習得 日本語日本文化教育に関連する講義（オムニバス形式・国際教育総合センター留学生教育部門教員が担当）と日本語の模擬授業を通して、日本語教授法、日本語学、日本文化・日本事情、異文化交流などの基礎的知識を習得する。					
2) 日本語教育の基礎的な教授スキルの習得 国際教育総合センター留学生教育部門で開講されている留学生対象とした日本語日本文化の授業の観察、及び本授業における日本語の模擬授業を通して、日本語日本文化教育のティーチングアシスタントや教授を担う際に必要となる基礎的な教授スキルを身につける。					
授業の概要と計画					
本授業では、日本語日本文化教育に関連する講義（オムニバス形式・国際教育総合センター留学生教育部門教員が担当）と日本語の模擬授業を通して、日本語・日本文化教育に必要な力とは何かを考える。授業のスケジュールは以下のとおり。全15回（30時間）。定員は12名程度。受講希望者が多い場合は、受講動機のレポートを課し、その評価により受講者を決定する。					
第1回目（4/10）オリエンテーション（授業の概要、スケジュール、評価について）					
第2回目（4/17）講義①「外から見た日本語」（朴秀娟）					
第3回目（4/24）講義②「日本語教授法1」（齊藤）					
第4回目（5/1）講義③「日本語教授法2」（實平）					
第5回目（5/8）講義④「日本語教授法2」（川上）					
第6回目（5/22）講義⑤「やさしい日本語」（ハリソン・黒田）					
第7回目（5/29）講義⑥「異文化コミュニケーション」（黒田）					
第8回目（6/12）講義⑦「外から見た日本」（ハリソン）					
第9回目（6/19）ニーズ調査、レディネス調査、教材分析・選定（『みんなの日本語』）					
第10回目（6/26）教案作成・検討①					
第11回目（7/3）教案作成・検討②					
第12回目（7/10）模擬授業・検討①					
第13回目（7/24）模擬授業・検討②					
第14回目（7/31）模擬授業・検討					
第15回目（8/7）模擬授業の振り返り・フィードバック					
成績評価方法					
本授業は、授業（講義）への参画、模擬授業への参加と模擬授業の振り返りシートの提出、期末レポートの3点で評価する。なお、講義全7回のうち5回以上、模擬授業全3回のうち2回以上出席していること、さらに最終レポートを提出していることが、成績評価の前提条件となる。すなわち、このいずれかの条件を満たさない場合、不可となる。					
成績評価基準					
1) 授業（講義）への参画：40%					
2) 模擬授業への参加と模擬授業の振り返りシートの提出（3回）：40% 日本語・日本文化教育の模擬授業の実施を通して日本語・日本文化教育に必要な力とは何かを考え、記録する。					
履修上の注意（関連科目情報）					
本授業は、セメスター開講科目（前期15回の授業）である。クォーターごとの履修は不可能であるので、注意すること。 関連科目情報：人文学研究科の日本語日本文化教育プログラム、国際文化学研究科の日本語教師養成サブコースの開講科目を履修することが望ましい。					
事前・事後学修					
国際教育総合センター留学生教育部門が2017年度前期に実施するオープンセンターウィークにおいて日本語及び日本事情科目の公開授業を観察して参観レポートを提出する。また、模擬授業終了後、振り返りシートを提出すること。					

学生に対する指導体制は、前期課程、後期課程ともに入学時から主指導教員が履修状況をチェックし、個別に指導を行う一方、他専攻の教員1名を含む副指導教員2名を置き、あわせて3名の指導教員が協力して指導に当たっている。学生は『学生便覧』に明記されている学修プロセスに従って修士論文研究計画書、博士論文作成計画書などを提出する《資料Ⅱ-21》。また、正副研究科長、正副大学院委員と各教育研究分野の代表で構成される学修プロセス委員会は、学位論文作成に向けて指導が適切に行われているかを検証するとともに、学修プロセスの見直しを行っている。

平成30年度も、学修プロセスにしたがって前期課程公開研究報告会（前期課程2年次）、後期課程公開研究報告会（後期課程2年次）、博士予備論文公開審査（後期課程3年次）が実施され、該当する学生のその時点における研究成果を踏まえて指導が行われた。

《資料Ⅱ-21：学修プロセスフロー》

人文学研究科学生の学修プロセスフロー図		
年次	時期	事項
<b>【博士課程前期課程】</b>		
1年次	4月20日	■「 <u>前期課程指導教員・研究テーマ届</u> 」提出
	5月20日	■「 <u>修士論文研究計画書</u> 」提出
2年次	4月10日	■ <u>修士準備論文を1部提出</u>
	6月第3水曜日	前期課程公開研究報告会
	前期課程公開研究報告会の翌週の金曜日	■主指導教員は「前期課程公開研究報告会終了報告書」を提出
	11月16日まで	■「 <u>修士論文題目</u> 」提出
	1月16日まで	■ <u>修士論文を1部提出</u>
	2月中旬	最終試験
	3月上旬	博士課程前期課程修了判定
	3月下旬	学位記授与式
<b>【博士課程後期課程】</b>		
1年次	4月20日	■「 <u>後期課程指導教員・研究テーマ届</u> 」提出
	5月31日	■「 <u>博士論文作成計画書</u> 」提出
2年次	7月1日	■主指導教員は指導学生の後期課程公開研究報告会発表題目を提出
	9月30日	後期課程公開研究報告会
	10月10日	■主指導教員は「後期課程公開研究報告会終了報告書」を提出
3年次	5月31日	■ <u>博士予備論文を3部提出</u>
	6月最終水曜日または7月第1水曜日	博士予備論文公開審査
	博士予備論文公開審査の翌週の金曜日	■主指導教員は「博士予備論文公開審査報告書」を提出
	12月1日～12月10日	■ <u>博士論文を5部提出</u>
	1月～2月	最終試験
	3月上旬	博士課程後期課程修了者（学位授与）認定
	3月下旬	博士学位授与
備考：_____は、学生が提出するもの。 ■は教務学生係に提出するもの。 博士課程前期課程9月修了者の修士論文題目は5月15日まで、修士論文提出は7月15日まで。 博士課程後期課程9月修了者の博士論文提出は、7月1日から7月10日まで。 (注) 時期が休日にあたる時は、その前日とします。ただし、修士論文提出については、その翌日とします。各年度の時期については、前年度の12月に掲示により通知します。		

学位論文の提出条件、作成要領は、人文学研究科博士課程後期課程の一期生が学位論文を提出するのに合わせて、平成21年度に「学位論文受理条件（申し合わせ）」および「学位論文等作成要領」を作成して明文化し、学生に周知した《資料Ⅱ-22》《資料Ⅱ-23》。

#### 《資料Ⅱ-22：学位論文受理条件（申し合わせ）》

論文博士 [2009年11月より適用]

原則として、出版されている研究書あるいは出版が内約されている研究書であること。出版が予定されていない場合には、2本以上の査読誌掲載論文を含んでいること。その場合、学位取得後1年以内に電子媒体サービス等を利用して刊行すること。

課程博士 [2010年4月入学者より適用]

- (1) 学位論文の内容を、査読誌ないしはそれに準ずる研究誌に刊行していること（採択済みも含む）、なお、教員が所属している教育研究分野でしかるべき規定を設けている場合には、この規定に加えて、当該教育研究分野の規定を尊重する。
- (2) 特段の理由がない限り、電子媒体サービス等を利用して、学位論文を学位取得後1年以内に刊行すること。

#### 《資料Ⅱ-23：学位論文等作成要領》

##### 学位論文等作成要領

学位論文の審査を願い出る者は、この作成要領に従って書類を整備すること。

#### 1 申請書類について

次に掲げる書類等を主指導教員を経て研究科長に提出するものとする。ただし、提出にあたっては、必ず主指導教員及び教務学生係の点検を受けること。

- |                              |      |
|------------------------------|------|
| (1) 学位論文審査願                  | 1部   |
| (2) 学位論文提出承認書                | 1通   |
| (3) 論文目録                     | 1部   |
| (4) 学位論文                     | 1編5部 |
| (5) 論文内容の要旨(4,000字程度、日本語による) | 7部   |
| (6) 履歴書                      | 1部   |
| (7) 参考論文                     | 1部   |

#### 2 学位論文について

- ・ 永久保存に耐え得るタイプ印刷とし、製本すること。
- ・ 規格は自由であるが、なるべくA4版が望ましい。
- ・ 表紙には、提出日、論文題目等を明記すること。(別紙見本Aを参照)
- ・ 提出後は、訂正、差し替えができないので、誤字、脱字等がないように注意すること。
- ・ 外国語による論文の場合は、提出論文の扉に、論文題目とその和訳(括弧書き)を併記すること。
- ・ 共著論文のうち、次の条件を満たしているものは、学位論文として受理することができる。
  - ①論文提出者が研究及び論文作成の主動者であること。
  - ②学位論文の共著者から、当該論文を論文提出者の学位論文とすることについての承諾書が得られること。(別紙承諾書添付)

#### 3 論文目録について

##### (1) 題目について

- ①題目(副題を含む)は、提出論文のとおり記載すること。
- ②外国語の場合は、題目の下にその和訳(括弧書き)を併記すること。

##### (2) 印刷公表の方法及び時期について

- ①公表は、単行の書籍又は学術雑誌等の公刊物(以下「公表誌」という。)に登載して行うものであること。
- ②論文全編をまとめて公表したものについては、その公表年月、公表誌名、(雑誌の場合は、巻・号)又は発行書名等を記載すること。また、論文を編・章等の区分により公表したものについては、それぞれの区分ごとに公表の方法・時期を記載すること。
- ③学位論文(編・章)について、別の題目で公表した論文をもって公表したものとする場合は、その題目(公表題目)を( )を付して併記すること。

④未公表のものについては、次の記載例を参照の上、その公表の方法、時期の予定を記載すること。  
(記載例)

イ すでに出版社等に提出し、出版が内約されている場合。

題目 ○○○○○○○○○ ○○○出版社から平成○○年○○月 刊行予定

ロ すでに投稿し、学会等において、掲載期日が決定しているが、申請手続の時点において、印刷公表されていない場合。

題目 ○○○○○○○○○ ○○○学会誌○巻○号 平成○○年○○月○○日 掲載予定

ハ 現在投稿中の場合。

題目 ○○○○○○○○○ ○○○学会誌 投稿中 平成○○年○○月○○日 投稿済み

ニ 近く投稿する予定の場合。

題目 ○○○○○○○○○ ○○○学会誌平成○○年○○月投稿予定

⑤共著の場合は必ず共著者名を付記すること。

(3) 冊数について

学位論文1通についての冊数を記載すること。

(4) 参考論文について

すでに学会誌等に発表した論文題目を記載し、その論文を添付すること。

4 履歴書について (別紙見本Bを参照)

(1) 氏名について

戸籍のとおり記載し、通称・雅号等は一切用いないこと。

(2) 学歴について

①高等学校卒業後の学歴について年次を追って記載すること。

②在籍中における学校の名称等の変更についても記載すること。

(3) 職歴・研究歴について

原則として常勤の職について、機関等の名称、職名等を正確に年次を追って記載すること。ただし、学歴と職歴に空白となる期間があり、非常勤等の職歴がある場合はこれを記入し、職歴等に不明な期間がないように記載すること。

(4) 賞罰について

特記すべきものと思われるものを記載すること。

5 論文内容の要旨について

記載方法については、(別紙見本C)を参照。

以上

ティーチングアシスタント (TA) は、授業の必要性に応じて適宜配置している《資料Ⅱ-24》。TA 採用者に対しては「TA ハンドブック」を配布するとともに、授業担当者からのガイダンスを行っている。

《資料Ⅱ-24 : TA の人文学研究科への配置実績 (平成27~令和元年度、単位 : 人)

	講義科目	演習・実習科目等
平成27年度	2	15
平成28年度	1	10
平成29年度	2	15
平成30年度	4	9
令和元年度	1	17

シラバスは、すべてウェブサイト上に公開しており、担当教員名、講義目的、授業内容、成績評価・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等の履修情報を掲載し、学習の便宜を図っている。履修科目登録時には、指導教員が点検し、学生の意欲や関心に合った履修を促している。シラバスに参考文献や授業の履修条件を適宜示すことにより、学生の主体的学修を促している。また、オフィスアワーが各教員のシラバスに記載され、授業時間外に学修・学生生活に関する質問・相談に応じている《43頁の資料Ⅱ-19、44頁の資料Ⅱ-20》。

## II-4-2. 主体的な学習を促す取組

履修科目登録にあたって指導教員が点検し、学生の意欲や関心に合った履修を促している。シラバスに参考文献や授業の履修条件を適宜示すことにより、学生の主体的学修を促している。

大学院生の学習意欲を高めるために、海外で研究発表を行う機会や調査・実験を行う機会を提供している。特に後期課程の大学院生の、海外で開催される学会への参加に対して、大学院学生海外派遣援助事業などを活用して支援してきた《資料II-25》《資料II-26》。また、海港都市研究センターは、台湾・大韓民国・中華人民共和国の大学と連携して、大学院生の研究発表を中心とする国際シンポジウム（海港都市国際シンポジウム）を継続的に開催してきた。平成29年度は提携校と連携して国際シンポジウムを開催し、大学院生の海外派遣を行っている。

### 《資料II-25：平成25年度から令和元年度までの、大学からの資金援助を得た海外派遣件数》

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	7	4	14	13	12	18	11

※平成26年度までは、神戸大学基金による海外派遣件数である。

### 《資料II-26：令和元年度における大学からの資金援助を得た海外派遣》

教育研究分野	派遣先	派遣目的	発表論文名
哲学	中国 大連理工大学	研究発表	The Ex nihilo Creation in the Work of Cornelius Castoriadis - The Case of Legal Rules
美術史学	アメリカ サンフランシスコ・アジア美術館 ほか	作品調査	
国文学	ルーマニア ディミトリエ・カンテミール大学	2019年度日本語日本文化教育インターンシップ活動	
社会学	ドイツ ハンブルク大学	2019年度日本語日本文化教育インターンシップ活動	
美術史学	アメリカ ボストン美術館 ほか	科研費にかかる調査補助	
美術史学	アメリカ メトロポリタン美術館 ほか	科研費にかかる調査補助	
社会学	ポーランド ヤゲウォ大学	神戸大学とヤゲウォ大学の Lecture Series Programme への参加	
日本史学	① ブリュッセル自由大学 ほか ② ルーヴェン大学	① 第10回ブリュッセルオフィスシンポジウム参加、報告 ② 日本学研究の学生と交流	Anecdotal Reports of Protection and Utilization of Regional Historical Heritage (地域歴史遺産の保全・活用に関する事例報告)
国文学	イギリス オックスフォード大学	2019年度日本語日本文化教育インターンシップ活動への参加	
芸術学	フランス パリ・ナンテール大学	「ナンテール・神戸・大阪」シンポジウム参加、発表	Artaud's voice in "Pour en finir avec le jugement de dieu"
社会学	フランス、パリ・ナンテール大学	「ナンテール・神戸・大阪」シンポジウム参加、発表	Georg Simmel's "Rembrandt" and society inner socialization and immanent generalization

環境面では、平成19年度の学舎改修に際して学生用スペースを拡張したが、平成22年度以降にはラーニング commons の設置、情報処理室の拡充などを行うことで、《資料Ⅱ-27》のように主体的な学修を促す環境を整備している。

《資料Ⅱ-27：主体的な学習を促す環境の整備項目》

施設等	概要
図書館（日本文化資料コーナー）	<p>本学部の人文科学図書館は書籍約30万冊を有し、毎年確実に蔵書数を増やしている。授業期間中は、平日（8時45分～20時）および土曜日（10～18時）、試験期間中は、平日の夜間（21時まで）および日祝日も開館している（10～18時）。</p> <p>「日本文化資料コーナー」を設けて資料、貴重図書、レファレンス類を集中的に配架し、複数の辞書類・資料を同時に縦覧する必要がある歴史・文学系等の学生の利便を図っている。</p>
学生用共同研究室	学生が個人あるいはグループで調査・研究するために使用できる「共同研究室」を教育研究分野ごとに設置し、学生の自主学習へ配慮している。
コモンルーム	学生がグループ学習や研究会などのために自由に使用することのできる「コモンルーム」を3カ所設置し、学生の自主学習へ配慮している。
共同談話室	教員と学生が共同研究、読書会など行うために使用することができる「共同談話室」を5カ所設置し、自由な共同学習や演習等の授業に活用している。可能な限り具体的な活用状況を入れる。
情報機器	学生が利用できるパーソナル・コンピューターを「情報処理室」（平成22年度 B 棟に移転・拡充）に48台、人文科学図書館に18台を設置するとともに、各専修の共同研究室や実験室などにも適宜配置している。
教育機器	視聴覚機材を平成21～23年度 B 棟に、平成24年度 C 棟に設置し、ほとんどの教室で視聴覚機材（プロジェクター、スクリーン、DVD など）を使った授業ができるようになった。
ラーニング commons	自由に机と椅子を組み合わせ、図書館資料を自由に使用し、グループで話し合いながら学習を進めることができるスペースとして、「ラーニング commons」が人文科学図書館に設置された。平成25年度から運用が始まり、自主学習や演習等の授業に活用されている。

## Ⅱ-5. 学業の成果

### Ⅱ-5-1. 学生が身に付けた学力や資質・能力

本研究科博士課程前期課程の学位取得等の状況は、《資料Ⅱ-28》のとおりである。ここ数年、人文学研究科博士課程前期課程の入学者の標準修業年限（2年）内修了者の比率は、平均約77%となっている。本研究科博士課程後期課程の学位取得状況は《資料Ⅱ-29》のとおりである。平成19年度の人文学研究科への改組以後は、修業年限（3年）内の学位取得者の比率は平均約27%となっている。修士学位論文の題目は《資料Ⅱ-30》、博士学位論文の題目は《資料Ⅱ-31》のとおりである。また、専修教育職員免許状の取得状況は《資料Ⅱ-32》のとおりである。

多数の学生が国際学会や全国規模の学会等で研究成果を発表し、優秀論文賞を受賞するなど、在学生の研究成果が各種学会等において高く評価されている《資料Ⅱ-33》。

《資料Ⅱ-28：人文学研究科（博士課程前期課程）の修士学位取得状況一覧 令和元年3月現在》

入学年度 （標準修業年度）	入学者総数 （a）	既修了者数 （b）	既修了率 （b/a）	標準年限内修了者数（c）	標準年限内修了率（c/a）
平成27年（平成28年）	61	57	93.4%	49	80.3%
平成28年（平成29年）	58	51	87.9%	43	74.1%
平成29年（平成30年）	48	48	100%	37	77.1%
平成30年（令和元年）	42	40	95.2%	33	78.6%

《資料Ⅱ-29：人文学研究科（博士課程後期課程）の博士学位取得状況一覧 令和元年3月現在》

入学年度 (標準修業年度)	入学者総数 (a)	既修了者数 (b)	既修了率 (b/a)	標準年限内修了者数 (c)	標準年限内修了率 (c/a)
平成26年 (平成28年)	23	12	52.2%	7	30.4%
平成27年 (平成29年)	25	9	36.0%	5	20.0%
平成28年 (平成30年)	16	5	31.3%	2	12.5%
平成29年 (令和元年)	23	4	17.4%	4	17.4%

《資料Ⅱ-30：令和元年度人文学研究科博士課程前期課程修了者の修士論文題目》

専攻	教育研究分野	論文題目
文化構造専攻	哲学	現在のAIの観点によるAI批判の再検討と工学的応用
	哲学	知識論における懐疑主義への批判
	倫理学	デジタル時代に於ける感情をめぐる考察—京都学派を手がかりにして
	国文学	安部公房 作品研究—作品における主体の現れ—
	国文学	理由を表さないカラの習得—中国語母語話者を対象として—
	国文学	明治期の漢語の理解—漢語辞書『新令字解』をめぐる
	国文学	東国文学としての畠山伝説の探究—『吾妻鏡』と『曾我物語』を中心に—
	中国・韓国文学	韓国における漢字教育と漢字事情—第7次教育課程の漢字教育を中心に—
	中国・韓国文学	蕭紅『馬伯樂』論—主人公の持つ微笑を中心に—
	中国・韓国文学	『山海経』における生物の効能と、陶淵明によるその受容
	中国・韓国文学	近代韓国の「新女性」羅蕙錫をめぐる近代女性論—理想と現実の狭間—
社会動態専攻	ヨーロッパ文学	ミラン・クンデラ研究
	日本史学	明治中期の教育団体に関する一考察—東京高等師範学校同窓会「茗溪会」を中心に
	日本史学	天文後期における長尾景虎・政景の抗争—魚沼郡域在地勢力の検討を中心に—
	日本史学	7世紀後半における東アジア墓誌資料の基礎的研究—百済・高句麗人墓誌の検討—
	日本史学	古代地方行政における雑任層の編成と展開—調庸輸納を例として—
	日本史学	1920年代の政党政治批判の特質—「政界革新」運動を中心に
	西洋史学	中世後期シエナにおける水道事業—1309年-1310年俗語訳都市条例の分析を中心として—
	心理学	孤独感とコミットメントシグナルへの感受性の関係について
	心理学	イヌの同種他個体の音声に対する行動反応
	心理学	罪悪感と心拍数の関係性について
	心理学	外国語学習者のワーキングメモリーについての検討
心理学	顕示選好理論に基づく利他的行動の研究	
言語学	限定修飾形容詞を含む名詞句の統語構造分析	



	芸術学	ジャック・デリダにおける自伝と民主主義
	芸術学	アントナン・アルトー『神の裁きと訣別するため』における秩序と配置
	社会学	関西在住フィリピン人の生活実践—エスニックコミュニティと高学歴者の事例から—
	社会学	中国における小都市出身者の結婚実態 — K市第三世代を事例として
	社会学	地域社会における華僑華人社会 — 神戸市・南京町春節祭の創出と変容を中心に—
	社会学	日本人の若者の中国留学に関する一考察
	美術史学	東寺講堂四天王立像について — 持国天の様式を中心に—
	美術史学	ナバレーテ《聖ラウレンティウスの埋葬》とエル・エスコリアル修道院
	美術史学	山本芳翠作《十二支》研究
	美術史学	ピーテル・サーンレダムの教会画需要と画家の戦略
	美術史学	『程氏墨苑』におけるキリスト教の受容
	美術史学	(伝) 李嵩「西湖図」の作者と制作年代についての考察
	美術史学	明末版画とキリスト教美術—『誦念珠規程』を中心に—
	美術史学	朝鮮美術展覧会における「郷土色」について
	美術史学	『円明園西洋楼透視図銅版画について』
	地理学	近世大坂における蔵屋敷の立地と関係性

《資料II-31：令和元年度人文学研究科博士課程後期課程修了者の博士論文題目》

専攻	教育研究分野	博士論文題目
文化構造	哲学	Richard Rorty's Critique of the Self: How Does Subjectivity Transform Itself into the Inter-subjectivity? (リチャード・ローティの自己批判:主観性はどのようにして相互主観性に変化するのか?)
	倫理学	「雑種文化」と「土着世界観」をめぐる問い — 戦後知識人・加藤周一の射程 —
	倫理学	ミシェル・フーコーの真理と虚構の概念について
	倫理学	「想像力」概念の技術論的展開 — 技術・イマジナリー・想像力
社会動態	日本史学	国策研究会論 — 「国策」と「挙国一致」の言説をめぐる —
	日本史学	近現代日本の青年教育と徴兵制 — 総力戦体制の構築と限界性 —
	西洋史学	17世紀前半ヴェネツィア共和国の本土領統治 — 1619-1621年の本土領監査審問官の巡察を中心に —
	言語学	A Cognitive Linguistic Study of Noun-to-Verb Conversion in English: An Integrated Approach of Frame Semantics and Conceptual Metonymy Theory (英語名詞転換動詞の認知言語学的研究:フレーム意味論と概念メトニミー理論の統合的アプローチ)
	社会学	日本における中国人ニューカマーとその子どもたち
	社会学	アイデンティティ理論の再構築
	社会学	電子メディア上の相互行為における「現実」の組織化の諸相 — Twitterにおける「フレームの重層化」に着目して
	文化資源論	歌川国芳研究:水滸伝を中心に

《資料Ⅱ-32：教育職員免許（専修免許状）取得状況》

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取得者数	19	6	13	14	9	8	2

《資料Ⅱ-33：平成23～令和元年学生受賞者一覧》

氏名	所属（受賞時）	成績功績等の概要
李瑩瑩	人文学研究科 博士課程後期課程	論文「上代漢字文献における「矣」の用法」が、平成23年度漢検漢字文化研究奨励賞・佳作（財団法人 日本漢字能力検定協会）を受賞した（平成23年度）。
八木彩乃	人文学研究科 博士課程前期課程	グローバルCOE「心の社会性に関する教育研究拠点」総括シンポジウム「心はなぜ、どのように社会的か？～フロンティアとアジェンダ～」(2012. 3. 17開催)で若手ポスターアワードを受賞した（平成23年度）。
大杉千尋	人文学研究科 博士課程後期課程	論文「イーゼンハイム祭壇画《キリスト復活》に関する一考察 — 「オランダ型」キリストの機能をめぐって」により、第12回美術史論文賞を受賞した（平成26年度）。
Charis Eisen	人文学研究科 博士課程後期課程	選択がないような状況における人々の行動の文化差および自己観による影響を検討した研究内容が独創性や発展性の面で高く評価され、日本社会心理学会の若手研究者奨励賞を受賞した。（平成27年度）
竇新光	人文学研究科 博士課程後期課程	中国国家優秀自費留学生賞を受賞した（平成28年度）。
王輝楷	人文学研究科 博士課程後期課程	中国国家優秀自費留学生賞を受賞した（平成28年度）。
Charis Eisen	人文学研究科 博士課程後期課程	学術研究活動において、国際的規模又は全国的規模の学会から賞を受けたものとして本学の学生表彰を受けた（平成28年度）。
田中大貴	人文学研究科 博士課程後期課程	日本人間行動進化学会第9回大会（2016年12月10日-11日）で行ったポスター発表に対して若手奨励賞を受けた（平成28年度）
川上恵理	人文学研究科 博士課程後期課程	美術史の分野では新人の登竜門である鹿島美術財団の優秀賞を受賞した（平成29年度）。
佐々木純哉	人文学研究科 博士課程前期課程	権威のあるグレンツェンピアノコンクール第9回全国大会の大学・一般コースにおいて、金賞(最高位)を獲得したことにより本学の学生表彰を受けた（平成29年度）。
徳宮俊貴	人文学研究科 博士課程後期課程	関西社会学会第70回大会での研究報告に対して、奨励賞を受けた（令和元年度）。

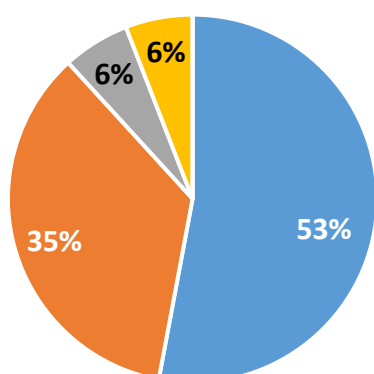
Ⅱ-5-2. 学業の成果に関する学生の評価

「授業振り返りアンケート」平成30年度後期の結果では、教育の成果や効果に関する質問項目の「この授業の内容はよく理解できましたか。」「シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。」のうち、前者については最上点と次点の回答者の合計が88%、後者については最上点と次点の回答者の合計が91%といずれも良好な結果が得られており、いずれも極めて高いレベルを維持している《資料Ⅱ-34》。

また、令和元年度の修了時アンケートでは、「専門分野に関する深い知識・技能」、「幅広い教養」について、身についたという回答が多く得られた。これらと比較すると少し肯定的な回答が減っているが、「外国語の運用・表現能力」についても大いに身についた・どちらかといえば身についたという回答を合わせて75%となっている《資料Ⅱ-35》。

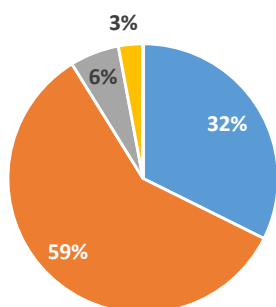
《資料II-34：「令和元年度1Q, 2Q, 3Q, 4Q 授業評価アンケート」結果（抜粋）》

この授業の内容はよく理解できましたか



- そう思う
- どちらかと言えばそう思う
- どちらでもない
- どちらかと言えばそう思わない
- そう思わない

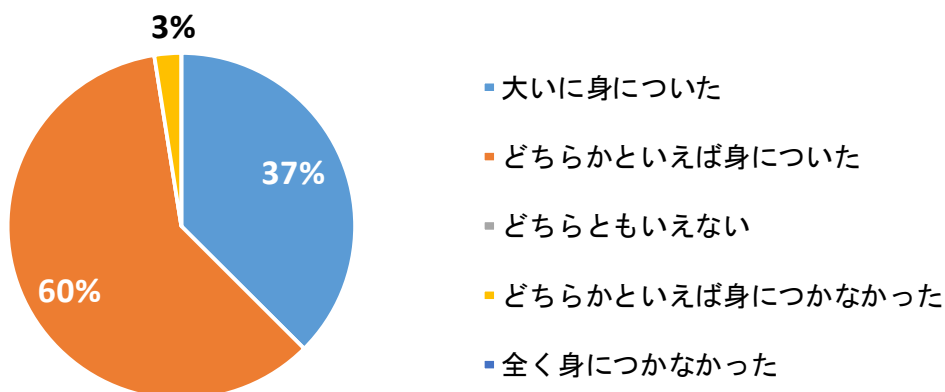
シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか



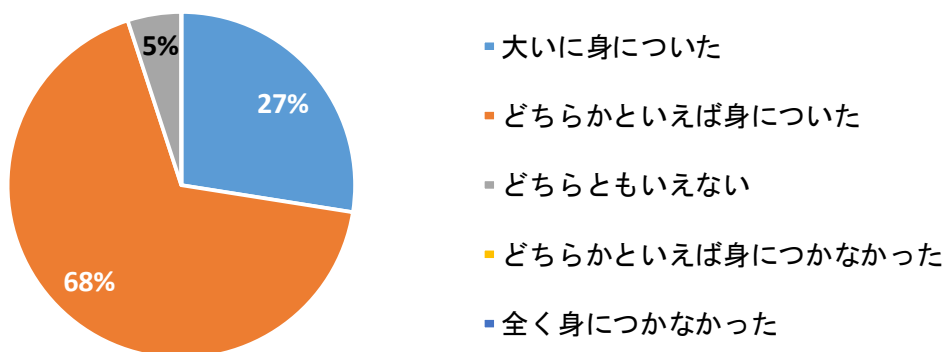
- 十分に達成できた
- ある程度達成できた
- どちらとも言えない
- あまり達成できなかった
- 達成できなかった
- 目標がわからない
- シラバスを読んでいない

《資料Ⅱ-35：「令和元年度人文学研究科修了時アンケート」結果（抜粋）》

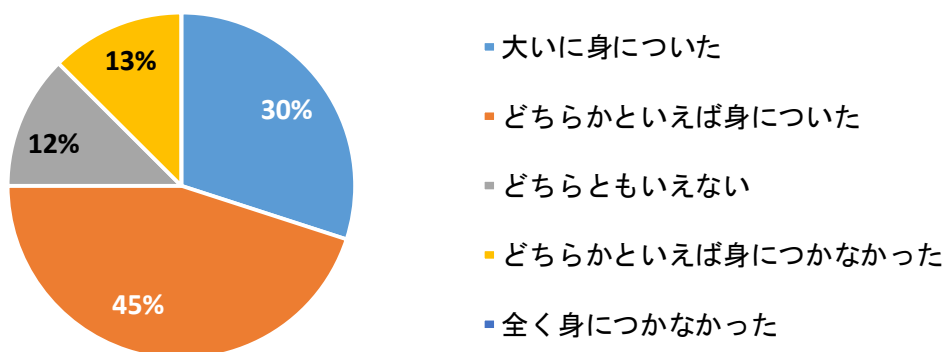
専門分野に関する深い知識・技能



幅広い教養



外国語の運用・表現能力



## II-6. 進路・就職の状況

### II-6-1. 修了後の進路の状況

人文学研究科博士課程前期課程の就職率及び進学率は《資料II-36》、進路状況は《資料II-37》の通りである。進路就職先としては教育・研究関係や公務員など、本研究科の教育成果が活かされる職種に就く者もいるが、近年は一般企業に就職する者も一定数いる。就職希望者の就職率は近年上昇しており、前期課程修了が社会で働く上でハンデにはなっていないことがうかがえる。

《資料II-36：人文学研究科（博士課程前期課程）修了者の就職率及び進学率》

修了年度	修了者数	進学者	就職者	就職希望者	進学率	就職希望者の就職率
平成28年度	60	20	26	40	33.3%	65.0%
平成29年度	51	14	19	37	27.5%	51.4%
平成30年度	47	13	27	33	27.7%	81.8%
令和元年度	40	14	20	23	35.0%	87.0%

《資料II-37：人文学研究科修了生（博士課程前期課程）の進路状況》

卒業年度	一般企業	学校教育・その他教育	国家公務員・地方公務員	進学者
平成28年度	17	3	6	20
平成29年度	9	4	1	14
平成30年度	18	5	4	13
令和元年度	13	5	2	14

人文学研究科博士課程後期課程の修了者の就職先（常勤職）は、《資料II-38》のようになっている。常勤研究・教育職への就職は昨今の日本において極めて厳しいのが現実であるが、国内外の大学の教員、各種研究機関の研究員、博物館等の学芸員など、相当数の者が専門を生かした職業に就いている。また、《資料II-39》に示すように日本学術振興会特別研究員（PD）に採用された者も少なくない。また本研究科は、《資料II-40》のように、各種研究プロジェクトに優秀な大学院生を一定数リサーチアシスタントとして採用しているほか、《資料II-41》のように、若手研究者を支援する目的で、標準修業年限内に修了した学生を人文学研究科や文学部の非常勤講師として2年間を限度に採用している。さらに、日本学術振興会の教育改革支援プログラムなどの経費によって学位取得者を学術推進研究員として採用している。このような形で、博士号取得後の若手研究者の研究キャリアを支援している。

《資料Ⅱ-38：人文学研究科（博士課程後期課程）修了者の進路（常勤職のみ）》

修了年度	大学 教員	各種研究 機関研究 員	博物館・ 美術館等 学芸員	中学校・ 高等学校 教員	日本学術 振興会特 別研究員	本研究科 研究員	その他
平成28年度	1	0	0	0	1	3	7
平成28年度	1	0	0	0	1	3	7
平成29年度	1	0	0	0	0	3	8
平成30年度	2	1	0	0	0	0	0
令和元年度	3	0	0	0	0	0	1

《資料Ⅱ-39：日本学術振興会特別研究員採用数》

年度	PD	DC
平成28年度	1	10
平成29年度	4	6
平成30年度	2	5
令和元年度	4	8

《資料Ⅱ-40：リサーチアシスタント採用者数》

年度	採用者数	備考
平成28年度	5	本部からの配分のみ
平成29年度	4	本部からの配分のみ
平成30年度	3	本部からの配分のみ
令和元年度	2	本部からの配分のみ

《資料Ⅱ-41：標準修業年限内学位論文提出者への支援（新規採用）》

論文提出年 度	教育研究分野	職名
平成28年度	社会学 国文学	非常勤講師 学術研究員、非常勤講師
平成29年度	国文学 心理学 社会学 国文学 社会学	非常勤講師 学術研究員 学術研究員 非常勤講師 学術研究員、非常勤講師
平成30年度	国文学 社会学 言語学 日本史学 社会学	非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 学術研究員、非常勤講師 学術研究員、非常勤講師
令和元年度	言語学 日本史学 社会学	非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師

### Ⅲ. 研究（文学部・人文学研究科）

#### Ⅲ-1. 文学部・人文学研究科の研究目的と特徴

文学部・人文学研究科は、人文学すなわち人間と文化に関わる学問を扱い、哲学・文学・史学・言語学・行動科学などの人文系諸科学を包括している。以下に文学部・人文学研究科の研究目的、組織構成、研究上の特徴について述べる。

##### Ⅲ-1-1. 研究目的

1. 文学部・人文学研究科は、人類がこれまで蓄積してきた人間・文化及び社会に関する古典的な文献の原理的研究並びにフィールドワークを重視した社会文化の動態的分析を通じ、新たな社会的規範及び文化の形成に寄与する研究を行うという目的を掲げている。
2. この研究目的を達成するため、現行の中期目標に「卓越した研究成果を世界に発信するとともに、現代社会が抱える様々な課題にも取り組む」ことを定めている。
3. また「既存の学術分野の深化・発展と学際的な分野融合領域の開拓だけではなく、未来社会を見据えた重点分野における先端研究を展開し、さらに、将来これらの研究を担う、優れた若手研究者の養成・輩出に努める。」という中期目標に沿って複数の専門分野から成る教育研究組織を活用した共同研究を行うと共に、「多様で広範なレベルで国際・地域社会との連携を強め、教育研究活動の成果を広く社会に還元する。」という中期目標に沿って専門分野の業績を一般向けに解説した著書等で研究成果を広く社会へ発信する。
4. 以上をとおして、当該分野での国内外の研究水準を引き上げ、さらに人文学のみならず他の専門分野の研究にも貢献することを目指す。

##### Ⅲ-1-2. 組織構成

これらの目的を実現するため、人文学研究科では《資料Ⅲ-1》のような組織構成をとっている。

###### 《資料Ⅲ-1：組織構成》

専攻	講座	教育研究分野
文化構造	哲学	哲学、倫理学
	文学	国文学（国語学を含む）、中国・韓国文学、英米文学、ヨーロッパ文学
社会動態	史学	日本史学、東洋史学、西洋史学
	知識システム論	心理学、言語学（英語学を含む）、芸術学
	社会文化論	社会学、美術史学、地理学、文化資源論（連携講座：後期課程のみ）

##### Ⅲ-1-3. 研究上の特徴

1. 文学部・人文学研究科の研究上の特徴は、人文学の専門分野の諸研究をたえず深化させる一方、その多様な研究方法と研究成果を地域社会の文脈に定位しながら現代日本の諸問題にも適用し、学際的かつ国際的に展開される人文学を構築してきた点にある。
2. 文学部・人文学研究科は「地域連携センター」「海港都市研究センター」「倫理創成研究プロジェクト」「日本文化社会インスティテュート」の4共同研究組織を設置し、様々な共同教育研究プロジェクトを異なる分野の教員が協力して実施することをおして、単独の分野のみでは不可能な幅広い視野から人文学の研究を推し進めている。
3. 平成15年度に「地域連携センター」を設置し、日本史学、美術史学、地理学、社会学等の地域連携に関係する諸分野が協力しながら運営している。同センターの設置目的は、地域の歴史文化に関する研究成果を当該地域社会に還元し、地域の歴史的環境を生かした街づくり、里づくりを支援していくことである。

4. 海港都市研究、国境を越える人の移動、異文化との交流による社会と文化の変容について研究するための国際的ネットワークを構築するために、平成 17 年に「海港都市研究センター」を設置した。同センターでは、東アジアを中心とした人と文化の接触および新しい文化創造の可能性を検討し、国という分断的な壁を乗り越えて、緩やかな公共空間を構築するための条件とプロセスを解明することを目的としている。
5. 倫理創成研究プロジェクトを推進して、現代日本で求められている、新しい倫理システムの創成に関する研究を行っている。具体的には「リスク社会の倫理システムの構築」と「多文化共生の倫理システムの構築」の研究をとおして、現代社会の倫理システムを人文学の多様な観点から分析し、科学技術のグローバル化によって特徴づけられる時代に対応した新しい倫理システムの創成を目指している。
6. 平成 26 年度に共同研究組織を再編し、平成 20 年度に設置された「日本語日本文化教育インスティテュート」を吸収して「日本文化社会インスティテュート」を設置した。日本文化社会インスティテュートは、日本文化、社会に関する教育・研究、および日本における人文学の教育・研究を、国際交流を通じて深化・発展させることを目的とし、人文学研究科のみならず、法学研究科、EU 教育府の先生方の協力を得て、運営されている。日本文化社会インスティテュートは、これまで頭脳循環プロジェクト、日本語日本文化教育プログラム、KOJSP、グローバル人材育成などの関連諸事業を総括するとともに、上記の目的を実現するための、国際的なシンポジウムの企画、新たなプロジェクトなどを実施している。

### Ⅲ-1-4. 研究をサポートする体制

文学部・人文学研究科は、平成 19 年度に特別研究制度（サバティカル制度）を創設し《資料Ⅲ-2》、教育上・学内行政上、著しい貢献が認められ、当該年度に要職を免れた教員に、半年間、教育・学内行政に関する業務を免除し、研究に専念することを認めている。平成 26 年度から令和元年度までの間にこの制度を利用した教員の数に《資料Ⅲ-3》のとおりである。

#### 《資料Ⅲ-2：「特別研究制度に関する申合せ」平成 19 年 6 月 13 日制定》

人文学研究科に勤務する教員の資質向上と学部・大学院教育の発展を図るため、研究に専念する機会を与え、今後の教育研究活動に資する基盤を提供する。この機会を与えられた者は、授業及び教授会、各種委員会等の仕事を免除され、前期（4月～9月）もしくは後期（8月～1月）の半年間、国内外において研究に専念する。

##### <申請資格>

次の条件をすべて満たしていること。

1. 申請時において神戸大学大学院人文学研究科に3年以上在勤の者。
2. 過去5年間に於いて、夏期休業期間（8月、9月）と土曜日・日曜日・祝日を除き同一年度で通算40日以上の海外出張、研修（ただし、集中講義は除く。）、休暇をとっていない者。ただし、病気休暇・産前休暇・産後休暇・忌引は上記の期間（40日）に含めないものとする。勤務年数が5年に満たない者は、神戸大学大学院人文学研究科着任以降の期間を対象とする。
3. 所属専修及び所属教育研究分野から教育上支障ないとの承認を受けた者。
4. 特別研究期間開始時に定年まで1年以上の在職期間を残す者。

##### <選考規程>

1. 年度ごとに若干名とする。
2. 教育上及び行政事務上の支障がないものと認定された者に限る。
3. 選考委員会において次の条件を記載順に考慮し候補者を選定する。
  - (ア) 優れた研究計画を有する者。
  - (イ) 行政事務において貢献度の高い者。
  - (ウ) 「申請資格」2項の条件を長期間満たしている者。
4. 選考委員会は研究科長、副研究科長及び各講座から1名ずつの委員、教務委員（副）、以上9名により構成される。
5. 選考委員会は特別研究期間の前年7月31日に申し込みを締め切り、9月30日までに選考を行った後、その結果を10月1回目の教授会に諮る。



<附則>

1. 特別研究制度を利用しても、その後の授業負担は増えないものとする。
2. この制度が円滑に実施できるよう、必要に応じ、所属専修及び所属教育研究分野に対し非常勤講師枠配分等の措置を講ずるものとする。
3. 特別研究期間中の当該研究者の行政事務（委員会委員等の職務）は他の教員が代替する。
4. 特別研究期間中は国内外での非常勤講師等を禁止する。ただし、選考委員会がやむをえない事情があると認めた場合には、これを許可することがある。
5. 特別研究期間の制度を利用した者は、研究期間終了後直ちに研究報告書を教授会へ提出する。

附 則

この申合せは、平成19年6月13日から施行する。

附 則

この申合せは、平成27年4月22日から施行する。

《資料Ⅲ-3：特別研究制度を利用した教員数》

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
2人	2人	1人	2人	1人	1人

## Ⅲ-2. 研究活動の状況

文学部・人文学研究科の教育研究の性格を反映して、研究活動は論文・著書の執筆および研究発表に集中している。また、研究活動にあたっては、科学研究費補助金のみならず、各種の外部資金を積極的に獲得して、研究の水準を向上させている。

### Ⅲ-2-1. 研究実績の状況

本研究科の2016年度から2019年度の日本語による著書数は年間平均30.25冊、そのうち外国語による著書数は年間平均6.25冊であった。また、同期間の日本語による査読付き論文数は年間平均17.5本、外国語による査読付き論文数は年間平均27本である《資料Ⅲ-4》。研究業績は多言語で行われ、これは本研究科の特色および研究目的に合致する。研究業績の学術的意義の高さを示すものとして、《資料Ⅲ-5》に平成29年度以降の各種学会賞等の受賞者をあげる。

《資料Ⅲ-4：研究活動実施状況（2016年度～2019年度）》

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
専任教員数		64	62	57	54
著書数	日本語	23(5)	29(2)	37(5)	32(8)
	外国語	8(1)	5(1)	7(4)	5(1)
招待論文数	日本語	18	21	14	24
	外国語	7	5	3	4
査読付き論文数	日本語	27	12	16	15
	外国語	28	32	23	25
その他		168	153	147	95

※1 「専任教員数」については、各年度の5月1日現在の当該学部・研究科等に所属する研究活動を行っている専任教員（教授、准教授、講師、助教）の人数。

※2 著書数については、内数として「単著」の数を記載している。

※3 学会発表や「査読付き論文」に当たらない論文などについては、「その他」としてカウントしている。

《資料Ⅲ-5：平成29年度以降の受賞》

年度	受賞者	賞の名称
平成29年度	野口泰基 野口泰基	科学研究費補助金審査委員表彰 神戸大学優秀若手研究賞
平成30年度	喜多伸一	特別研究員等審査会専門委員（書面担当）表彰
2019年度	奥村弘	読売あをによし賞

### Ⅲ-2-2. 学内共同研究組織における研究活動

神戸大学では、平成28年4月に文系・理系という枠にとらわれない先端研究・文理融合研究を推進し、新たな学術領域を開拓・展開するために「先端融合研究環」が設置された。人文学研究科の教員も、同研究環の「人文・社会科学系融合研究領域」に配置され、先端的・学際的な文理融合研究を推進しつつある。同研究領域で実施されている9の研究プロジェクトの内、「メタ科学技術研究プロジェクト：方法・倫理・政策の総合的研究」では、松田毅教授がプロジェクトリーダーを務め、他に4名の教員が研究分担者・研究参画者となっており、「人文情報の文理融合研究と地域学創出」では、奥村弘教授がプロジェクトリーダーを務め、他に4名の教員が研究分担者・研究参画者となっている。この他、「現代中国研究拠点」では1名が研究分担者として、「移住・多文化・福祉政策に関する国際的研究拠点の形成」では2名が研究参画者として、研究に携わっている。

#### メタ科学技術研究プロジェクト：方法・倫理・政策の総合的研究

「メタ科学技術研究プロジェクト：方法・倫理・政策の総合的研究」は、知識基盤社会の土台となる、科学技術を焦点に、探究方法と価値規範、政治経済の相互に関連する不可欠の三つの観点、広義の「科学方法論」「科学技術倫理」「科学技術政治経済学」を統合し、科学技術に関する、人文社会科学の共同研究のスタイルを開発・確立することを志している。人文学研究科、法学研究科、経済学研究科、人間発達環境学研究科、国際文化学研究科の教員有志で立ち上げ、開始したが、29年10月からは、これに連動させ、農学研究科、工学研究科、海事科学研究科の教員、京都大学、北海道大学、東京工業大学などの他機関の研究者、熟議による次世代エネルギーに関するワークショップの実践者などを加え、「日本学術振興会：課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業（領域開拓プログラム（研究テーマ公募型））」「責任ある研究とイノベーション」の概念と「社会にとっての科学」の理論的実践的深化」として、「生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究-21世紀型参加のビジョンと試行-」を行っている。令和元年度末までに、4度の国際ワークショップを含む、40回を超えるワークショップを開催した（各回の内容については、第2部Ⅱ-3 倫理創成プロジェクトを参照。）特に、国際ワークショップでは、アメリカ、イギリス、ドイツ、カナダ、中国から第一線の研究者を招聘し、先端的な環境・生命技術の社会実装に関する「公共政策を焦点とした人文社会科学の融合研究」を実践した。その成果は、オクスフォード大学ブラバトニック公共政策大学院教授のウルフ教授を編者に加え、神戸大学 social science research series (Springer)の英文論文集として2020年度前半に出版予定である。

#### 人文情報の文理融合研究と地域学創出

日本社会の国際化と地域課題の深刻化に対応する人文学の全国的な知の共有のための研究とそれに基づく社会連携は、現在重要な課題となっている。「人文情報の文理融合研究と地域学創出」では、この課題を深め、新たな人文学のあり方を模索するために、阪神・淡路大震災以来、この課題に対して持続的な研究を進める人文学研究科を拠点として、大学共同利用機関法人人間文化研究機構と協力し、人文系学術情報の全国的な共有化モデル形成とそれを基礎とした地域学の創出を研究目的とする。そのため人文学研究科は、2016年度に国立歴史民俗博物館と「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」を相互に協力して推進することで合意し協定を結んだ。

上記の協定を発展させる形で、2018年1月に、神戸大学と東北大学と人間文化研究機構（基盤機関：国立歴史民俗博物館）との三者で、「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（略称：

歴史資料保全NW事業) についての連携協定が締結された。この事業は、歴史文化資料保全およびそのための全国的な相互支援体制の構築や、資料保全を担う人材の育成・教育プログラムの研究、地域の歴史文化の継承にかかわる大学の機能強化を主な目的としている。本センターは、中心拠点の一つである神戸大学大学院人文学研究科が行う事業の主導機関である。

令和元年度は、全国的な広域ネットワーク形成にかかわる協議会・シンポジウム等を以下の通り行った。

- ① 9月24日 歴史文化資料保全西日本大学協議会 於：新大阪丸ビル新館（主催：神戸大学大学院人文学研究科、人間文化研究機構、協力：科学研究費基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」（研究代表者：奥村弘）研究グループ）
- ② 大阪北部地震・西日本豪雨の対応・現状および南海トラフ地震への対応・広域支援にこいて西日本の各大学関係者と協議を行った。参加者18機関25人。
- ③ 12月9日 地域歴史文化大学フォーラム 於：神戸大学瀧川記念学術交流会館（主催：人間文化研究機構（基盤機関：国立歴史民俗博物館）、神戸大学大学院人文学研究科、東北大学災害科学国際研究所、共催：科学研究費基盤研究S「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」研究グループ（研究代表者・奥村弘）、神戸大学地域連携推進室、国立歴史民俗博物館メタ資料学研究センター）。本フォーラムでは、歴史資料保全NW事業における各大学の目的や課題を共有し、ネットワークのあり方について議論した。また、奥村弘が報告「西日本を中心とする神戸大学の本年度の活動と今後の展望」を行い、本センターの地域連携事業をふまえた広域ネットワーク形成について述べた。参加者26機関49人。

またNW事業として、2月3日に開催された神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター主催の第17回地域連携協議会「地域歴史遺産の活用を問い直す—地域資料館の可能性」に共催した。

資料保全を担う人材の育成については、神戸大学文学部古文書合宿（9月13～15日：於神戸大学篠山フィールドステーション、2月17～18日：於三木市旧玉置家住宅）において、学生への指導および古文書整理作業を行った。

### Ⅲ-3. 競争的外部資金の獲得状況

競争的外部資金の獲得状況を《資料Ⅲ-6》に示す。令和元年度には203,895千円を獲得している。平成29、30年度と比較して80,000千円程度増えているのは、主に大型研究種目の採択（奥村弘教授を研究代表者とする特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」）によるものである。

《資料Ⅲ-6：競争的外部資金の獲得状況(平成29～令和元年度)》

年度	科研費	共同研究	受託研究	寄附金	その他競争的資金	合計
平成29年度	84,218	7,054	22,673	3,045	7,189	124,179
平成30年度	80,463	7,931	11,769	944	21,365	122,472
令和元年度	157,342	12,582	10,013	2,289	21,629	203,895

金額（千円）

#### Ⅲ-3-1. 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業の申請件数が年間平均45.25件である。平成28年度から令和元年度までの獲得件数は平均49件(新規14.5件)で獲得額は平均102,165千円である。申請件数は平成24年度には34件であったが、平成25年度以降50件近くを維持しており、科研費獲得に積極的になり、その状態が維持されている《資料Ⅲ-7》。また上記の通り、令和元年度には特別推進研究が1件新規採択された。

《資料Ⅲ-7：科学研究費助成事業への申請・獲得件数、獲得額に関するデータ》

年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	平均
申請件数	49	40	47	45	45.25
獲得件数 (新規)	50 (14)	49 (16)	47 (11)	50 (17)	49 (14.5)
金額(千円)	86,635	84,218	80,464	157,342	102,165

Ⅲ-3-2. 共同研究、受託研究費の状況

平成28年度から令和元年度の共同研究、受託研究の推移を《資料Ⅲ-8》に示す。

《資料Ⅲ-8：共同研究、受託研究の実施件数及び金額》

年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
共同研究件数	1	3	7	10
金額(千円)	7,160	7,054	7,931	12,582
受託研究件数	11	15	8	6
金額(千円)	18,016	22,673	11,769	10,013

共同研究、その他競争的資金として学術機関や省庁からの研究費は主に文部科学省、日本学術振興会から受入れている。その他、国立国語研究所等からの受入れ実績もある。《資料Ⅲ-9》《資料Ⅲ-10》。

《資料Ⅲ-9：文部科学省・日本学術振興会等からの大学改革等補助金（共同研究）》

相手方	期間	題目	金額(千円)
			上段直接経費 下段間接経費
文部科学省	平成28～ 29年度	国立大学改革強化推進補助金	14,000 0
	平成 30年度	大学改革推進等補助金	5,500 0
	令和 元年度	大学改革推進等補助金	1,700 0
日本学術振興会	平成 30年度	JSPS サマー・プログラム	159 0
国際交流基金	平成 29年度	海外日本語教育インターン（大学連携日本語パートナーズ）派遣プログラム	55 0
	平成 30年度	海外日本語教育インターン（大学連携日本語パートナーズ）派遣プログラム	109 0
直接経費合計			19,823
間接経費合計			0

《資料Ⅲ-10：学術機関・省庁からの受入実績（その他競争的外部資金）》

相手方	期 間	題 目	金額（千円）	
			上段直接経費	下段間接経費
日本学術振興会	平成 26～30 年度	社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明	13,850	0
	平成 29～32 年度	生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究 ―21世紀型参加のビジョンと試行―	3,655	680
	平成 30 年度	平成 30 年度学術研究動向調査研究	1,200	360
	令和 元年度	平成 31 年度学術研究動向調査研究	1,200	360
科学技術振興機構	平成 26～29 年度	多世代視覚障害者移動支援システムにおける AR・VR 技術の社会実装	15,275	4,583
大学共同利用機関法人人間文化研究機構	平成 30 年度	歴史文化資料保全の大学・共同利用期間ネットワーク事業	11,000	0
国立国語研究所	平成 26～30 年度	統辞・意味解析情報の付与	2,497	0
大谷大学	平成 30 年度	研修員受入	115	0
甲南大学	令和元年度	研修員受入	229	0
直接経費合計			49,021	
間接経費合計				5,983

平成 26 年度以降に地方自治体・民間企業との間で実施した受託研究は《資料Ⅲ-11》のとおりである。特に日本史学教育研究分野で自治体からの研究費等の受入れが顕著である。

《資料Ⅲ-11：地方自治体・民間からの受入実績（受託研究）》

相手方	期 間	題 目	金額（千円）	
			上段直接経費	下段間接経費
自治体関係	(財)神戸都市問題研究所（神戸市文書館）	平成 18～29 年度	歴史資料の公開に関する研究	16,765
	明石市	平成 26～30 年度	明石藩関連資料調査・公開業務	1,677
	明石市	平成 26～令和元年度	明石市における地域史料の調査研究業務委託	7,900
	明石市	平成 29～30 年度	横河家関連資料調査・公開業務委託	0
	福崎町	平成 24～令和元年度	福崎町の地域歴史遺産掘り起こしおよび大庄屋三木家住宅活用案の作成等	11,700
	福崎町	平成 29～令和元年度	三木家住宅民俗資料調査	0
	丹波市	平成 24～令和元年度	兵庫県丹波市における地域資源としての歴史文化遺産（古文書等）の調査および成果の刊行	2,000
				12,000
				0
				3,250
				0
				15,130
				0

	三木市	平成 26～ 令和元年度	三木市史編さん事業	47,300 0
	小野市	平成 29～ 令和元年度	小野市小野地区の歴史調査及び伊藤家文書を活用した小野市の幕末から明治期の歴史の調査研究	900 0
	朝来市	平成 27～ 令和元年度	朝来市石川家文書の史料調査研究並びに山田家文書調査に係る指導助言	2,500 0
	神戸市	平成 27～ 令和元年度	神戸村文書の解読（翻刻）に関する研究	3,348 334
	三田市	平成 27～ 令和元年度	旧三田藩主九鬼家資料の総合調査	1,008 99
	加西市	平成 29～ 令和元年度	青野原俘虜収容所調査委託	4,987 0
	加西市	平成 29 年 度	小谷区の文化遺産調査研究委託	1,086 0
	神戸市	平成 30～ 令和元年度	歴史資料の公開に関する研究	2,988 298
	人間文化研究機構 国立国語研究所	令和元年度	統辞・意味解析情報付与コーパスの応用	2,500 0
	豊岡市	令和元年度	兵庫県豊岡市の外国人住民に関する調査研究	4,261 639
	丹波篠山市	令和元年度	兵庫県丹波篠山市における市史編さんのための研究と検討	1,715 0
その他	International Visegrad Fund	平成 29～30 年度	Visegrad University Studies Grant	1,494 0
直接経費合計				142,832
間接経費合計				3,047

### Ⅲ-3-3. 奨学寄附金の受け入れ

人文学研究科・文学部が財団・団体からの受け入れた奨学寄附金に関する平成 29 年度から令和元年度の金額・内容は《資料Ⅲ-12》のとおりであり、平成 29 年度から令和元年度の受け入れの推移は、《資料Ⅲ-13》のとおりである。

#### 《資料Ⅲ-12：財団・団体からの奨学寄付金・助成金の受入件数及び金額》

年度	助成団体名等	寄付金名称	寄附目的	寄附金額
平成 29 年度	一般社団法人信託協会	一般社団法人信託協会 助成金	東アラブ圏におけるワクフ（財産信託） 制度史の古文書学的研究【追加配分】	250,000
	三井住友信託銀行	公益信託 福原心理教 育研究振興基金	研究助成のため	600,000
	公益財団法人 JFE21 世 紀財団	公益財団法人 JFE21 世 紀財団アジア歴史研究 助成	ポスト・モンゴル期アラビア語歴史叙 述の地域性と普遍性	1,500,000
	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館総 合資料学奨励研究（公 募型）	1689 年「堺大絵図」に盛られた土地区 画と戦前の比較 一空中写真を検討材 料にして一	695,000

平成 30 年度	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究（公募型）	1689年『堺大絵図』に関する空間情報の総合化への試み—近世絵図、近代地籍図・空中写真を中心に—	698,000
	室戸ユネスコ世界ジオパーク室戸ジオパーク推進協議会	2018年度室戸ユネスコ世界ジオパーク学術研究助成金	室戸ジオパークにおける集落立地から探る人々の地震への対応—特に戦国末期の「長宗我部地検帳」に注目して—	245,873
令和 元 年度	上嶋悟史	平成30年度出光文化福祉財団研究助成	元禄本「現図曼荼羅」の制作と経緯に関する研究	720,000
	公益財団法人高橋経済研究財団	公益財団法人高橋経済研究財団助成金	研究題目「脳波を用いた精神疾患の研究」に対する研究助成	1,500,000
	一般財団法人伊藤忠兵衛基金	一般財団法人伊藤忠兵衛基金助成金	人文学研究科・久山雄甫准教授から申請のあった学術研究助成金	500,000
	I' ENS de Lyon	リヨン高等師範学校寄附金	日仏若手研究者セミナーにおける会議費・交通費等の助成	69,408

《資料Ⅲ-13：奨学寄付金・助成金の推移》

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度
件数	4	2	4
金額（千円）	3,045	944	2,289

## 第2部

### I. 外部資金による教育研究プログラム等の活動

#### I-1. 運営費交付金機能強化経費：実践型グローバル人材育成事業 「日本語教育・日本研究を中心とした実践型グローバル人材育成事業」

##### [1]本事業について

平成 29 年度概算要求において、機能強化経費（機能強化促進分）として文学部・人文学研究科にも予算が配分され、平成 29 年度から 33 年度まで「日本語教育・日本研究を中心とした実践型グローバル人材育成事業」を実施することになった。「グローバル人材育成」は神戸大学の機能強化の柱のひとつであるが、文学部・人文学研究科は、「神戸オックスフォード日本学プログラム(KOJSP)」(オックスフォード大学東洋学部日本語専攻の2年生全員が文学部で1年間学ぶ、ユニット受け入れ型のプログラム)や、日本学術振興会「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」(以下、「頭脳循環プログラム」と略記する)に採択された「国際共同による日本研究の革新—海外の日本研究機関との連携による若手研究者養成」事業(25年度～27年度)などによって挙げた成果をもとに、日本語教育と日本研究に関わる部分で大学の機能強化に貢献することが求められている。

##### [2]2019年度の取り組み

###### (1)日本語教育

###### ①「神戸オックスフォード日本学プログラム(KOJSP)」の充実

- ・KOJSP 生(第7期生が2019年8月に修了、10月に第8期生が来日)に対してきめ細かいケアを行うため、専任の助教を1名引き続き雇用した。
- ・2020年3月に、例年と同じように、KOJSP アドバイザリーボード委員の教員2名がオックスフォード大学東洋学部を訪問し、教育内容について意見交換を行い、さらに2020年10月から受け入れ予定の第9期生について情報を得る予定で具体的に準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況のために、渡航を取り止めた。

###### ②留学生向けアカデミック・ライティング授業の開設・運営

- ・留学生向け日本語アカデミック・ライティングの授業と、チュートリアル形式で日本語論文・レポート作成の支援が行えるような日本人学生を養成するための授業として平成 29 年度に新設した下記の科目を2019年度も引き続き開講した。いずれも正式には大学院博士課程前期課程の学生を対象とした授業だが、実際には学部生や博士課程後期課程の学生、研究生等も参加した。

授業科目	単位数
日本語アカデミック・ライティング	2 単位
日本語学術文章の作成と指導	2 単位

###### ③「日本語日本文化教育プログラム」(主に博士課程前期課程の学生を対象として、海外の教育機関等で日本語日本文化教育を担う人材を養成するための教育プログラム)の充実

- ・平成 29 年度に追加開講した下記の2科目を2019年度も引き続き開講し、プログラムの充実を図った。

授業科目	単位数
日本語教育学	2 単位
日本語教育内容論	2 単位

- ・2019年度に「日本語日本文化教育プログラム」の必要単位を満たし、修了の認定を受けたものは、博士課程前期課程1名、博士課程後期課程1名 計2名の大学院生であった。



④日本語日本文化教育に関する海外インターンシップの実施

- ・人文学研究科では「日本語日本文化教育プログラム」修了者（あるいは修了見込み者）に海外教育機関でのインターンシップの機会を与え、真に国際通用性のあるグローバル人材を養成することを目標として、平成22年度以降、日本学術振興会「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」と「頭脳循環プログラム」によって中・長期（約2ヵ月～1年）に渡って毎年1名の大学院生もしくはPDをハンブルク大学（ドイツ）に送り出してきた。27年度以降は学内予算を得て、オックスフォード大学（イギリス）、トリーア大学（ドイツ）、ディミトリア・カンテミル・キリスト教大学（ルーマニア）、北京外国語大学（中国）にも各1名、短期間（2週間～1ヵ月）ないし長期（1セメスター）派遣することが可能になり、毎年4～5名の大学院生がインターンシップを行っている。
- ・2019年度は学内予算、国際交流基金からの補助と機能強化経費を組み合わせ、以下のような形で大学院生3名を海外大学に派遣した。なお、ディミトリア・カンテミル・キリスト教大学でのインターンシップに関しては、受け入れ大学が寮費を全額負担してくれている。

派遣期間	派遣者	派遣先
2019年10月31日～ 2019年11月24日	人文学研究科博士課程前期課程1年	ディミトリア・カンテミル・キリスト教大学
2019年11月11日～ 2019年11月29日	人文学研究科博士課程後期課程3年	ハンブルク大学
2020年2月22日～ 2020年3月15日	人文学研究科博士課程後期課程2年	オックスフォード大学

※この他に、2020年3月に人文学研究科博士課程後期課程1年の大学院生が北京外国語大学に派遣される予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況のために、渡航を取り止めた。

⑤「現代日本プログラム」（協定校からの交換留学生を対象として、英語で行われる日本の文化・社会・科学技術に関する全学的な教育プログラム）の充実

- ・さまざまな形で来日中の海外大学の研究者に、文学部・人文学研究科が提供している科目のうち、オムニバス授業になっているものに参加してもらう形で、「現代日本プログラム」の充実を図った。多様性に富む授業となり、履修生には非常に好評だった。平成30年度にオムニバス授業を担当した海外の研究者（機能強化経費が財源となっているものに限る）は以下のとおり。

氏名	所属
Johanna Hueck 助教	ニコラウス・クザーヌス大学（ドイツ）
Hsiung Tsunghuei 准教授	国立台湾大学（台湾）
Sauvagnargues Anne 教授	パリ第10大学（フランス）
Lyle de Souza	京都大学（日本）
Zdzislaw Mach 教授	ヤゲヴォ大学（ポーランド）

- ・「グローバル人文学プログラム」の科目として、以下の科目を機能強化経費により開講した。

授業科目	単位数
グローバル・アクティブ・ラーニング in 広島	1単位

「グローバル・アクティブ・ラーニング in 広島」は従来「神戸オックスフォード日本学プログラム」の一環としても開講されてきたもので、本年度は2019年10月25日（金）～27日（日）に実施した。この授業には、オックスフォード生15名、留学生20名、日本人学生4名の計39名が参加した。

## (2) 日本研究

### ①「頭脳循環プログラム」型（海外の研究者と共同研究を行いながら、その中で大学院生を含む若手研究者を育てていく方式）の国際的・学際的な日本研究の推進

- ・2019年7月6日・7日に神戸大学で開催された「第4回北京外国語大学・神戸大学国際共同研究拠点シンポジウム」に、人文学研究科から教員7名、博士課程後期課程学生2名、博士課程前期課程学生1名が参加した。このシンポジウムは「中国・日本・東アジア1989～2019—〈平成〉の内と外—」をテーマとして開かれたもので、大学院生3名は学生セッションにおいて研究発表を行った。
- ・2019年10月22日に開催された「神戸大学ブリュッセルオフィス第10回シンポジウム」"Open Science, Evolving Societies: New Horizons for EU-Japan Research"において、人文学研究科の教員が中心となって企画・運営した、歴史文化遺産をテーマとするセッションおよびワークショップに、教員3名、博士課程後期課程の大学院生2名が参加した。
- ・2019年11月8日・9日、神戸大学において神戸大学・北京大学・復旦大学の三大学共同人文フォーラム「人文と社会 学際的視野からの東アジア研究」を開催した。このフォーラムでは、東アジアにおける人文学の諸問題に関する7つのセッションを設け、合計20の報告が行われた。神戸大学からは教員2名と博士課程前期課程の大学院生2名、博士課程後期課程の大学院生3名が参加し、研究発表を行った。
- ・昨年度2019年3月2日・3日に神戸大学で開催した国際シンポジウム「『MANGA』—人文学研究の新展開—」の成果を、『マンガ／漫画／MANGA—人文学の視点から—』（前川修・奥村弘編）として、2020年3月31日に神戸大学出版会より刊行した。同書には、教員6名、博士課程後期課程の大学院生4名が寄稿している。

### ②ユニット交流（海外の大学との、専修等ユニット単位での学生・教員の学術交流）の促進、海外大学の日本学科との学術交流

- ・2019年6月26日に、神戸大学において、「ナンテール神戸 哲学・芸術学セミナー」を開催し、博士課程後期課程の大学院生2名が報告を行った。教員は、人文学研究科から増本浩子教授（ドイツ文学）、大橋完太郎准教授（芸術学）の2名、パリ第10大学ナンテール（フランス）から1名、ノールカロライナ大学（アメリカ）1名が参加し、さらにパリ第10大学ナンテール／サンパウロ大学（ブラジル）博士研究員、パリ第10大学ナンテール／オタワ大学（カナダ）博士研究員各1名も参加しており、参加した大学院生は、海外の専門研究者および専門の近い若手研究者から様々な助言を受けることができた。
- ・2019年6月28日に、大阪大学において開催された、パリ第10大学ナンテール、大阪大学人間科学研究科、神戸大学人文学研究科の三大学共同学生教育セミナー「共同学術セミナー第4回：エコロジー哲学、芸術、政治」で、博士課程前期課程および博士課程後期課程の大学院生各1名が報告を行った。大橋完太郎准教授（芸術学）が企画者およびモデレーターとして参加し、他にも神戸大学からは聴衆およびディスカッサントとして博士前期課程学生2名、博士後期課程学生2名の参加があった。
- ・2019年7月4日に、神戸大学において、ワークショップ「メディアの諸相：ローカルとグローバルの潮流」を開催し、博士課程後期課程の大学院生2名が報告を行った。本ワークショップは、英国ロンドン大学SOAS（アジア・アフリカ・中近東研究所）から、日本研究セクションの代表者を招聘して行う日本研究に関する研究教育交流シンポジウムで、今年で3年目にあたる。招聘されたSOASの研究者は現代日本におけるメディア論を専門としており、日本と東南アジアの比較メディア論および比較文学を専攻している二人の発表者にとって、専門的な見地から研究指導を受ける貴重な機会となった。
- ・2019年10月17日に、明治大学で開催された、神戸大学人文学研究科・明治大学文学部フランス文学科・リヨン高等師範学校哲学科（フランス）による三大学共同研究セミナー「芸術・日常性・カタストロフ」で、博士課程前期課程および博士課程後期課程の大学院生各1名が報告を行い、大橋完太郎准教授（芸術学）もモデレーターとして参加した。明治大学からはフランス文学科の大学院生が1名、リヨン高等師範学校からは学部学生4名およびポストドクターの研究員2名が参加し、神戸大学の参加大学院生

はきわめて有効な専門的アドバイスを受ける機会に恵まれた。

- 2020年2月7日にパリ第10大学ナンテールで開催された、パリ第10大学ナンテール、大阪大学人間科学研究科、神戸大学人文学研究科の三大学共同学生教育セミナー「共同学術セミナー第5回：日本とフランスにおける現代哲学」で、博士課程前期課程の大学院生3名が報告を行った。また白鳥義彦教授（社会学）、大橋完太郎准教授（芸術学）の教員2名がモデレーターとして参加した。本セミナーは、2019年6月に大阪大学で行われた、ナンテール・大阪・神戸大学三大学共同学生教育セミナーの本年度二度目の開催となる。パリ第10大学ナンテールのアンヌ・ソヴァニャルグ教授（美学・芸術哲学）、エリー・デューリング准教授（哲学・美学）、ジャンヌ・エテランPD研究員は、哲学・芸術・社会理論など幅広い分野に関する教育経験があり、報告者に対して、学位論文や学術論文の執筆に向けて大きな助けとなる、専門的見地からの適切な助言がなされた。また、パリ第10大学ナンテールや大阪大学の同世代の大学院生との長い時間の議論を通じて、大学院生同士が相互に研究を啓発し刺激を与えあう機会となった。

## **I-2. 科学研究費補助金基盤研究（S）（研究代表者：奥村弘、課題番号：26220403） 「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」及び 特別推進研究（研究代表者：奥村弘、課題番号：19H04547）「地域歴史資料学を機軸 とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」**

2014年度からスタートした科学研究費補助金基盤研究（S）（研究代表者：奥村弘、課題番号：26220403）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」は、2013年度までの科学研究「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」の成果を踏まえ、東日本大震災後の新たな課題（津波、放射能被害など）及び海溝型地震への対応をさらに進め、「災害文化」形成に資する地域歴史資料学を確立することを目的としている。

2017年12月には日本学術振興会の研究進捗評価（中間評価）をうけ、人文科学系の7件の評価対象中、唯一A+評価を受けるなど、着実に研究成果を積み重ねてきた。

当初の研究期間は2018年度が最終年度であったが、2018年7月の西日本豪雨災害の発生を受け、東日本大震災以降の資料保全論について再検討を図る必要が生じたため、2019年度への研究課題繰越を行った。

2019年度は、人間文化研究機構の歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業とも共同して西日本豪雨災害対応の実践的研究を引き続き継続した。その過程で東日本大震災以降の水損史料保全技術論の再検討を図り、地域の実情に応じた大規模水害対応論について文化財保存修復学会などで発表した。西日本豪雨災害対応の実践的研究から得られた新たな知見を本研究に組み込み、研究成果のとりまとめを進めた。また、本科研の事業・研究成果をまとめた書籍を刊行すべく、準備作業を進めている。

また、2009年度からの基盤研究（S）「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」（研究代表者：奥村弘、課題番号21222002）、および2014年度からの本科研での成果が高く評価され、2019年度には科学研究費事業特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」（研究代表者：奥村弘）が採択された。

2019年度からは、上記の特別推進研究（研究代表者：奥村弘、課題番号：19H04547）「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」を開始した。この研究課題は、2013年までの科学研究費補助金基盤（S）「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」、および2018年度までの同「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」の成果をふまえ、社会構造の大変動による人口減少や大規模災害等により危機に瀕している日本の地域存続の基盤となる、新たな地域歴史文化創成のための実践的研究領域を確立することを目的としている。

初年度である2019年度は、研究を開始するにあたって2019年8月2日に分担者・協力者間で科研グループ研究会（於センタープラザ西館貸会議室）を開催し、研究課題・方法等について共有した。この研究会での議論をふまえ、各研究領域により全6回にわたり地域歴史資料学研究会を開催し、研究成果の共有や課題整理を行ない、研究の基盤整備を進めた（第1回：2019年8月31日-9月1日、第2回：9月22日、第3回：11月9日、第4回：2020年1月25日-26日、第5回：1月31日、第6回：2月10日）。また、

科研グループ以外からも参加者を募り、研究課題について共有・議論するために、神戸市内でのフィールドワーク・公開シンポジウム・現地研究会からなるキックオフフォーラムを開催した(2020年1月30日、2月8・9日、於御影公会堂)。なお、公開シンポジウムは「第6回全国史料ネット研究交流集会」への共催とした。海外においては、第10回神戸大学ブリュッセルオフィスシンポジウム(2019年10月22日、於ブリュッセル自由大学(VUB))で地域歴史文化の継承に関わる報告・議論を行うとともに、ルーヴェン大学ワークショップ(2019年10月23日、於ルーヴェン大学)では、日本の地域史研究や資料保全に関する情報発信・意見交流を図った。

また、本年度は本科研グループとして次のシンポジウム等に共催し、地域歴史文化創成の基盤となる地域資料保全や災害文化形成にかかわる災害資料保全等について、全国的な連携を深めることができた。①歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業「第2回歴史文化資料保全西日本大学協議会」(2019年8月3日、於センタープラザ西館貸会議室)、②兵庫県文化財防災研修会(2019年7月25日～9月9日・計5回)、③地域歴史文化大学フォーラム in 名古屋「地域資料保全のあり方を考える」(2019年12月22日、於名古屋大学)、④第9回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係わる情報交換会(2020年1月31日、於神戸大学附属図書館社会科学系図書館)④18回歴史文化をめぐる地域連携協議会(2020年2月2日、於神戸大学瀧川記念学術交流会館)、⑤第6回全国史料ネット研究交流集会(2020年2月8・9日、於御影公会堂)。

被災資料保全活動については、2019年台風21号への対応を歴史資料ネットワークや歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業と協力して進めたほか、2018年台風19号や西日本豪雨の被災資料への対応にも協力した。地域資料調査活動についても、本科研の研究拠点の一つである本学人文学研究科地域連携センターの活動により、所在調査や史料整理、資料データベース構築のための準備を進めることができた。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年2月下旬以降に予定していた知己歴史資料学研究会・被災資料保全活動・総括研究会を中止・延期する措置を取った。

2019年度は、研究会を積極的に開催し研究成果を共有・発信するとともに、「地域史惣寄合」を始めとする他研究会や、兵庫県・県内各自治体の文化財担当者とも地域歴史文化に関わる議論を交わすことができた。研究開始初年度として、地域史料保全にかかわる実践的研究と、地域史料データインフラ構築に関わる研究、地域社会形成史研究のそれぞれを着実に進めることができたと言える。

## II. 部局内センター等の活動

### II-1. 海港都市研究センター

2019年度、海港都市研究センター(以下、海港センターと略)では、大学院人文学研究科における共通科目授業の開講、韓国海洋大学を中心とするWCMCI開催の世界海事史学会第9回国際大会への参加、一連の研究会開催、紀要『海港都市研究』第15号の刊行等の諸事業を行った。

#### [1] 人文学研究科共通科目の開講

今年度は前期に大学院博士課程前期課程の大学院生向けに「海港都市研究交流演習」、博士課程後期課程の大学院生向けに「海港都市研究企画交流演習」を開講した。

授業は濱田教授が担当し、受講生が受講生が専門分野における重要文献について紹介するというプレゼンテーションを行い、受講生全員で討議するというスタイルをとった。緩やかなテーマとして「異文化理解」を設定し、それぞれの関心に基づきながら、異なる専門分野の院生にも理解しやすいよう、プレゼンテーションや論の立て方に工夫をしてもらい、聞き手もまた、未知の分野の報告をいかに受け止め、自分の学びとするのかについて考えてもらった。

## [2] WCMCI 国際シンポジウム（世界海事史学会国際大会）への参加

海港センターは例年、韓国海洋大学・台湾大学・中山大學・長崎大学等をパートナーとして持ち回りで海港都市国際会議を開催し、若手研究者に国際的な場における研究発表の機会を提供するとともに、韓国海洋大学を中心とするWCMCI (The World committee of Maritime Cultural Institutes) の枠組みの代表者会議及び国際学術シンポジウムにも参加してきた。

2019年度、3月30日、31日に第9回世界海洋文化研究所協議会(WCMCI)が中国の廈門大学で行われた。テーマはEncounter of Human and the Sea in the Maritime Asia、五つのセッションで17本の学術報告がなされ、神戸大学からは濱田麻矢 (A Taiwanese Female Student on the Japanese Rule: on the Yang Qianhe's Novels in Japanese) のほか、博士課程後期課程在学中の大崎智史 (Media as Oceans: The Archaeology of Oceans in Cinema) と西橋卓也 (The Representation of Port in Movies: Port as Contact Zone) がプレゼンテーションした。ほかに神戸大学OBの高木久史氏 (安田女子大学) (Reintegration of bronze coins during the late 16<sup>th</sup> and the early 17<sup>th</sup> century Japan: Especially focused on transactions between Japan and China)、王飛氏 (北京大学) (Production of Film and Memory of History: On Japanese Naval War Movies (2005-2015)) が参加した。

なお、次のWCMCI国際学術シンポジウムは、2020年3月に中国青島の中国海洋大学で開催される予定だったが、COVID-19の影響で10月に延期となった。

## [3] 海港都市研究会

本研究科の博士号取得者や内外の研究者が研究内容を報告して教員や大学院生らと意見交換を行う場として「海港都市研究会」を2011年度より設けたが、今年度も開催に努めた。今年度の開催実績は以下の通りである。

### 第1回海港都市研究会

日時：2019年10月30日（水）

「同志文学の歴史と未来—台湾を例にして—」

紀大偉 (国立政治大学)

『同志文学史：台湾的發明』（聯經出版、2017）の著者であり、優れたSF作家でもある紀大偉を招いて講演会を行った。「同志文学」とはクィア文学の謂である。志を同じくする者、という意味の「同志」は、はじめ政治的な文脈で日本から中国に持ち込まれたが、現在では性的マイノリティを表す言葉として香港・台湾に定着し、今では中国でも使われるようになっていく。

紀氏は台湾における同志文学の隆盛を解説したのち、障害者を描く文学との親和性についても語ってくださり、フロアからも質問が相次いで活発な議論が行われた。

### 第2回海港都市研究会

日時：2019年11月6日（水）

映画『靈山』上映会および蘇弘恩監督ミニトーク

台湾の映画監督、蘇弘恩氏の新作ドキュメンタリー『靈山』は、狩猟を主な生業とするタロコ族の老人（監督の外祖父）を縦糸に、政権によって呼び名を変えられてきた原住民の歴史を横糸とする。清朝では「生蕃」、日本政権には「高砂族」、そして光復後には「山地同胞」という名前を押し付けられてきた彼らは、今「原住民」と自らを定義し、漢族とは異なるアイデンティティを主張するようになった。その一方で、狩猟を含む民族独自の文化は圧倒的な漢族との同化によって本来の姿を失いつつある。放映後に蘇監督は民主化以降に可視化された原住民の問題についてトークし、台湾におけるマイノリティについていろいろな質問があがった。

### 第3回海港都市研究会

日時：2019年11月10日（日）

日本近代文学会関西支部秋季大会が「神戸からブラジルへ～過程と着後の記録、文学から～」を小特集企画として行われ、瀧川記念学術交流会館で6本の学術報告が行われた。テーマがブラジル移民を扱うということでセンターとの共催となり、副センター長の濱田が開会の辞を述べた。小企画の報告は飯窪秀樹「戦後南米移住者の船上体験—＜個別の集まり＞から＜連帯感の醸成＞へ」と杉山欣也「一九五〇年代ブラジル邦字紙における日本語文芸—短歌を軸として」の二本で、両氏の論考とこの企画の主宰者である木谷真紀子氏の論文が『海港都市研究』15号（本号）に投稿された。

#### 第4回海港都市研究会

日時：2019年11月11日（火）

ワークショップ「方法としてのサイノフォン」

華語語系文学（サイノフォン）とは、政治体制を超えた中国語系文学を捉える新しい概念である。サイノフォン文学を背景とした移民／移動の文学について日本の報告をもとに討論を行った。まず本研究科博士課程後期課程在学中の鄭洲さんが、中国から台湾へ、そしてアメリカへ渡った作家、聶華苓の二度の結婚とその描写について報告した。つぎに同じく博士後期課程在学中の李詩琪さんが中国東北作家における母のイメージについて報告を行った。フロアには北京大学の張輝先生、王風先生、賀桂梅先生、復旦大学の張業松先生、武漢大学の裴亮先生、フェリス女子大学名誉教授の江上幸子先生がいらしたほか、北京大学の院生夏寅さん、復旦大学のポスドク周思さんが来られ、専門的な立場から様々な意見が飛び交う密度の高い時間を過ごした。

#### 第5回海港都市研究会

日時：2019年11月26日（火）

講演会「乱世下の香港と広東語の役割」

香港教育大学で教鞭を執っておられる片岡新先生から、香港のデモについてレポートしていただき、香港意識とは切っても切れない広東語が果たしている役割について詳細な解説をしていただいた。事前にtwitterで宣伝したところ大きな反響があり、学外から一般の方が多数聴講にこられた。

#### 4－『海港都市研究』第15号（本号）の刊行

2020年3月、当センターの紀要『海港都市研究』第15号を刊行した。論文のほかに翻訳の投稿も受けつけた。

#### [4]『海港都市研究』第15号の刊行

2020年3月、当センターの紀要『海港都市研究』第15号を刊行した。

## II-2. 地域連携センター

### 地域連携センター活動報告

大学院人文学研究科（文学部）では、平成14年（2002）から、「歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業」を開始した。同年11月には地域連携研究員制度を創設し、翌年1月には、構内に「神戸大学文学部地域連携センター」を設置した（平成19年の改組にもとづき、現在は人文学研究科地域連携センターと改称）。

これは阪神・淡路大震災以来の地域貢献活動を踏まえ、大学が県内各地の歴史資料の保全・活用や歴史遺産を活かしたまちづくりを、自治体や地域住民と連携して取り組んでいくことを目的とした事業である。

現在、連携事業は多岐にわたっているが、おおむね次の四つの分野で事業を進めている。

1. 歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力
2. 歴史資料・災害資料の保全・活用
3. 地域歴史遺産を活用できる人材の育成
4. 地域の歴史文化をめぐる情報の共有や交流の促進

また、2015年度より地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」のプロジェクトのうち、「歴史と文化」領域に関する事業、2017年度より大学共同利用機関法人人間文化研究機構による「歴史文化資料保全の大学・共同機関ネットワーク事業」、

2019年度に採択された科学研究費補助金特別推進研究「地域歴史史料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(研究代表者・奥村弘)が、当センターを拠点として展開されている。

このほか年報『LINK【地域・大学・文化】』を刊行するなど、研究および研究成果の公表もおこなっている。

以下、個別事業ごとに今年度の活動の概要を報告する。

#### (1) 歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

##### ① 兵庫県との連携事業

###### a. 兵庫県文化遺産防災研修会の開催

- ・ 第1回：2019年7月25日、神戸・阪神地域対象、於神戸大学
- ・ 第2回：2019年8月7日、東・北播磨地域対象、於加古川市立勤労会館
- ・ 第3回：2019年8月23日、西・中播磨地域対象、於日本城郭研究センター
- ・ 第4回：2019年9月2日、丹波・但馬地域対象、於朝来市埋蔵文化財センター
- ・ 第5回：2019年9月7日、淡路地域対象、洲本市役所

###### b. 兵庫県地域創生局地域遺産室との連携

- ・ 県政資料館(仮称)基本計画策定委員会委員長として、奥村が同委員会に参加
- ・ 県立兵庫津ミュージアム(仮称)展示計画ワーキング会議委員として、奥村が同委員会に参加

##### ② 神戸市における連携事業

###### a. 神戸市教育委員会との連携事業

- ・ 神戸村文書の研究と成果の公開事業：神戸市立中央図書館所蔵「神戸村文書」の読解、研究
- ・ 市民向け古文書講座の開催：2020年2月24日・3月4日(於こうべまちづくり会館) ※3月4日は新型コロナウイルス対策のため中止
- ・ 市民向け書籍『神戸村文書の世界』の発刊
- ・ 神戸市北区山田町坂本地区の大般若経調査：2019年12月14日・15日
- ・ 市澤が神戸市文化財審議委員として、文化財の調査研究、活用について助言。

###### b. 住吉歴史資料調査会との連携事業

- ・ 本住吉神社所蔵文書および摂津国菟原郡住吉村文書(大阪歴史博物館所蔵)を中心に翻刻作業および古文書勉強会を実施、併せて西摂の地域史研究を実施。
- ・ 国立歴史民俗博物館協同研究「聆濤閣集古帖の総合資料学的研究」報告会「まぼろしの聆濤閣コレクション」(2019年12月1日、於白鶴酒造株式会社本社)への協力

##### ③ 神戸市を中心とする文献資料所在確認調査

- ・ 神戸大学附属図書館所蔵古文書調査：社会科学系図書館貴重書庫所蔵古文書についてこれまで実施してきた整理の見直し、統一作業、新規受入分(若林家文書)基礎整理。

##### ④ 協定に基づく小野市との連携事業

###### a. 小野市小野地区歴史調査。

- ・ 小野市立好古館令和元年度特別展「祭りとくらしの移り変わり～小野地区の近現代～」(2019年10月5日～12月8日)を、小野市立好古館と主催
  - ・ 講演会 2019年11月3日、於コミュニティセンターおの、講師：津熊友輔・出水清之助
  - b. 伊藤家文書を活用した小野市域の幕末・明治期の歴史研究
- ⑤ 連携協定に基づく朝来市との連携事業
- a. 石川家文書の整理・調査
    - ・ 井上舞石川家文書整理会の開催(月2回)
    - ・ 成果展「蔵書からみる生野の歴史ー石川家と近世生野のくらしー」の開催(2020年2月15日～4月5日、於朝来市埋蔵文化財センター)
    - ・ 成果展関連行事①：体験行事「昔の本を読み、ふれてみよう」2020年3月7日、於朝来市埋蔵文化財センター、講師：室山京子
    - ・ 成果展関連行事②：講演会「石川家の蔵書と生野の文化」2020年3月22日、於朝来市埋蔵文化財センター、講師：石橋知之 ※関連行事①・②とも新型コロナ肺炎対策のため中止
  - b. 生野書院企画展「生野県150年ー「県庁所在地」生野の明治維新ー」(2020年1月25日～12月16日、於生野書院)への協力
    - ・ 関連行事：講演会「「県庁所在地」生野の明治維新」、2020年3月15日、於メインホール、講師：津熊友輔 ※新型コロナ肺炎対策のため延期
  - c. 山田家文書の整理・調査
    - ・ 調査合宿の実施(2019年8月8日・10日、於生野クラブ)
    - ・ 調査成果報告展「山田家の本と雑誌」(2020年3月3日～8日、於奥銀谷自治協議会かながせの郷)
  - d. 多々良木区有文書の調査・整理
    - ・ 多々良木歴史研究会での整理作業(月1回)
    - ・ 第1回「多々良木古文書展」(2019年4月28日～5月3日、於多々良木公民館)への協力
    - ・ 関連行事：記念講演「資料から覗く多々良木の暮らし」(2019年4月28日、於多々良木公民館、講師：井上舞)
  - e. その他、地域所在資料の調査・研究
- ⑥ 丹波市における連携事業
- a. 令和元年度連続講座「丹波の歴史文化を知る・つなぐ」(共催：丹波市教育委員会)
    - ・ 第1回 2019年6月8日(土)、於春日福祉センター、講師：松下正和
    - ・ 第2回 2019年7月13日(土)、於ライフピアいちじま、講師：井上舞
    - ・ 第3回 2019年8月3日(土)、於柏原福祉センター、講師：山内順子
    - ・ 第4回 2019年9月7日(土)、於山南住民センター、講師：井上舞
    - ・ 第5回 2019年12月14日(土)、於氷上住民センター、講師：出水清之助
    - ・ 第6回 2020年2月15日(土)、於青垣住民センター、講師：加藤明恵



- b. 市内古文書等調査
  - ・ 氷上町氷上区有文書を読む会の開催（2019年3月2日、6月22日、8月30・31日、11月9日、2020年1月19日）
  - ・ 春日町棚原区有文書調査（月1回）
  - ・ 青垣町山垣区有文書、同区個人所蔵文書の調査（2019年7月13日・14日、12月15日）
  - ・ その他、地域所在資料の調査・研究
- c. 丹波古文書倶楽部の開催支援
  - ・ 月1回の例会実施（第2土曜、講師木村修二）／2020年1月11日フィールドワーク実施
- d. その他
  - ・ TAMBA シニアカレッジでの講義「南北朝内乱と丹波」（2019年8月23日、講師：市澤哲）
- ⑦ 連携協定に基づく加西市との事業
  - a. 青野原俘虜収容所関連調査・成果報告
    - ・ 青野原俘虜収容所関連資料の調査、収集、翻訳
    - ・ 下オーストリア州歴史博物館における展示「Aonogahara Austrian POWs in Japan 1914-1920」を共催
  - b. 鶉野飛行場関連調査
    - ・ 鶉野飛行場関連資料の調査、収集
    - ・ 佐々木が「鶉野飛行場フィールドミュージアム（仮称）」のアドバイザーに就任
  - c. その他
    - ・ 井上が、加西市文化財審議委員として、文化財の調査研究、活用について助言。また、加西市文化財保存活用地域計画協議会委員として、地域計画の作成について助言。
- ⑧ 丹波篠山市との連携事業
  - a. 「地域資料整理サポーター」活動への協力（丹波篠山市立中央図書館との連携事業）：「丹南町史編纂史料」の目録作成作業・翻刻文の検討を経た展示作成作業（計6回）
  - b. 古文書入門講座への出講（丹波篠山市立中央公民館主催）：全8回のうち3回（現地研修会を含む）を担当
  - c. 部落史研究会ささやまへの出講（丹波篠山市市民生活部人権推進課による支援）：毎月1回、古文書輪読会への参加と助言
  - d. 丹波篠山市史編纂事業への協力（「丹波篠山市史編さん資料調査等業務共同研究契約書」に基づく委託事業）
  - e. 令和元年度丹波篠山市・神戸大学連携推進協議会への出席
- ⑨ 尼崎市における連携事業
  - ・ 尼崎市立地域研究史料館の専門委員として市澤が同館の運営に協力
- ⑩ 連携協定に基づく三木市との連携事業
  - a. 新三木市史編さん事業
    - ・ 「三木市と国立大学法人神戸大学との連携に関する協定書」（平成25年6月締結）に基づ

く、受託型協力研究（三木市史編さん事業）実施

- ・ 地域編部会（口吉川部会、志染部会・吉川部会・緑が丘部会）活動の助言指導（近日三木部会・青山部会立ち上げ予定）
- ・ 『市史研究みき』、『市史編さんだより』編集
- b. 三木市立みき歴史資料館事業への協力
  - ・ 2019年10月11日（金）於・みき歴史資料館 資料館運営協議会へ木村が議長として参加、2020年3月13日（金）第2回協議会
- c. 旧玉置家住宅文書保存活動
  - ・ 市民グループ「旧玉置家文書保存会」に対し整理活動について助言

⑪ 明石市との連携事業

- a. 明石市における地域史料の調査研究業務
  - ・ 明石市大久保町ト部家文書調査 計17回
  - ・ 明石市大久保町西島農会文書調査 計1回
  - ・ 明石市大久保町安藤友久家文書調査 計2回
- b. 明石藩関連資料調査・公開業務
  - ・ 明石市立文化博物館特別企画展「明石藩の世界Ⅶ～城と明石の400年～」(2019年9月14日～10月20日)を明石市立文化博物館と主催
  - ・ 講演会 2019年9月28日、於明石市立文化博物館、講師：加藤明恵、加納亜由子
  - ・ ギャラリートーク 2019年9月16日・22日、解説：加藤明恵、加納亜由子
  - ・ 愛知県公文書館所蔵「明石藩日記」の調査 計1回（2日間）
- c. 明石市立文化博物館所蔵横河家文書調査・公開業務
  - ・ 調査、写真撮影 計1回
  - ・ 目録作成 箱1・2・3・4（完了）、箱5（途中） 計857点
- d. 明石市史編さん関係
  - ・ 明石市史編さん委員会 2019年8月24日

⑫ たつの市に関する連携事業

- ・ 神戸大学近世地域史研究会：月1回・日曜日開催。2019年4月21日、令和元年5月19日、6月16日、7月21日、9月15日、10月13日、11月3日、12月1日、2020年1月19日。以降2月16日、3月8日 ※3月8日は新型コロナ肺炎対策のため中止

⑬ 佐用町との連携事業

- ・ 佐用郡地域史研究会主催「佐用大水害10年 文化財レスキューと地域資料の防災を考える」(2020年2月29日、於さよう文化情報センター)の開催協力

⑭ 福崎町との連携事業

- a. 福崎町立柳田國男・松岡家記念館との連携
  - ・ 松岡家関係資料調査
- b. 『広報ふくさき』紙上での調査・研究成果の還元（6月～8月、10月～1月、3月）

- c. 大庄屋三木家住宅の資料調査および展示協力
    - ・ 文献資料調査（計4回）
    - ・ 襖下貼り文書調査（計10回）
    - ・ 大庄屋三木家住宅特別展「福崎の文化と三木家—文化を楽しむ三木家の人びと—」（2019年11月12日～12月22日、於大庄屋三木家住宅）
    - ・ 三木家入門講座③「三木家の文化的活動」2019年11月24日、於大庄屋三木家住宅、講師：井上舞
  - d. 中島区有文書調査（月1回開催）
  - e. その他地域資料調査
  - ⑮ 猪名川町における連携事業
    - a. 古文書学習会への協力
      - ・ 町民グループ「猪名川の古文書を楽しむ会」へのチューター参加
    - b. 猪名川町文化財審議委員会
      - ・ 11月20日 本年度第1回委員会開催（松下委員）→都合により不参加
  - ⑯ 姫路市香寺町における連携事業
    - ・ 佐々木が、香寺町史研究室主催の事業報告会において講演
  - ⑰ 協定に基づく大分県中津市との連携事業
    - ・ 中津市歴史博物館歴史博物館協議会への協力：委員長に奥村委嘱、委員に松下正和（地域連携推進室）委嘱、2019年9月27日、2020年3月26日協議会開催
    - ・ 歴史博物館開館式典 2019年11月1日
- (2) 歴史資料・災害資料の保全・活用
- ① 歴史資料ネットワークへの協力・支援
    - ・ 奥平野村古文書勉強会：例会開催（毎月第2日曜日）、チューター木村修二
  - ② 石川準吉関係資料の調査
    - ・ 昨年度に引き続き、同資料の調査・研究を継続
  - ③ 附属図書館震災資料との連携
    - ・ 学生による震災資料点「草の根市民メディアからの発信—「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災」の開催（2020年1月16日～2月4日）
    - ・ 「第9回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会」の開催（2020年1月31日）
  - ④ 人文学研究科古文書室の所蔵文書整理
    - ・ 今年度は事業として実施せず

(3) 地域歴史遺産を活用できる人材の育成

- ① 現代 GP「地域歴史遺産の活用を図る地域リーダーの養成」事業の成果にもとづいて開講された大学院人文学研究科「共通教育科目」への授業提供
  - a. 地域歴史遺産保全活用基礎論 A・B:地域歴史遺産の保全・活用のための基礎的講義を開講（リレー形式。第1Q第2Qは金曜1限、第3Q第4Qは木曜1限）
  - b. 地域歴史遺産保全活用演習 A・B/第2Q:古文書を用いた合宿形式の演習(8月25日～27日、於篠山市)。/第4Q:市民とともに地域文献史料の活用を図る専門的知識を得るための実践的演習(2月4日～6日予定、於神戸大学、三木市)
- ② 教員養成 GP「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」事業を定着させる活動
- ③ 平成22年～24年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動
  - a. まちづくり地域歴史遺産活用講座の開催
    - ・ 神戸大学文学部公開講座(2019年10月5日・6日、於神戸大学文学部、主催:人文学研究科・地域連携センター、共催:兵庫県教育委員会・COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会、後援:神戸市教育委員会・神戸市灘区)
  - b. オプションプログラム古文書解読初級講座の開催(2019年10月1日、8日、15日、29日、於:文学部学生ホール、講師:河島裕子氏、主催:人文学研究科地域連携センター)

(4) 地域の歴史文化をめぐる情報の共有や交流の促進

- a. 第18回歴史文化をめぐる地域連携協議会:テーマ「地域歴史遺産を未来につなぐー阪神・淡路大震災と、地域の活動から考えるー」(2020年2月2日、於瀧川記念学術交流会館、48機関86名参加)

(5) 地域連携センターを拠点とするプロジェクト

- ① 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」
  - a. 人文学研究科地域連携センター主催諸イベント(兵庫県文化遺産防災研修会、まちづくり地域歴史遺産活用講座、歴史文化をめぐる地域連携協議会等)を、共催・後援
- ② 人間文化研究機構(基盤機関:国立歴史民俗博物館)「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」
  - a. 歴史文化資料保全西日本大学協議会を主催(2019年8月3日)
  - b. 伊方原発関係資料保存整理の現地中間報告会を主催(2019年9月24日)
  - c. 2019年台風19号被災資料の保全活動(2019年11月16・17日)
  - d. 地域歴史文化大学フォーラムを共催(2019年12月22日)
  - e. 第18回歴史文化をめぐる地域連携協議会を共催(2020年2月2日)

③ 平成 31 年度～令和 5 年度・科学研究費助成金・特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」

- a. 兵庫県文化財防災研修会（2019 年 7 月 25 日～9 月 9 日、計 4 回）への協力
- b. 地域歴史資料学研究会の開催
  - ・ 第 1 回 2019 年 8 月 31 日・9 月 1 日、於淡路夢舞台国際会議場、淡路市内各地巡検
  - ・ 第 2 回 2019 年 9 月 22 日、於神戸大学
  - ・ 第 3 回 2019 年 11 月 9 日、於岡山大学
  - ・ 第 4 回 2020 年 1 月 25 日・26 日、於神戸大学
  - ・ 第 5 回 2020 年 1 月 30 日、於神戸市内各地巡検
- c. 新潟県中越地震 15 周年災害資料シンポジウム「繰り返す災害と長く向き合うために」（2019 年 12 月 15 日、於新潟大学）の後援
- d. 地域歴史文化大学フォーラム in 名古屋「地域史料保全のあり方を考える」（2019 年 12 月 22 日、於名古屋大学）の共催
- e. 第 9 回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会（2020 年 1 月 31 日、於神戸大学）の共催
- f. 第 18 回歴史文化をめぐる地域連携協議会「地域歴史遺産を未来につなぐために—阪神・淡路大震災と、地域の取り組みから考える」（2020 年 2 月 2 日、於神戸大学）の共催

(6) 地域連携研究と研究成果の公表

① 年報『LINK【地域・大学・文化】』11 号の刊行

- ・ 2019 年 12 月 26 日発行、特集「地域歴史遺産の活用を問い直す—地域資料館の可能性—」、小特集「文書群の活用にもむけて」、インタビューシリーズ「歴史研究の隣人たち」第 1 回

② 地域関連研究

- a. 地域連携センタースタッフによる科学研究費補助金研究：2 件
- b. 講演、市民講座等への出講多数

以上、活動の詳細は、2020 年 3 月末に発行された、当センターの 2019（令和元）年度事業報告書を参照。また、同報告書は、神戸大学学術成果リポジトリ Kernel に公表されている。

## II-3. 倫理創成プロジェクト

### [1] 目的

「リスク社会の倫理システム構築」と「多文化共生の倫理システム構築」

### [2] 研究プロジェクトと人文学研究科の共通科目の実施状況

・選択必修の研究科共通科目「倫理創成論研究」

生命医療倫理、情報倫理、環境倫理、工学倫理などの「倫理創成論」に関わるトピックや方法論を中心に講義を行った。

回	日程	授業内容
1	10/7	イントロダクション 中 真生
2	10/14	インフォームド・コンセントの成立経緯 茶谷直人
3	10/21	インフォームド・コンセントの倫理的考察 茶谷直人
4	10/28	情報倫理学(1) 加藤憲治
5	11/11	情報倫理学(2) 加藤憲治
6	11/18	生殖技術をめぐる倫理的問題(1) 中 真生
7	11/20	生殖技術をめぐる倫理的問題(2) 中 真生
8	11/25	第3Q 試験
9	12/2	環境倫理学の基本：小史・原則・問題 松田毅
10	12/9	「環境リスク論」とは何か 松田毅
11	12/16	「解釈学的倫理学」としての「応用倫理」 松田毅
12	12/23	公共政策の倫理学と研究倫理 松田毅
13	1/6	工学倫理の目的と概要 藤木篤（神戸市看護大学）
14	1/20	仮想事例「ソーラーブラインド」の分析 藤木篤（神戸市看護大学）
15	1/27	上記を例にしたグループディスカッション 藤木篤（神戸市看護大学）
16	2/3	第4Q 試験

・「倫理創成論演習」（博士課程前期課程）、「倫理創成論発展演習」（博士課程後期課程）

福島原発事故とパリ協定が象徴する気候変動を前提に、次世代エネルギーの倫理を取り上げた。ワークショップ形式で授業を行い、神戸市灘区の石炭火力発電所をめぐる訴訟の原告を講師に招いたほか、宝塚市の市民太陽光発電所を見学し、関係者からお話をうかがう機会ももった。授業は基本的に隔週、2コマ続きで実施した。ESD 演習Iと同時に開講しているが、大学院生については、自分自身の研究テーマと関連するかたちで研究発表を取り入れて行っている。なお、この授業の内容については、環境企画・評価専門委員会の推薦により、神戸大学『環境報告書2020』の「教育」で紹介されることになっている。

回	日程	授業内容
1	4/8	導入：担当教員による授業内容の説明、グループ分け
2	4/22	ワークショップ(1)：グループ作りと相互理解（大学院生の問題提起）
3	4/22	ワークショップ(2)：課題の再確認・グループでの問題設定
4	5/13	ワークショップ(1)：前回の課題について、結果の紹介と質疑
5	5/13	ワークショップ(2)：グループでの課題決定、報告
6	5/27	第1Qの振り返り：目標・課題の再確認、個人の中間報告（Q&A）
7	5/27	グループワーク：第2Qの課題共有と調査のための予備討論
8	6/10	未実施の大学院生の中間報告（Q&A）
9	6/10	灘区の石炭火力発電所建設問題：原告との対話と質疑応答
10	6/17	ワークショップ(1)：前回のレフレクション
11	6/17	ワークショップ(2)：宝塚すみれ発電見学事前学習
12	7/1	宝塚すみれ発電見学（宝塚市役所地域エネルギー課荒木さん協力）
13	7/1	同上（NPO 法人新エネルギーをすすめる宝塚の会田中代表理事協力）
14	7/8	ワークショップ：前回のレフレクションと最終報告準備
15	7/22	最終報告会（第1グループ） 1名15分で実施。
16	7/22	最終報告会（第2グループ）

### [3] Applied Ethics and Comparative Thought in East Asia の共同開催

2019年度は第9回を大連理工大学にて5月25/26日に開催した。神戸大学からも教員と大学院生3名が参加し、以下のような報告を行った。

- ・ EMMENEGGER Pascal（倫理学教育研究分野博士課程前期課程）  
 “Some Reflections on the Logic of Imagination and the Logic of AI from the Viewpoint of the Kyoto School of Philosophy”
- ・ RODIS Fotios（哲学教育研究分野博士課程後期課程）  
 “The Ex nihilo Creation in the Work of Cornelius Castoriadis - The Case of Legal Rules”
- ・ 丸山栄治（哲学教育研究分野博士課程後期課程）  
 “A Wittgensteinian Approach to Nothingness in Religious Practice”
- ・ 茶谷直人准教授  
 “Euthanasia and Aristotle”

[4] 研究活動とその成果、アウトリーチの現状

2019年度は阪神淡路大震災から25年を迎える年であった。これまで連携してきた、NPO、研究者、弁護士、ジャーナリストらと協力し、震災時におけるアスベストリスクを考える企画「震災とアスベストを考えるシンポジウム」(2020年1月11日13時半から、神戸市勤労会館、200名程度が参加、中地重晴・熊本学園大学教授の講演「阪神淡路大震災時におけるアスベスト飛散の検証」など)を共催した。この機会に過年度に倫理創成論演習などで制作した、「震災とアスベスト」に関するカードゲーム「クロスロード」を提供し、神戸クロスロード研究会の浜尚美氏らが実演した。これに関して、新聞各紙で報道されたが、本プロジェクトの取り組みに特に、焦点を当てた記事を以下に添付しておく。なお、この企画のため、本プロジェクトで制作した課題文についても、名称などを利用することについて、(商標登録)「クロスロード」の創作者「クロスロード研究会」の吉川肇子・慶應義塾大学商学部教授との間で覚え書きを交わして許可をえている。

平成30年に神戸大学出版会から刊行の改訂新版『石の綿—終わらないアスベスト禍』の制作に携わってきたメンバーを中心に、「実用マンガ」の描き手、日本語研究者、イタリアのアスベスト・マンガの制作者も加えて、2019年3月3日に開催されたシンポジウムのセッションの討議内容が令和2年3月に神戸大学出版会から刊行の『マンガ/漫画/MANGA—人文学の視点から』前川修・奥村弘編の5章「機能マンガの可能性：日本とイタリアのアスベスト・マンガから考える」に採録された。

〔第3編 複製物 複製可〕
毎 日 新 聞

# 石綿の教訓 ゲームで

阪神大震災 25年

11日 神戸のシンポで披露

## 災害時の危険「正答なき問い」

クロスロード

難しい判断を迫られる「災害対応のシナリオ」を模擬体験できるカードゲーム。阪神大震災を経験した神戸市職員へのインタビューを基に、京都大防災研究所の矢守克也教授と慶応大の吉川肇子教授、ゲームクリエイターの網代剛さんが開発した。2004年に神戸編「一般編」が完成し、「市民編」などさまざまなバージョンも5人程度でプレイし、設問に対して「YES」か「NO」のカードを示して自分の考えを述べ、異なる意見や価値観に気づくことで問題への理解をより深めることが可能。



クロスロードの震災アスベスト編をプレーする松田毅・神戸大教授(後列右端)の研究室学生ら—神戸市灘区の神戸大で、近藤論撮影

東日本大震災で発生したがれきにあすベスト飛散防止剤を散布する関係者—宮城県石巻市で2012年2月20日、石川忠雄撮影

阪神大震災では、がんの一種「中皮腫」の原因となる石綿が使用された建物を、散水などの対策を十分にとらないまま解体したケースが多く報告されている。2008年以降、復旧作業で吸い込んだ石綿が原因で中皮腫になった男性4人が労災認定され、兵庫県警の警察官だった男性1人も公務災害と認められた。

直接作業にあたらなくても、建物の解体に伴い、石綿が大気中に飛散することもある。東日本大震災(11年)の被災地でも大気中から規制基準以上の石綿が確認された。石綿疾患は潜伏期が十数年、30年超とされ、今後、被害の顕在化が懸念されている。

松田教授らが考案したのは、阪神大震災で直面した正解のない問い—に向き合うためのゲーム「クロスロード」の震災アスベスト編。勝敗を争いながら、他人の意見を聞き、自身の考えを深める。

石綿による健康リスクを研究している松田教授は、これまで漫画やパンフレットで危険性について啓発してきた。さらにより自らの問題として捉えてもらおうと、今回、京都大防災研究所の矢守克也教授らが開発したクロスロードを活用することにした。

松田教授の研究室の学生の協力を得て、石綿患者の支援団体などに聞き取りし、専門家の助言も受けながら、10問を作成。試しに中学生に実演してもらったところ「老人に1枚しかない防じんマスクを譲るか」の問いでは「石綿疾患は潜伏期間が長い。後で出会う。若い人に譲るためにも今は譲らない方がいい」という答えが寄せられたという。

松田教授は「石綿は身近に潜んでいる深刻な問題。楽しみながらゲームに取り組んでもらうことで、震災で得た貴重な教訓を継承していきたく」と話している。





[5] 『21 世紀倫理創成研究』

Journal of Innovative Ethics 第 13 号の刊行。ギリシャ、スイスの留学生の寄稿などを含め、5 編の論文掲載および、「メタ科学技術研究ワークショップ」の成果を紹介した。

平成 21 年 4 月に始まったリポジトリ Kernel のアクセス統計では本雑誌へのアクセスは、累計で令和 2 年 1 月末に約 5.3 万件であった。多いものは 1 万件を超えている。

[6] 「メタ科学技術研究プロジェクト：方法・倫理・政策の総合的研究」の推進

「領域開拓プログラム」「生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究—21 世紀型参加のビジョンと試行」とも連動させ、本年度は以下のワークショップを行った。

- ・第 35 回メタ科学技術ワークショップ (WMST と略) 4 月 26 日、田坂さつき・立正大学文学部教授 (日本学術会議 24 期哲学委員会「いのちと心を考える」分科会委員長)「ゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して—科学技術イノベーションと人間の尊厳」
- ・第 36 回 WMST、5 月 24 日、山崎寿一・神戸大学大学院工学研究科教授、「設計科学と計画学—建築・設計・計画—」
- ・第 37 回 WMST、6 月 28 日、柳川隆・神戸大学大学院経済学研究科教授、高橋裕・神戸大学大学院法学研究科教授、「人文社会科学の融合研究を考える」
- ・第 38 回 WMST、7 月 25 日、標葉隆馬・成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科准教授、「萌芽的科学技術を巡る責任ある研究・イノベーションの実現に向けたアーキテクチャの構築試行」、河村賢・成城大学博士研究員「先端科学のデュアルユース言説に見る境界設定作業」
- ・第 39 回 WMST、8 月 1 日、正村俊之・大妻女子大学教授 (東北大学名誉教授)、「科学技術の時代における民主的な意思決定—リスク・無知・合意」
- ・第 40 回 WMST、9 月 24 日、青井貴之・神戸大学大学院医学研究科教授 (iPS 細胞応用医学分野・科学技術イノベーション研究科先端医療学分野)、「再生医療の研究・開発に関する諸問題」
- ・第 41 回 WMST、12 月 5 日、丸山徳次・龍谷大学名誉教授 (龍谷大学里山学研究センター・フェロー)、「問題共同体としての里山学—龍谷大学〈里山学研究センター〉の 16 年」
- ・第 42 回 WMST、12 月 20 日、水野祐・弁護士 (シティライツ法律事務所)、「創造性・イノベーションを加速するための法のデザイン」
- ・第 43 回 WMST、2020 年 1 月 16 日、伊藤邦武・龍谷大学文学部教授 (京都大学名誉教授)「科学技術に関する先端融合研究を考える：人文社会科学の観点を中心に」
- ・第 3 回先端科学技術の公共性を討議する国際ワークショップ (第 44 回 WMST) 3 月 2 日 Focusing on Intellectual Property  
基調講演：Merges Robert P. Professor, University of California at Berkeley: “Justifying Intellectual Property”  
Tamura Yoshiyuki, Professor, The University of Tokyo: “A Theory of Intellectual Property”  
Yamane Takakuni, Professor, Doshisha University: “Conflict between Rights-based Theory and Utilitarian Theory in the field of IP”

(なお3月3日に Focusing on Science and Value として基調講演：Heather E. Douglas, Associate Professor, Michigan State University：“Science and Values: The Challenges of Authority and Accountability”

Otsuka Jun, Associate Professor, Kyoto University: “What is a good model? Pragmatic aspects of machine learning”

Kanzaki Nobutsugu, Professor, Nanzan University: “At the nexus of society and technology: transdisciplinary research and social acceptability”を予定していたが、新型コロナウイルス肺炎流行から講演者が来日中止となり、開催を見合わせた。)

なお、プロジェクト開始以来の成果の一部が2020年度に、英文の論文集 *Risks and the Regulation of New Technologies*, (Kobe University Social Science Research Series, Springer) 本研究科の松田毅、ジョナサン・ウルフ・オクスフォード大学ブラバトニック公共政策大学院教授、柳川隆・経済学研究科教授の3名の共編著として刊行される。

#### [7] 今後の課題

2022年から始まる第4期中期計画以降を考えると、新しい発想も必要であると認識している。この課題についても、中堅および若手の教員と相談しながら、プロジェクトの遂行を通じて、対応していきたい。

## II-4. 日本文化社会インスティテュート

### [1] 目的

日本文化社会インスティテュートは、日本語日本文化教育プログラム、KOJSP、グローバル人材育成などの関連事業を総括するため、2014年4月に発足した。日本文化、社会に関する教育・研究および日本における人文学の教育・方法を、国際交流を通じて深化・発展させることを目的としている。

### [2] 活動内容

活動内容については、第2部 I-1 運営費交付金機能強化経費：実践型グローバル人材育成事業「日本語教育・日本研究を中心とした実践型グローバル人材育成事業」(66～69頁)を参照のこと。

### [3] 今後の活動

今までに構築された、主にオックスフォード大学、ヴェネチア大学、ハンブルク大学などの日本研究者との連携を中軸としつつ、新たに、ベオグラード大学などの東欧圏やハワイ大学などの環太平洋地域の研究者も加えたネットワークを発展させ、学際的・境界横断的日本研究を展開させることを目指す。また、全学的教育プログラムである「現代日本プログラム」や、神戸大学「アジア総合学術研究センター」における国際的日本研究プロジェクトなどとも連携しながら、さまざまな教育研究プログラムを実行する予定である。

## II-5. ESD コース（持続可能な開発のための教育コース）

### [1] ESD サブコースの実施状況

文学部では2019年度は、ESD 関連の全学共通科目の担当および哲学・社会学・地理学専修が共同して、以下の授業を行った。

#### 2019年度文学部 ESD コース科目授業一覧

科目名	学期・時限	担当専修（教員）	備考（読替など）
ESD 論 A と B	(後期)水・5	5学部合同	1年生対象
環境人文学講義Ⅰ	(前期)月・2	哲学・社会学・地理学など	2年生以上
環境人文学講義Ⅱ	(後期)月・5	福島あずさ（地理学非常勤）	自然地理学
ESD 演習Ⅰ	(月曜 4/5 時限隔週)	哲学（松田）	
ESD 演習Ⅱ	(後期)水・2	地理学（藤田）	地理学演習Ⅱ

以下では、本年度に文学部で開講、実施された科目についてのみ報告する。

・環境人文学講義Ⅰの授業内容は以下の通りである。

回	日程	授業内容
1	4/8	「導入」松田毅（哲学）
2	4/15	「原発事故と地域」酒井朋子（社会学）
3	4/22	「原発問題再考」白鳥義彦（社会学）
4	5/6	「エネルギーの倫理学」松田毅（哲学）
5	5/13	気候変動とエネルギー（気候ネットワーク：豊田陽介）
6	5/20	地方自治体の脱炭素社会への取り組み（宝塚市役所：荒木孝昌）
7	5/27	「アスベスト問題とクロスロード」松田毅（哲学）
8	6/3	第1Q 試験
9	6/10	「人の死に際をめぐる生命倫理的考察」茶谷直人（哲学）
10	6/17	「生殖と生殖技術」中真生（倫理）
11	6/24	「震災経験が伝える死とは何か」奥堀（哲学・日本学術振興会）
12	7/1	「五輪・万博と都市下層社会（1）」原口剛（地理学）
13	7/8	「五輪・万博と都市下層社会（2）」原口剛（地理学）
14	7/15	「地域社会と外国人住民Ⅰ」NPO 法人「にほんご豊岡あいうえお」岸田尚子
15	7/22	「地域社会と外国人住民Ⅱ」（同上 岸田尚子）
16	7/29	第2Q 試験

・環境人文学講義Ⅱ

この講義は、福島講師が自然地理学の観点から、気候や水文、地形（植生・土壌）などによって形成される自然環境およびこれと関わる人間活動に注目し、地域をフィールドに、様々な事例を取り上げた。自然地理学の基本的知識を習得して現象のメカニズムを理解し、今後の問題解決の方向性について考察する力を養った。

## ・ESD 演習I

福島原発事故とパリ協定が象徴する気候変動を前提に、次世代エネルギーの倫理を取り上げた。ワークショップ形式で授業を行い、神戸市灘区の石炭火力発電所をめぐる訴訟の原告を講師に招いたほか、宝塚市の市民太陽光発電所を見学し、関係者からお話をうかがう機会ももった。授業は基本的に隔週、2コマ続きで実施した。

回	日程	授業内容
1	4/8	導入：担当教員による授業内容の説明、グループ分け
2	4/22	ワークショップ(1)：グループ作りと相互理解（大学院生の問題提起）
3	4/22	ワークショップ(2)：課題の再確認・グループでの問題設定
4	5/13	ワークショップ(1)：前回の課題について、結果の紹介と質疑
5	5/13	ワークショップ(2)：グループでの課題決定、報告
6	5/27	第1Qの振り返り：目標・課題の再確認、個人の間接報告（Q&A）
7	5/27	グループワーク：第2Qの課題共有と調査のための予備討論
8	6/10	未実施の大学院生の間接報告（Q&A）
9	6/10	灘区の石炭火力発電所建設問題：原告との対話と質疑応答
10	6/17	ワークショップ(1)：前回のレフレクション
11	6/17	ワークショップ(2)：宝塚すみれ発電見学事前学習
12	7/1	宝塚すみれ発電見学（宝塚市役所地域エネルギー課荒木さん協力）
13	7/1	同上（NPO 法人新エネルギーをすすめる宝塚の会田中代表理事協力）
14	7/8	ワークショップ：前回のレフレクションと最終報告準備
15	7/22	最終報告会（第1グループ） 1名15分で実施。
16	7/22	最終報告会（第2グループ）

## [2] 評価と課題

コース発足以来、核となっていた教員が定年退職し、抜ける時期になった。経済学部と文学部の合同授業も、経済学部の教員が退職したため、2019年度は文学部単独で行った。文学部でも教員の世代交代を踏まえた再構築が必要となると考える。

### Ⅲ. 社会貢献

#### Ⅲ-1. 公開講座

文学部・人文学研究科では、地域の方を対象に毎年度公開講座を実施している。平成30年度には、『とき』の「人文学」をテーマとして、次のとおり実施した。

#### 令和元年度公開講座 「とき」の人文学

概要	<p>今年は、神戸大学文学部の創立 70 周年にあたります。また、5 月には日本の元号が変わりました。この機会に、「とき」についてあらためて考えてみたいと思います。</p> <p>アウグスティヌス (354-430 年) は『告白』の中で「ではいったい、時間とは何でしょうか」と問い、「私たちが会話のさい、時間ほど親しみ深く熟知のものとして言及するものは何もありません。それについて話すとき、たしかに私たちは理解しています。他人が話すのを聞くと、たしかに私たちは理解しています」と述べますが、しかし「たずねられて説明しようと思うと、知らないのです」と続けます。</p> <p>たしかに、時間は身近なものですが、いざそれが何であるかと問われると、答えるのは容易ではありません。しかも、時代や社会が異なれば、「とき」の意識や感覚も違ってきます。「とき」について、人文学の諸分野でさまざまなアプローチが考えられますが、今回は次のようなテーマを取り上げます。</p> <p>「とき」を超えて過去の日本語の姿に迫るにはどうしたらよいのでしょうか。自分の時間を紡ぐ行為である自伝を通じて見える現代中国の自己認識の変化とはどのようなものでしょうか。空間を対象とする地理学で「とき」はどのように研究されているのでしょうか。そして、19 世紀前半から現在に至るまでのフランス文学で「時間」はどのように描かれてきたのでしょうか。知的なひとときをお楽しみいただければと思います。</p>
開講期間	2019年10月5日(土) 午後1時30分～午後4時50分 * 2019年10月12日(土)にも第3、4回の講義を予定していたが大型台風の接近に伴い中止とした
時間数	3時間 (1回1時間半の講義を合計2回)
場所	神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室
受講対象者	一般市民、学生
募集人数	80名
受講料	無料

なお、平成29年度から平成30年度までの公開講座のテーマと概要は次のとおりである。

	テーマ	概要
平成29年度	詩と謡	太古より人は声を発し、うたを謡い、詩を詠じてきました。しかし、印刷文化が発展するなかで、私たちはことばに宿る「声」の要素（オラリティ）よりも、書かれた文字（テキスト）を重視するようになってきました。文字に向き合うことの多い文学部の学びにおいても、ことばの聴覚性、身体性が意識されることは少なくなってきたといえるでしょう。しかし昨年、ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したことをきっかけに、謡の文学性について改めて注目が集まっています。そこで今年度は、文学、歴史学、言語学の立場から、文字に書かれ視覚を通して認識される詩と、音声として発せられ聴覚を通して認識される謡との関係性に目を配りつつ、詩とは何か、謡とは何かを改めて問い直し、それらの成り立ち、さらに人の思考とのつながりなどについて考えてみたいと思います。
平成30年度	「嘘」の人文学	嘘をつくことは、普通よくないこととされています。しかし、人々が楽しむフィクションの世界や政治的な発言の場などで、嘘が効果的に用いられていることも事実です。人はそれを嘘とわかって楽しむこともありますし、嘘に踊らされて思わぬ本心を吐露することもあります。そもそも、人間が言語を用いる生物である以上、誤認や伝達ミス、あるいは送り手と受け手の解釈のズレにもなっていて、あたかも誰かが嘘をついたかのような出来事がたまたま生じてしまう可能性は常にあります。真実はひょっとすると、嘘の裏側にあるのかもしれませんが。こうした観点から、たとえば人間を「嘘をつく動物」ととらえたとき、文化の営みはどのようなものに見えるのでしょうか？ もちろんこうした問いかけは、「ポスト・トゥルース」の時代とも言われる現代をよりよく知るための一助ともなります。この講座では、人文学の様々な現場から、「嘘」について改めて考えてみたいと思います。

### Ⅲ-2. 高大連携事業

文学部・人文学研究科では、高大連携事業として出前授業、模擬授業等を行っている。2019年度に実施された出前授業、模擬授業等の概要は次のとおりである。

#### 2019年度実施の出前授業・模擬授業等

高校名	実施日	事業内容	
		事業内容	詳細
神戸大学附属中等教育学校	2019/6/11	出前授業	神戸大学 DAY
関西大倉高等学校	2019/6/24	出前授業	
神戸大学高大連携特別講義(公開授業)	2019/7/25	模擬授業	
東洋大学附属姫路高等学校	2019/7/29	模擬授業	
香里ヌヴェール学院高等学校	2019/9/18	出前授業	
和歌山県立田辺高等学校	2019/10/18	出前授業	
兵庫県立星陵高等学校	2019/10/25	授業見学	西洋史特殊講義(a)
〃	〃	その他	学部紹介・人文科学図書館見学
兵庫県立加古川西高等学校	2019/10/29	授業見学	国文学特殊講義(a)
〃	〃	授業見学	美術史特殊講義(a)
〃	〃	施設見学	学部紹介・人文科学図書館見学
鹿児島県立鶴丸高等学校	2019/11/1		
兵庫県立兵庫高等学校	2019/11/7	授業見学	人文学基礎・フランス文学(a)
〃	〃	授業見学	人文学基礎・言語学(a)
〃	〃	授業見学	芸術学特殊講義(a)
〃	〃	その他	学部紹介
兵庫県立長田高等学校	2019/11/11	出前授業	
神戸海星女子学院高等学校	2019/11/14	出前授業	
神戸大学附属中等教育学校	2019/11/16	模擬授業	
〃	〃	模擬授業	
神戸龍谷高等学校	2019/11/22	出前授業	
兵庫県立御影高等学校	2019/12/17	出前授業	

※出前授業：高校等へ本学教員を派遣し、授業を行うもの

模擬授業：「大学体験」として高校生への訪問を受け入れ、高校生向けの授業を行うもの

授業見学：大学で実施される通常授業を高校生が見学するもの

施設見学：研究室見学を含む

その他：上記以外のもの

前頁掲載の表の最下段、兵庫県立御影高校との連携プロジェクトは、平成19年度から継続的に実施されている事業である。このプロジェクトでは、神戸大学文学部が高等学校地理歴史科教員免許取得希望者のために開講している「地歴科教育論」の一環として、兵庫県立御影高校総合人文コースの生徒たちがグループに分かれて「地域」をテーマとする課題研究（探究活動）に参加し、これを支援する取り組み（実習）を行っている。この取り組みは、国立大学の学部（大学院）と県立高校との個別かつ継続的な連携としては、全国的に見ても貴重な実践例であり、大学生（院生）と大学教員が高校生の学習を支援・指導し、高校教員も教員をめざす大学生を指導するという、相互にメリットがある取り組みとして継続されてきた。

## 第3部

### I. 外部評価

#### I-1. 外部評価委員会

日 時：2020年9月2日（水）10:00～12:15

場 所：オンライン開催

外部評価委員：上田 功（名古屋外国語大学教授／大阪大学名誉教授）

人文学研究科：奥村 弘（文学部長・人文学研究科長・地域連携センター）、長坂一郎（2019, 2020 年度評議員・新年度評議員）、白鳥義彦（2019 年度副研究科長・日本文化社会インスティテュート）、樋口大祐（2020 年度副研究科長・2019 年度大学院委員）、大坪庸介（2019, 2020 年度評価委員長）、中畑寛之（2020 年度大学院委員）、小山啓子（2019 年度教務委員）、茶谷直人（2020 年度教務委員）、大橋完太郎（2019 年度学生委員）、増記隆介（2020 年度学生委員）、松田毅（倫理創成プロジェクト）、濱田麻矢（海港都市研究センター）、中村秀幸（事務課長）、西田望智子（総務係長）、阪本祐二（教務学生係長）、



## I-2. 外部評価報告書

上田 功（名古屋外国語大学外国語学部教授／大阪大学名誉教授）

### 1 年次報告書について

いずれの項目も、これまでの経過を踏まえた現状、そして今後の課題等がわかりやすく記述されている。各項目によって、掘り下げ方の違いはあるものの、全体的に学部・研究科の全体像が把握できる報告書である。作成された委員会のご努力に敬意を表するものである。

### 2 教育

学部においては、「人間性」「創造性」「国際性」「専門性」という四つのディプロマ・ポリシーを掲げ、卒業生が身につけるべき能力を示し、それを叶える教育の柱を明確に掲げている。このディプロマ・ポリシーは、困難な時代、状況にあっても、人文的知識や能力によって、自ら考えて行動ができる人間を育てる教育方針に他ならず、高く評価できる。

具体的な教育は、基礎から専門へと進み、卒業論文を書かせるという一般的な形態であるが、学生の専修が多岐にわたっているので、1年次に各学生の専修の入門以外に、人文学全体を俯瞰し、その重要性や現代社会との係わりを講ずる、専修横断的な講義の充実を図ることができればよいと感じる。

特筆すべきは「神戸オックスフォード日本学プログラム」と銘打ったオックスフォード大学との国際連携である。この本学部独自のプログラムは、受入学生だけではなく、在校生にとっても大きな刺激になっているはずである。昨今さまざまなプログラムが立ち上げられるが、運営金が打ち切られると、すぐに終了してしまう事例が多いが、本プログラムが長く継続することを希望する。報告書によると、本プログラムの締結は平成23年で、実際の学生受入開始は24年となっている。受入留学生、担当教員、チューター等、関係者の数も増えてくるので、将来的には、これらの人々の協力を得て、さらに大きな国際連携のネットワークを形成できればよいと考える。

本学部では、他学部の専門科目の履修を30単位を上限として、卒業に必要な単位として認めている。またESDコースも評価すべき試みで、近年求められる分野横断的、文理融合的な教育の事例として評価すべきものである。留学については、我が国の主要交流国との交換が主たるものであるが、今後は、特に受入において、中南米や、中東、アフリカ等の国々と積極的に交流をおこなえば、さらに多様な国際性を育むことになろう。

研究科においては、大学や研究科の求める学生像を明示的に掲げ、そのなかでは国際性や研究倫理にも触れられている。これは、単に学生の研究に対して提供する優れた研究環境・プログラムだけを売り物にする研究科が多い中で、研究者養成の本質を見極めたものと言える。また学生ごとの履修カルテを作成し、節目節目に研究の進展をチェックするのもよい試みである。

授業アンケート結果もおおむね良好であるが、昨今大学院生に対してやや過保護の傾向が見られる。授業のわかりやすさは大切であるが、それがために知的レベルを落とすことがあってはならない。また、教

員プロフィールには、すべての教員の研究成果がまとめられており、各人が頑張っておられることがうかがえるが、大学院生は研究者としての教員の背中を見て育っていくので、毎年増加する大学行政等の仕事に負けずに、さらなる研究成果を上げられることを望む。

### 3 研究

研究においては、その目的に「卓越した研究成果を世界に発信する」と明記されている。近年分野を問わず研究成果の国際的な発信が求められており、専門家の厳しい査読を通過して、国際ジャーナルに一本でも多くの論考が掲載されることを希望する。同様に科研費等外部資金の獲得も、応募した研究が客観的に認められた証左となるので、採択率が増加傾向にあることは喜ばしい。受託研究も同様である。また本研究科の目的に「人文学のみならず他の専門分野の研究にも貢献する」とあるが、これに関しても、共同研究の件数が着実に増加していることは喜ばしい。このような資金に基づくプロジェクトは、さらに積極的におこない、人文学研究者は、象牙の塔に籠もって、ひとりて本を読んでいるという従来からのイメージを払拭して欲しい。

### 4 部局内センター

神戸大学は、特に西日本各地から学生が集まってくる我が国有数の国立大学であるという漠然としたイメージをもつ人が多い。しかしながら海港都市研究センターは、国際学会への参加を始め、多くの研究活動を積極的におこなっており、国際港湾都市神戸に立地しているという条件を最大限に活用していると言える。また地域連携センターでは、神戸市のみならず、兵庫県内の様々な自治体と連携して、本学部や研究科がこれまでに蓄積した知的財産を活用し、地域に貴重な貢献をおこなっている。こうしたセンターによる活動によって、港湾都市神戸や兵庫県にしっかりと根付いたうえで、全国的な国立大学法人としての責務を果たそうとしている神戸大学の姿が浮かび上がってくる。これらのセンターが今後も地元との関係強化に活躍することを希望する。

### 5 その他

今後、我が国の学問を取り巻く状況は厳しさを増すことが予想される。どの分野においても研究者は長期的な研究よりも目先の成果を出すことを要求され、研究倫理は軽んじられ、そのために研究のレベルは確実に下がっていくことが予測される。そのような時にこそ必要なのが、哲・史・文を核とした人文学の素養である。いかなる分野の大学生・大学院生であれ、今後大きく変化し続けていく社会において、その一員として様々な問題に立ち向かったり、研究者として自分の研究の意義を、社会や自らの人生の中に位置づけながら考える際に、人文学の知識や教養は欠かせない。有数の総合大学である神戸大学の文学部・人文学研究科は、全学に対しても、このような人文学教育のミッションを果たされることを希望してやまない。